
第 4 期 上越市中心市街地活性化プログラム

計画期間 令和 7 年度～令和 9 年度（3 年間）

目 次

I 中心市街地の概要	1
1 中心市街地の意義	
2 当市における中心市街地	
3 これまでの取組経過	
II 第 4 期プログラムの位置づけ等	5
1 策定の目的	
2 各種まちづくり計画との関係	… <u>修正あり</u>
3 計画期間	
4 中心市街地の区域	
III 中心市街地の現況	10
1 統計データからみた整理	
2 消費動向調査からみた整理	
3 区域の動向からみた整理	
4 今後の動き（予定されている主要イベント）の整理	
5 第 3 期プログラム期間中の取組状況	
IV 中心市街地活性化の方向性	26
1 中心市街地の課題	
2 基本的な方向性	
3 基本目標	
4 施策の柱	… <u>修正あり</u>
5 地区別プログラム	
6 プログラムの推進に向けて	… <u>修正あり</u>
V 資 料 編	43
1 統計データ集	
2 令和 6 年度上越市消費動向調査結果	
3 第 3 期プログラム期間中の各種取組の現況	

I 中心市街地の概要

1 中心市街地の意義

中心市街地は、商業、業務、居住等の都市機能が集積し、長い歴史の中で文化、伝統を育み、各種機能をつちかってきた地域です。

その一方で、都市機能の拡散やモータリゼーションの進展、流通構造の変化等による大規模施設の郊外立地、居住人口の減少などにより、全国的に中心市街地の衰退が課題となっています。中心市街地の活性化に向けて、長年、多様な支援措置を通じ、様々なハード整備やソフト面の取組が進められてきましたが、中心市街地の衰退に向かう状況に対しては歯止めがかかっていません。

こうした中、内閣府は、中心市街地のさらなる活性化方策を検討するため、中心市街地活性化評価・推進委員会を設置し（令和5年5月～令和6年2月）、その委員会が取りまとめた『今後の中心市街地活性化の重点課題 ～新たな「まちなか再生」に向けて～』では、「子どもの時代に中心市街地での思い出や経験がないまま大人になると、中心市街地に愛着を持つきっかけがなくなり、その状況が世代を超えて固定化するおそれがある」と指摘しています。また、「人の交流や多様な体験・経験により Well-being を高めることのできる、生活を充実させる場へと転換する視点」や「意欲のある若者や女性の様々なチャレンジを可能とし（中略）、地域への愛着を湧き起こす包摂性や多様性にあふれた都市のアイデンティティの中心とする視点」などのもとでの対応が必要であるとしているほか、「まちなかが魅力的なものとなることが地方都市再生の第一歩、地方創生の重要課題となることを再認識すべきであり、中心市街地の担うべき役割は非常に大きい」としています。

これらの指摘や考え方は、当市においても参考にすべきものと言えます。中心市街地とする区域については、まちづくりの重要なエリアに位置付け、重点的な投資を行ってきており、各種取組を推進する担い手を確保しつつ、これまでのストックを生かして期待される役割を果たす地域としていくことが必要です。

2 当市における中心市街地

当市においては、その歴史や機能から、高田区と直江津区の一部を中心市街地に位置づけています。以降、高田区の中心市街地エリアを「高田地区」、直江津区のエリアを「直江津地区」と表記します。

(1) 高田地区の概要

高田地区は、江戸時代の高田城築城（1614 年）に伴い、計画的に配置された都市骨格を継承しており、当時から上越地方の商業、経済、文化、教育の中心地として発展してきました。現在もまちの形は大きくは変わらず、本町通りを中心に商店が集積し、それを取り囲むように住宅が密集しており、日本一長い雁木通りや町家、寺町寺院群などの歴史的資産が数多く残っています。

市の最上位計画である第 7 次総合計画においては、これらの特徴を踏まえ、「すでに集積している都市機能やまちの歴史的価値をさらに高める観点から、必要な都市機能の集積や歴史的町並みの保存・活用を促進していく」としているほか、「歴史文化などの地域資源を活用したまちなかの回遊性の向上や空き店舗などの既存ストックの活用などにより、賑わいの向上を図る」としています。

(2) 直江津地区の概要

直江津地区は、海に開かれたまちとして古くから発展し、奈良時代には越後国府の要港として、明治期の直江津・上野間の鉄道開通後は新潟県鉄道発祥の地として、海陸交通の要衝として賑わいました。近年は直江津駅を中心にまちが形成されており、大手企業の工場群を有する工業のまちとして発展しました。

現在も、直江津港は国の重要港湾に指定され、直江津駅は信越本線・ほくほく線・妙高はねうまライン・日本海ひすいラインが結節するなど、交通の要衝となっています。

第 7 次総合計画においては、これらの特徴や「既存の都市機能に加え、商業、交流機能などの立地を促進し、鉄道沿線地域の拠点となるまちを目指す」とし、また、「歴史を感じさせるまちなみや日本海を一望できる景観などの個性的な資源を活用するとともに、近隣の直江津港や水族博物館などを生かし、市内外からの交流促進に寄与する機能の充実を図る」としています。

3 これまでの取組経過

(1) 主な経過

表 1-1 のとおり、市では関係者の皆さんとともに、中心市街地の活性化に取り組んできました。平成 20 年 11 月には、「上越市中心市街地活性化基本計画（高田地区・直江津地区）」を策定し、高田地区では旧高田共同ビル再生事業及び大和跡地拠点施設整備事業が、直江津地区では図書館等整備事業などが進められ、平成 26 年度をもって、これらの施設整備が完了しました。

表 1-1 中心市街地活性化の取組に関する主な経過

年	経 過
平成 18 年度 (2006)	・中心市街地活性化検討プロジェクトチームを設置、基本計画改訂版を作成
平成 19 年度 (2007)	・株式会社まちづくり上越を設立 ・上越市中心市街地活性化協議会を設立
平成 20 年度 (2008)	・中心市街地活性化基本計画(素案)を作成 ・内閣府が高田地区の中心市街地活性化基本計画を認定
平成 22 年度 (2010)	・大和上越店閉店 ・高田共同ビル(旧長崎屋ビル)閉館 ・直江津学びの交流館・図書館オープン
平成 23 年度 (2011)	・旧高田共同ビル跡地(旧長崎屋)複合ビルの起工式
平成 24 年度 (2012)	・大和上越店跡地の新商業施設「イレブンプラザ」起工式 ・旧高田共同ビル跡地建設中の再開発ビルの愛称を「あすとぴあ高田」に決定
平成 26 年度 (2014)	・第 1 期プログラム初年度 ・高田開府 400 年記念事業を実施
平成 28 年度 (2016)	・地域再生計画(城下町高田の歴史文化をいかした「街の再生」)の各種事業を開始 ・百年料亭ネットワーク設立
平成 29 年度 (2017)	・第 2 期プログラム初年度 ・市民交流施設高田城址公園オーレンプラザ オープン
平成 30 年度 (2018)	・上越市立水族博物館うみがたり オープン
令和元年度 (2019)	・水族博物館うみがたりオープン 1 周年記念イベントを開催
令和 2 年度 (2020)	・第 3 期プログラム初年度 ・複合施設うみらいず オープン ・無印良品直江津 オープン
令和 3 年度 (2021)	・D51 レールパーク オープン ・なおえつ うみまちアート初開催 ・直江津まちなか回遊促進プロジェクト 開始
令和 4 年度 (2022)	・新型コロナウイルス感染症の影響から、第 3 期プログラムの計画期間を 2 年間延長
令和 5 年度 (2023)	・水族博物館うみがたりオープン 5 周年記念イベントを開催 ・直江津駅前通り「互の市」が再開

(2) 中心市街地活性化プログラムの策定

市では、平成 26 年 3 月に、整備された施設を生かして商店街や市民団体の皆さんが実施するソフト事業を後押しし、また、その際の目標や課題等を関係者間で共有するため、「上越市中心市街地活性化プログラム」（以下、「プログラム」とします。）を策定しました。

第 1 期及び第 2 期プログラムでは、賑わい創出のためのイベント開催や担い手育成などに取り組み、また、令和元年に策定した第 3 期プログラムでは、高田地区・直江津地区のそれぞれに将来像や目標等を設け、それらに沿った取組を支援してきました。

表 1-2 中心市街地活性化プログラム各期の概要

	第 1 期プログラム	第 2 期プログラム	第 3 期プログラム
計画期間	H26.4～H29.3(3 年間)	H29.4～R2.3(3 年間)	R2.4～R7.3(5 年間) ※コロナ禍で 2 年間延長
掲載事業	高田:55、直江津:57	高田:46、直江津:49	(主な取組を例示)
目 標	街の賑わいの向上		つかいたいまち・高田 めぐる！楽しむ！直江津
成 果	- 各主体が自主的に事業の目標設定や課題抽出等を行うようになった。 - 団体間の事業連携への検討が進められた。 - 空き店舗数は、14 件となり、目標(17 件)を達成。	新規事業が創出された。(高田ではオープンガーデンと花めぐりなど、直江津では新水族博物館を核とした地域活性化 7 事業を実施)	- 第 2 期プログラム掲載事業の約半数が独自目標を達成。 - 高田では外国人誘客やコト消費の試行等の新たな取組が見られた。 - 直江津では、新水族博物館を活用した回遊促進や関係者の一体感の醸成が図られた。

Ⅱ 第4期プログラムの位置づけ等

1 策定の目的

本プログラムは、今後の中心市街地活性化の取組について、その方向性を示すものです。

第3期プログラムと同様に、「各種取組の実施主体となる商店街や商工団体、市民団体等と支援機関、行政機関が、長期的に目指すまちの姿と目標、基本方針などを共有し、中心市街地の機能や魅力の維持・向上に取り組むこと」を策定の目的とします。

さらに、コロナ禍を経て各種取組が再開され、新たな人々との関わりも見られる中において、あらためて中心市街地の意義を認識し、中心市街地における課題や動向などを踏まえて各種取組を展開していく際の基軸として、本プログラムを活用していくこととします。

2 各種まちづくり計画との関係

(1) 総合計画との関係

本プログラムは、これまでと同様に、総合計画を上位計画とし、その将来都市像や基本目標などの実現を目指すための計画の一つに位置づけます。

第7次総合計画においては、中心市街地や各区総合事務所の周辺、広域交通の結節点の周辺などを「拠点」と位置付け、拠点が備える機能に応じて「都市拠点」、「地域拠点」、「生活拠点」、「ゲートウェイ」の4つに区分し、暮らしを支える都市機能が集積したまとまりのある拠点の形成を図ることとしています。

中心市街地の区域に含まれる高田駅及び直江津駅の周辺地区については、多様な人々や団体が集まり、交流や連携が生まれる賑わいのある「都市拠点」に位置付け、「都市機能の集積を図る」、「賑わいのある拠点を目指す」といった拠点整備の考え方のほか、それぞれの都市拠点について、その考え方を示しています。

参考：第7次総合計画における都市拠点（高田駅周辺・直江津駅周辺）の考え方

● 高田駅周辺

- ・ 雁木や寺町などの歴史的なまちなみを有し、多様な都市機能が集積している特徴を踏まえ、すでに集積している都市機能やまちの歴史的価値をさらに高める観点から、必要な都市機能の集積や歴史的まちなみの保存・活用を促進します。
- ・ また、歴史文化などの地域資源を活用したまちなかの回遊性の向上や、空き店舗などの既存ストックの活用などにより賑わいの向上を図ります。

● 直江津駅周辺

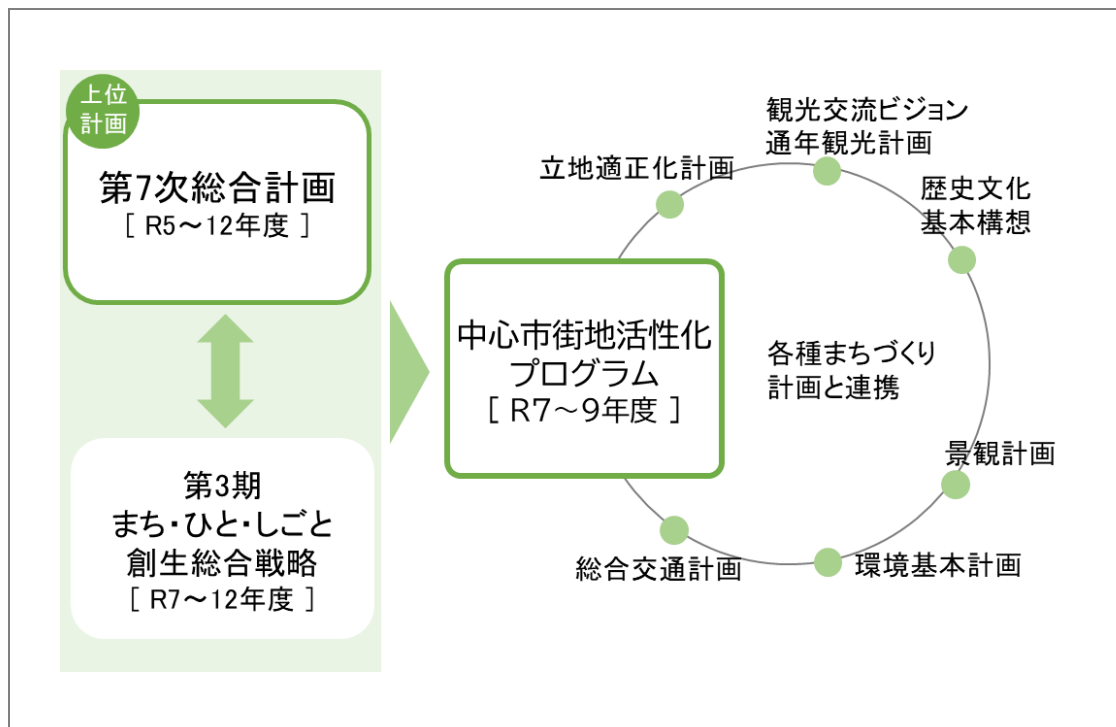
- ・鉄道が結節する交通の要衝としての特徴や、既存の都市機能に加え、商業、交流機能などの立地を促進し、鉄道沿線地域の拠点となるまちを目指します。
- ・また、歴史を感じさせるまちなみや日本海を一望できる景観などの個性的な資源を活用するとともに、近隣の直江津港や水族博物館などをいかし、市内外からの交流促進に寄与する機能の充実を図ります。

本プログラムを推進する際には、この「都市拠点の考え方」を踏まえるとともに、本プログラムに沿った各種取組を通じて、総合計画の掲げる将来都市像である「暮らしやすく、希望あふれるまち」につなげていくこととします。

(2) 各種まちづくり計画との関係

市が策定する各種計画においても、高田地区・直江津地区の位置づけやまちづくりの方向性が示されており、例えば、立地適正化計画では「都市機能を誘導する地域」とし、また、通年観光計画では「広域からの集客が見込める地域として重点的に観光地域づくりに取り組む」としています。こうした各種計画における高田地区・直江津地区の位置づけ等を踏まえ、本プログラムは、中心市街地の活性化に向けた商業機能の維持・拡充を図りつつ、関係する皆さんと各種取組を連携・協働していく上での方向性をまとめたものとします。

図Ⅱ-1 各種まちづくり計画との関係図



3 計画期間

本プログラムの計画期間は、これまでと同様に3年間とし、令和7年度から令和9年度（令和7年4月から令和10年3月）までとします。

なお、社会情勢等の変化に伴い、施策等の見直しを必要とする場合には、適宜プログラム期間を変更します。

4 中心市街地の区域

本プログラムにおける中心市街地の区域は、これまでと同様に、上越市中心市街地活性化基本計画（平成20年度策定）で定めた区域を踏襲することとします。具体的な範囲については、次のとおりです。

1 高田地区における区域（面積：約143ha、図Ⅱ-2 参照）

- ・ 東側：青田川
- ・ 南側：（都）本町大貫線～えちごトキめき鉄道（妙高はねうまライン）～東本願寺高田別院参道～高田別院の南側道路
- ・ 西側：上越市福祉交流プラザの西側道路～寺町地区の西側の道路
- ・ 北側：（都）本町長面線とその延長上にある道路（但し、一部は道路の北側街区まで含む）

備考）上越市中心市街地活性化基本計画における区域設定の考え方

- ① 雪国の生活から生まれた雁木や明かり窓がある町家等歴史的・文化的資源、朝市、寺町寺院群を結び、まちの回遊性が図られる区域
- ② 商店街の近代化事業により整備された本町3～5丁目商店街並びに高田駅前通りの魅力向上が図られる区域
- ③ まちなか居住の推進が可能な歩いて暮らせる範囲

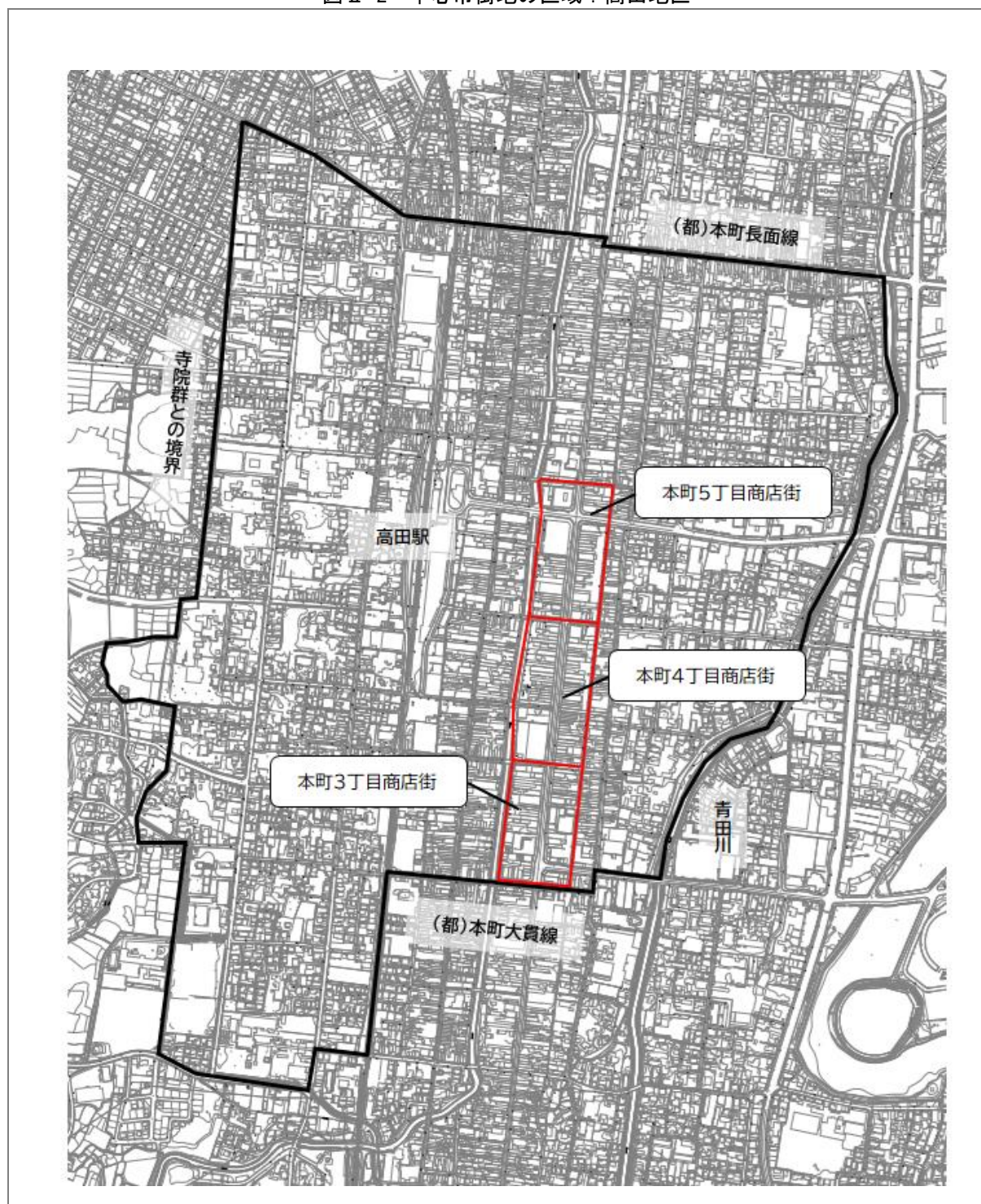
2 直江津地区における区域（面積：約116ha、図Ⅱ-3 参照）

- ・ 東側：関川
- ・ 南側：信越本線・えちごトキめき鉄道各線と直江津駅南口直近の東西通り
- ・ 西側：上越大通り、有料老人ホーム及び水族博物館
- ・ 北側：日本海

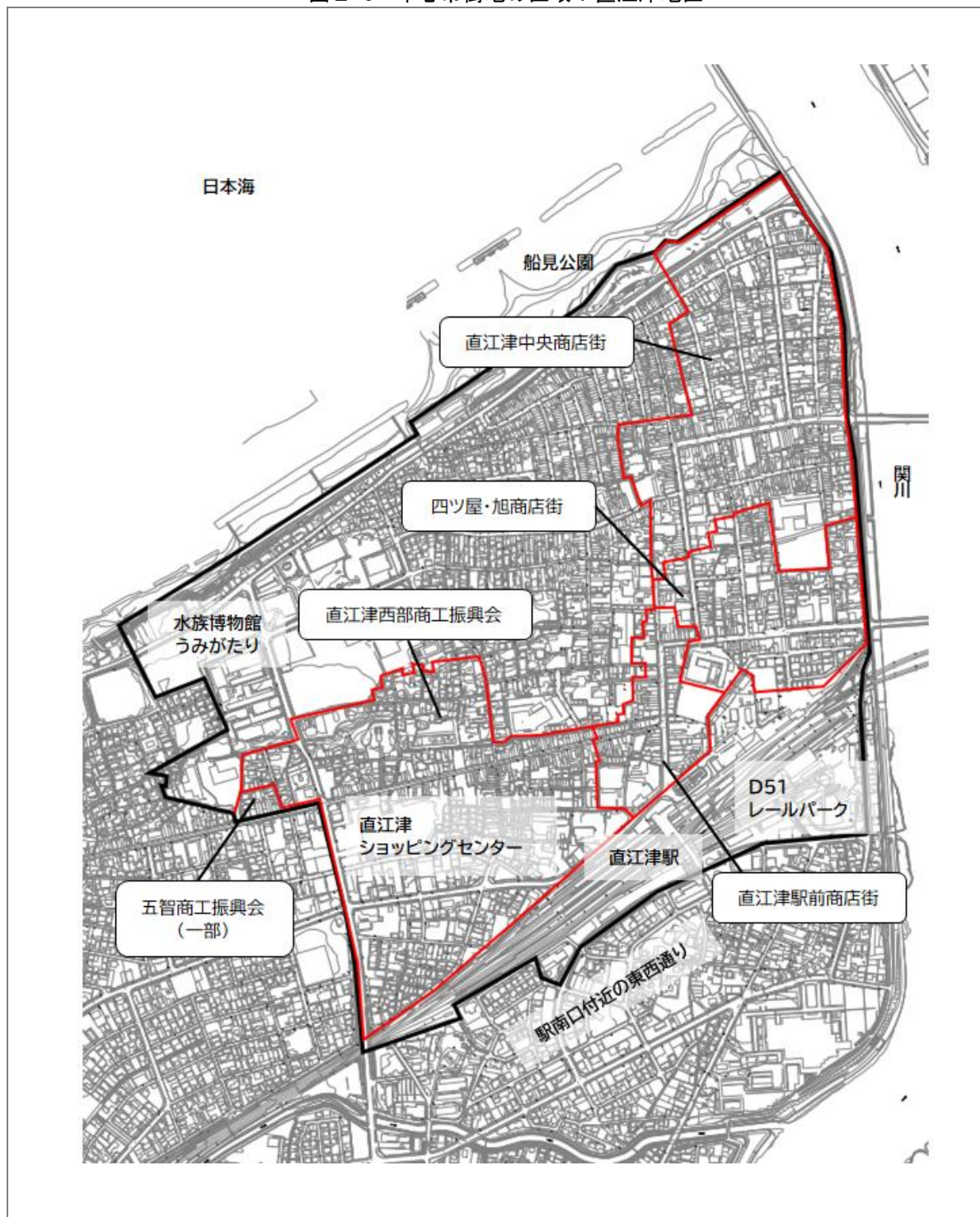
備考）上越市中心市街地活性化基本計画における区域設定の考え方

- ① 駅を中心とした街の賑わい創出を図れる範囲（駅から歩いて概ね20分程度の範囲）
- ② 水族博物館やビーチバレーコートなど、直江津地区が持つ海の魅力や拠点となる施設を有機的に結び、交流の拡大を図れる範囲
- ③ まちなか居住の推進が可能な歩いて暮らせる範囲、並びに町の形成状況や一体性、人口動向が類似する範囲

図Ⅱ-2 中心市街地の区域：高田地区



図Ⅱ-3 中心市街地の区域：直江津地区



Ⅲ 中心市街地の現況

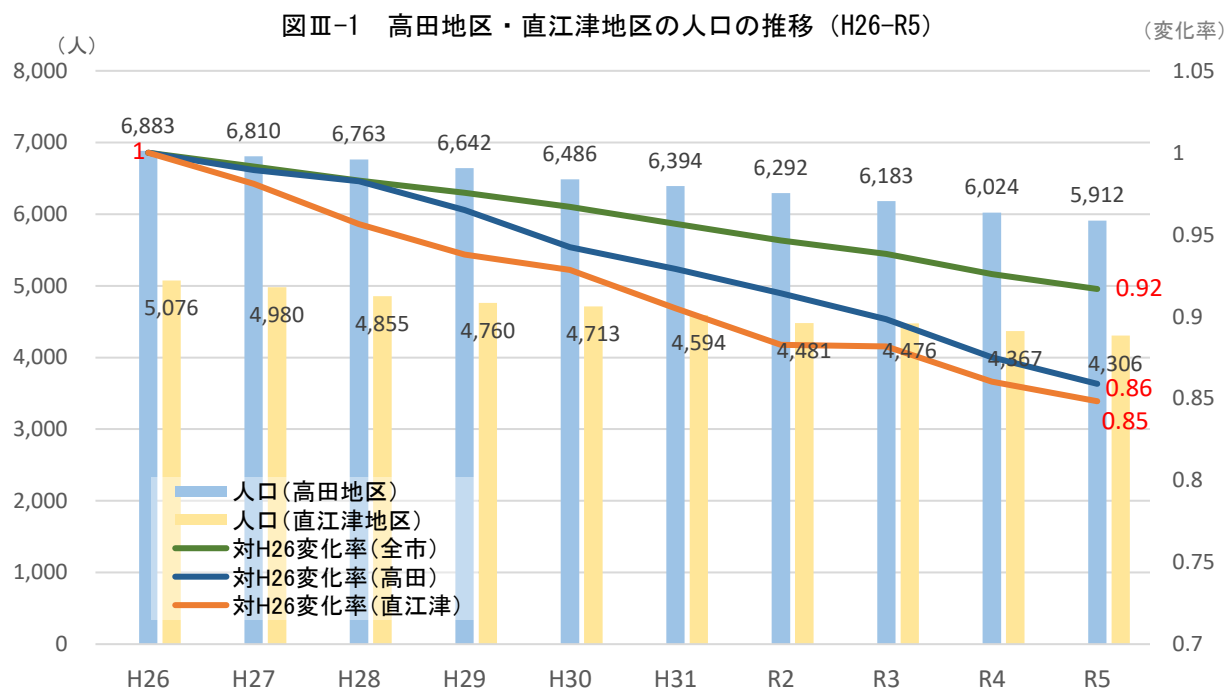
第3期プログラムにおいて「本プログラムの最終年度には、上越市消費動向調査の結果を含む数値データの分析及び目標の達成状況、取組結果等を評価し、以降のプログラムの検討に活用します。」としており、関係する動向なども含め、中心市街地の現況を整理します。

なお、統計データや消費動向調査の結果の詳細は、「V資料編－1、2」に掲載しています。

1 統計データからみた整理

(1) 人口の推移

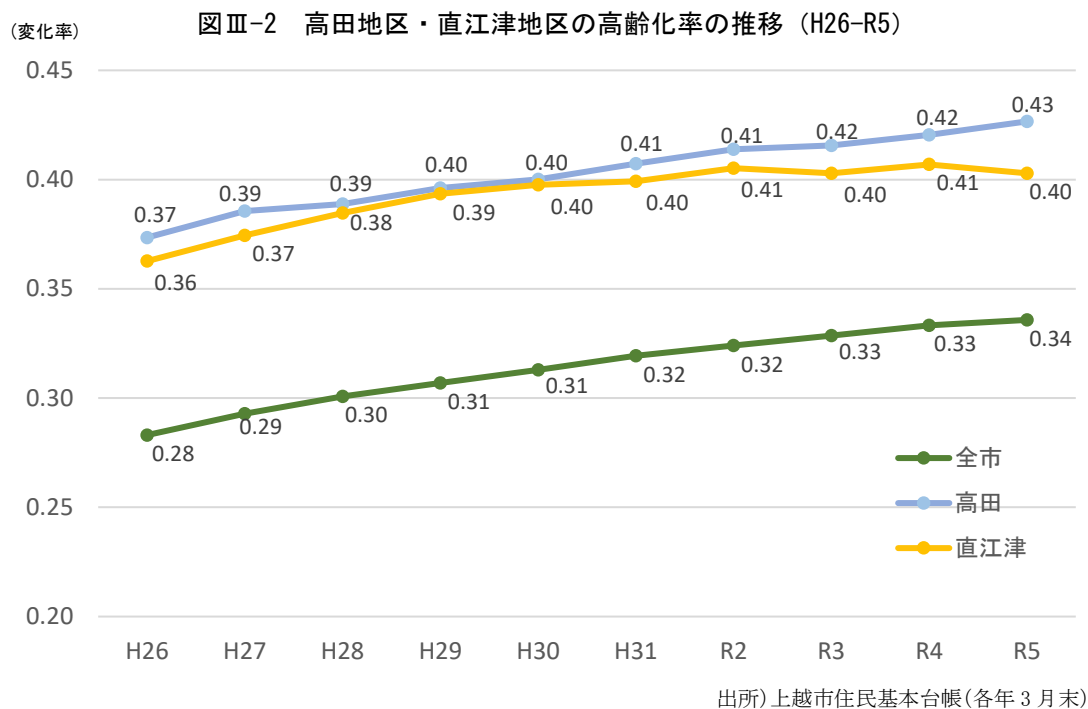
高田地区・直江津地区ともに人口減少が進行しており、第1期プログラムの初年度（平成26年度）との比較を見ると、その変化率は全市の動きよりも大きくなっています。



出所) 上越市住民基本台帳(各年3月末)

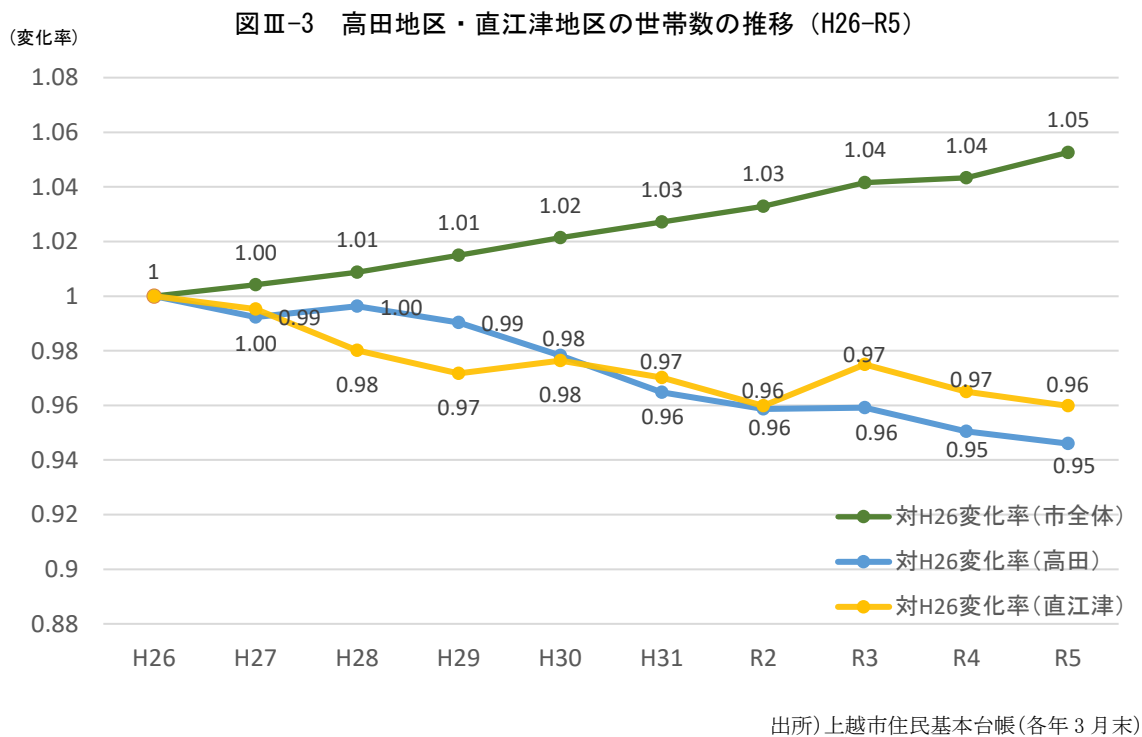
(2) 高齢化率の推移

高田地区・直江津地区とも、平成30年頃から高齢化率（65歳以上の人口割合）は約40%となっています。なお、直江津地区においては、近年その動きが緩やかになっています。



(3) 世帯数の推移

世帯数は、全市では増加していますが、高田地区・直江津地区では減少傾向にあります。



(4) 転出入の動き

高田地区・直江津地区とも、関東圏への転出が多くなっています。また、高田地区では合併前上越市の各地区へ、直江津地区では中心市街地の区域以外の同地区内への転出が多くなっています。

図Ⅲ-4 高田地区の転入・転出先別の人口増減（H30-R5）

単位:人



備考) 転入・転出の合計値には職権記載・消滅及び不明分を含む 出所) 上越市住民基本台帳データをもとに上越市創造行政研究所作成

図Ⅲ-5 直江津地区の転入・転出先別の人口増減（H30-R5）

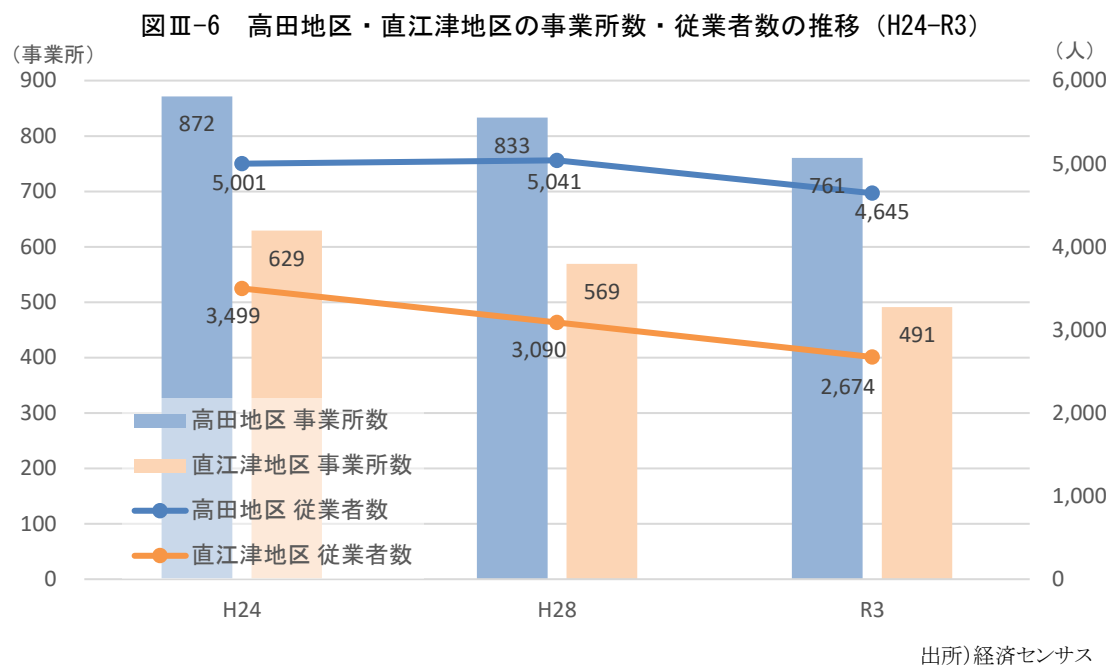
単位:人



備考) 転入・転出の合計値には職権記載・消滅及び不明分を含む 出所) 上越市住民基本台帳データをもとに上越市創造行政研究所作成

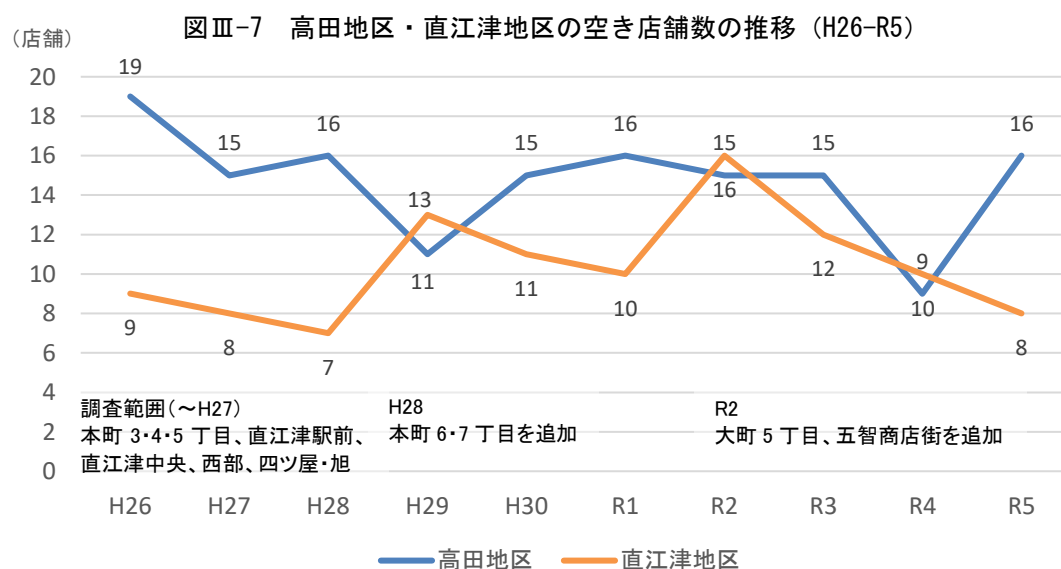
(5) 事業所数・従業者数の推移

高田地区・直江津地区とも、事業所数・従業者数ともに減少傾向にあります。高田地区は、平成 24 年から 28 年の間は、従業者数は維持していましたが、平成 28 年からの 5 年間で減少に転じています。



(6) 空き店舗数の推移

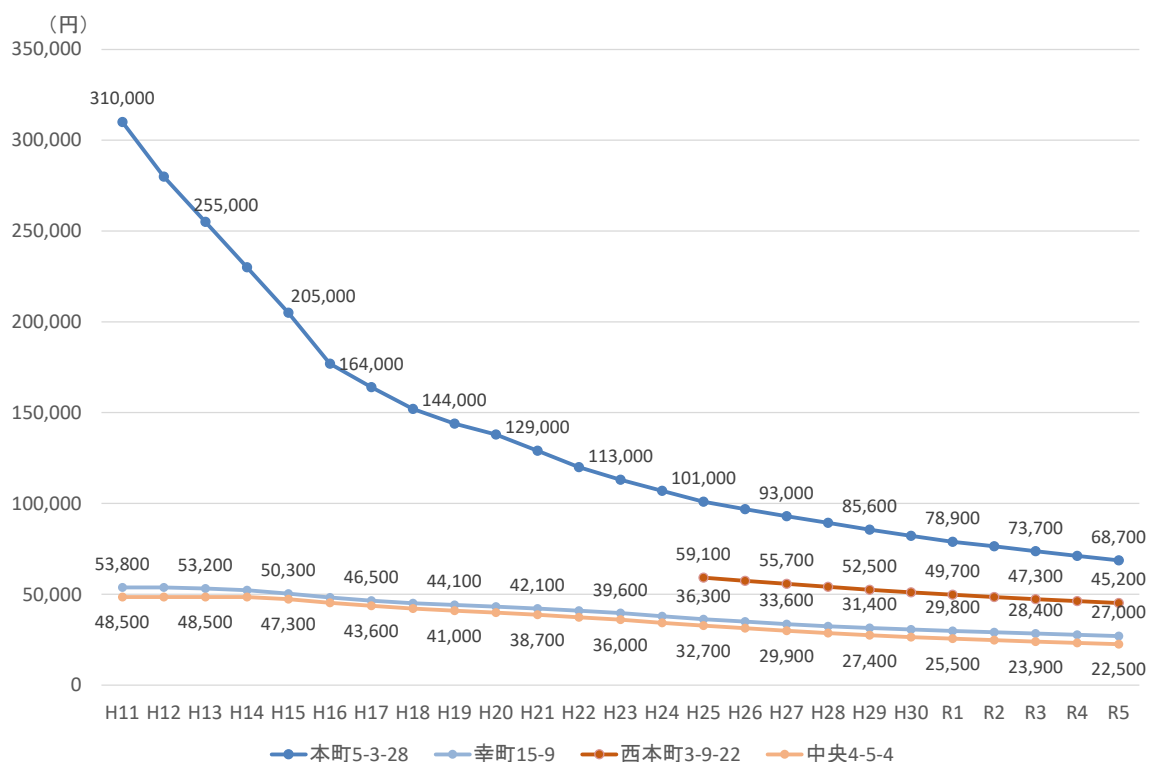
高田地区・直江津地区ともに新規出店の動きはありますが、継続的に空き店舗が発生しています。



(7) 地価（公示価格）の推移

高田地区・直江津地区とも減少傾向にあり、特に、本町 5 丁目の減少率が大きくなっています。なお、中心市街地の地価下落は、土地の固定資産税収入の減少につながり、市の財政にも影響を与えることになります。

図Ⅲ-8 高田地区・直江津地区の公示価格の推移（㎡あたり）（H11-R5）



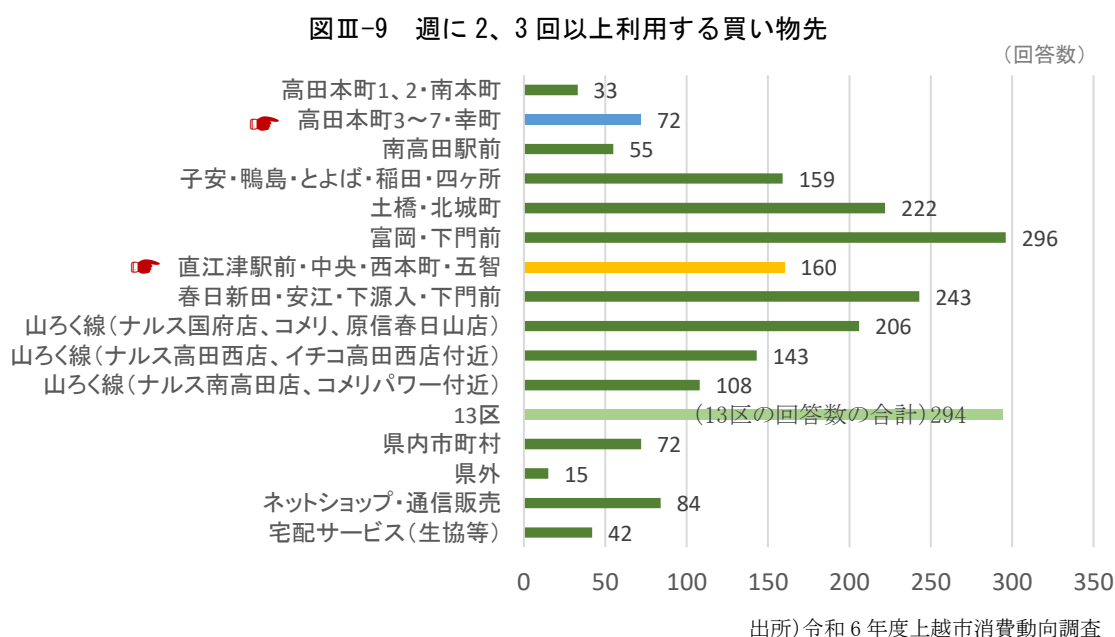
備考) 各年 1 月 1 日時点、西本町 3 丁目は平成 25 年から出所)新潟県土木部

2 消費動向調査からみた整理

市民の買い物行動などの現況を把握するため、市民を対象としたアンケート調査を実施しました。市民 5,000 人を無作為抽出し、2,282 人（回収率 45.6%）から回答を得ました。

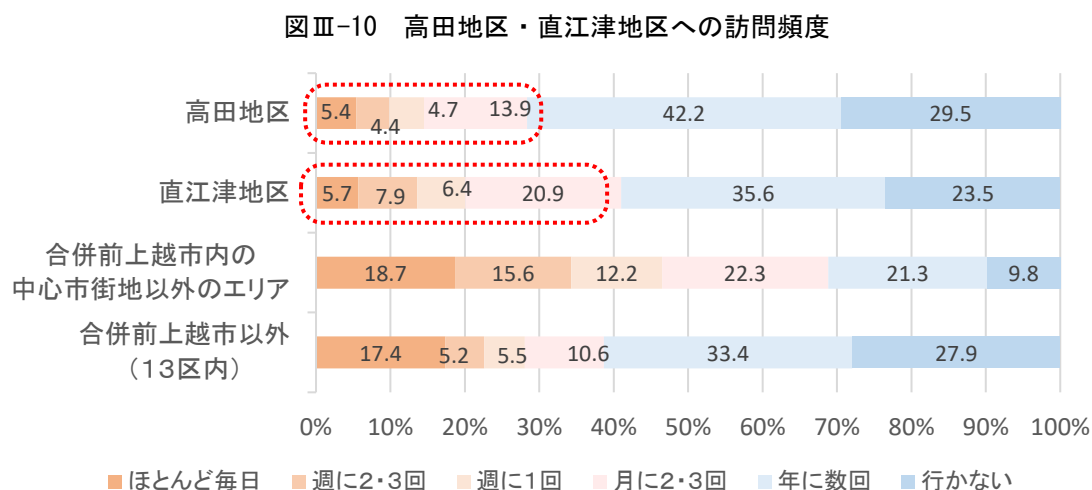
(1) 市民の買い物動向

「週に 2、3 回以上利用する買い物先」として、最も回答数が多いのは「富岡・下門前」です。また、これに次ぐ回答のいずれも、ロードサイド店舗のあるエリアとなっています。



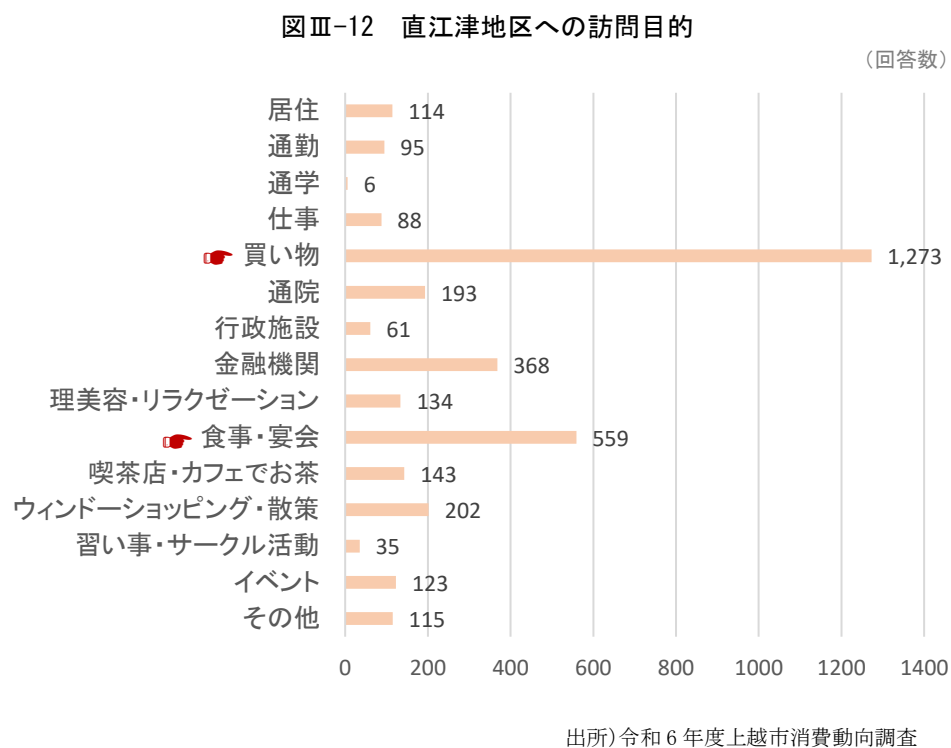
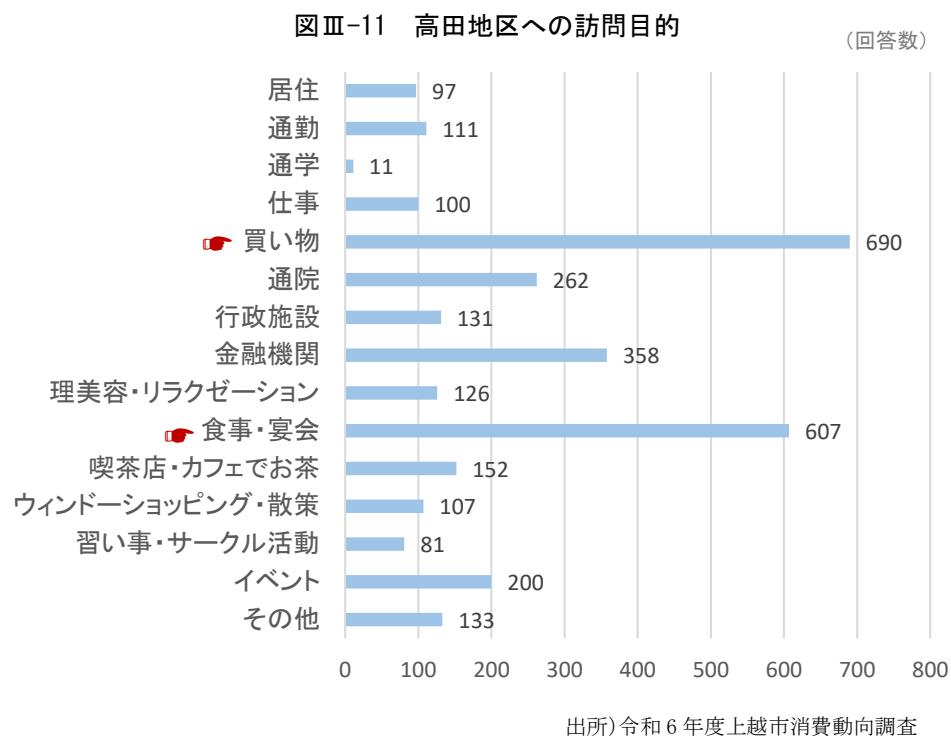
(2) 市民が中心市街地へ訪問する頻度

「ほとんど毎日」、「週に 2・3 回」、「週に 1 回」、「月に 2・3 回」を合わせた回答割合の合計は、高田地区 28.4%、直江津地区 40.9%となっています。



(3) 市民が中心市街地へ訪問する目的

高田・直江津地区とも、「買い物」と「食事・宴会」の回答が多くなっています。

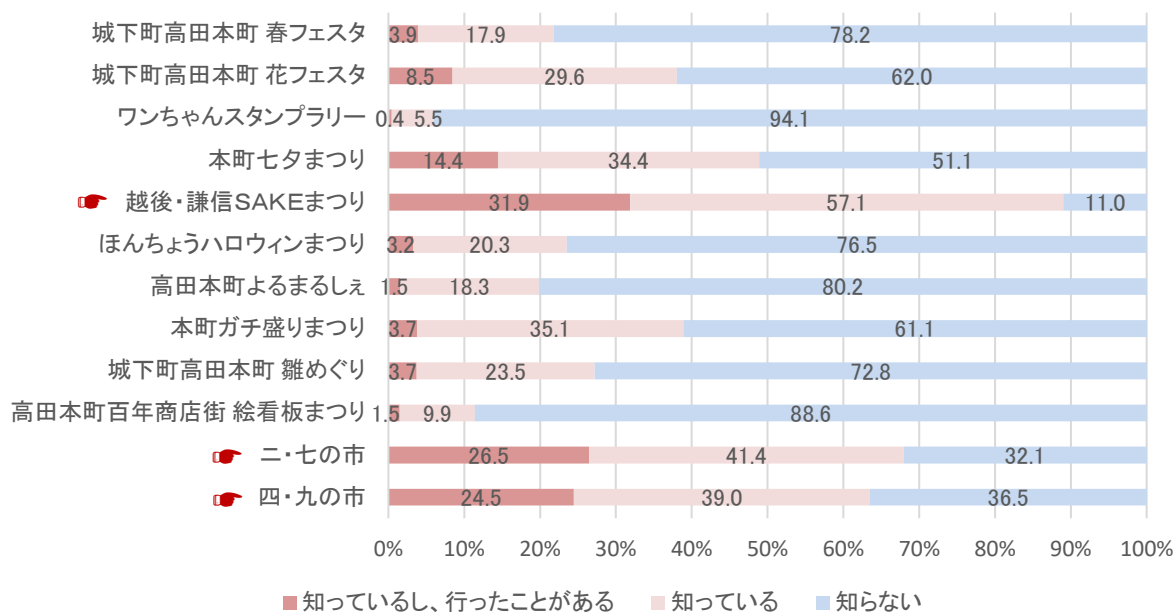


(4) 中心市街地におけるイベントの認知度等

① 高田地区

越後・謙信 SAKE まつり、二・七の市、四・九の市 は、よく知られており、「行ったことがある」の回答数も多くなっています。

図Ⅲ-13 高田地区でのイベントの認知割合

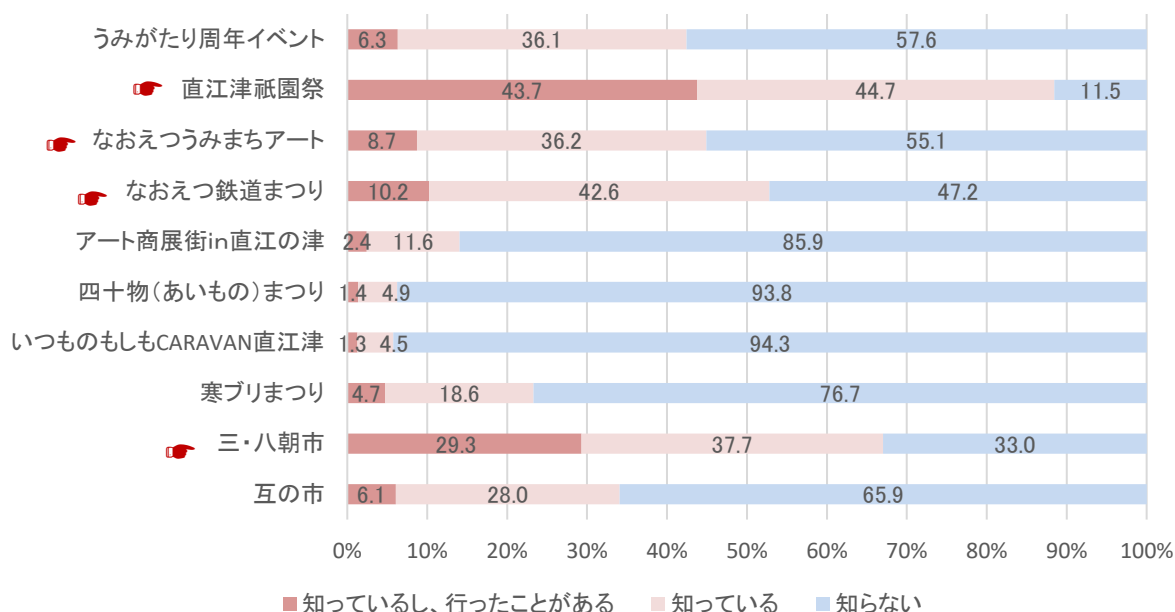


出所) 令和6年度上越市消費動向調査

② 直江津地区

祇園祭、三・八の市、鉄道まつり、なおえつうみまちアートが、よく知られています。

図Ⅲ-13 直江津地区でのイベントの認知割合



出所) 令和6年度上越市消費動向調査

3 区域の動向からみた整理

新型コロナウイルス感染症対策の行動制限等により取組ができない時期がありましたが、そうした中においても、高田地区・直江津地区のそれぞれに注目すべき取組や新たな動きが見られます。次に紹介するものはその一部ですが、統計データ等からは読み取ることが難しい、これらの動きを今後の取組に生かしていくことが必要です。

(1) 高田地区における動き

① 複数の飲食店等が出店

本町商店街のほか、大町や本町 6、7 丁目にも、町家をリノベーションするなどしてオープンした飲食店が話題になっています。その店主の何人かに高田地区に出店した理由を聞いたところ、「生まれ育った場所だから」、「以前、仕事をしていたから」のほか、「クリエイティブな事業所が集まってきており、新しい通りになる予感がした」との話がありました。

彼らの特徴として、SNS を活用して営業時間や予約状況、新メニューなどの情報を告知していることが挙げられます。もともと若者を中心とした一定数のフォロワー（ファン）がおり、そのフォロワーがさらに店舗の魅力を拡散しているように見受けられます。

② 商店街に IT 系オフィスが進出

商店街にコワーキングスペースができ、コロナ禍で定着したリモートワーク利用者の姿が見られるようになっていきます。また、「“ゆとり”と“快適さ”を感じる生活を送りつつ、都市部と変わらない業務が可能である」として、ソフトウェア開発を手掛ける関東圏の企業がサテライトオフィスを開設しています。これらの企業は、小学生向けのプログラミング教室や創業者のサポートなど、地域貢献活動にも積極的です。



③ 商店街が若い世代の活動の場に

高田地区は、若者の転出が続く一方で一定数の学生たちが集まるまちであり、その若者世代の活動があることは、大きな強みと言えます。

例えば、20 年の歴史を持つ高田商業高等学校商業クラブ（チャレンジショップ「Rikka」）が商店街で創作パンなどを販売しています。また、関根学園高等学校の生徒の百年商店街事業への参加、上越高等学校サッカー部の清掃活動、高田北城高等学校及び上越教育大学附属中学校の総合学習（テーマは中心市街地、発酵食品）、さらに、上越教育大学の美術分野の教授と学生による放課後の小学生等を対象としたアート体験の場を提供する活動が行われています。



④ インバウンドへの注目

コロナ禍で停滞したものの、全国的にインバウンド市場は盛り上がりを見せています。その動きを取り込もうと高田地区においても一部の民間事業者が新たな店舗を開業したり、市民団体が旅行者への「おもてなし」活動をしたりしています。

また、越後・謙信 SAKE まつりでは外国人が日本酒を楽しむ姿が見られます。いずれの取組も、当地区の歴史文化資源を生かしている点がポイントです。



(2) 直江津地区における動き

① 多様な立場の人々と連携したイベントの開催

「なおえつ うみまちアート」は企業と行政の働きかけから始まり、現在は、商店街や企業、公益団体、大学、商工会議所、行政機関などの組織、さらに、組織によらない個人作家や住民、ボランティアなどが個々の立場でイベントの企画運営に携わっています。

また、直江津駅前通りにある広場での朝市（互の市）は、出店者の高齢化などで休止していましたが、地元の小学校が総合学習で取り上げたことをきっかけに、さらに、中山間地域の地域おこし協力隊員も加わり、農産物を販売することで再開につなげています。



このように、新たに、多様な立場の人々が直江津地区の取組に参加していることが、近年の特色として挙げられます。

② 拠点・集客施設を管理運営する企業の協力

(株)良品計画は地域と連携し、海浜公園や直江津ショッピングセンター内で多彩なイベントを開催しています。また、水族博物館の指定管理者である(株)横浜八景島や直江津 D51 レールパークを運営するえちごトキめき鉄道(株)、直江津港カーフェリー乗り場を管理する佐渡汽船(株)などの企業が、まちなかでのイベントの企画運営に協力しています。また、頸城自動車(株)は、拠点施設を結ぶ臨時バスをイベントに合わせて運行し、独自の回遊促進事業も実施しています。

このように、直江津地区においては商店街・商工会と関係企業との連携が広がっています。



4 今後の動き(予定されている主要イベント)の整理

全国から高田地区・直江津地区に注目が集まり、当地への来訪が期待される周年・記念イベントが予定されています。その主なものは、表Ⅲ-1 のとおりです。

観光分野の動きと合わせて各種取組を進めていくことにより、高田地区・直江津地区に多くの市民や観光客が足を運ぶ機会にしていくことが必要です。

表Ⅲ-1 今後予定されている主要イベント

	令和 6 年度 (2024)	令和 7 年度 (2025)	令和 8 年 (2026)	令和 9 年 (2027)	令和 10 年 (2028)	令和 11 年 (2029)	令和 12 年 (2030)
全 国	■「佐渡島の金山」世界遺産登録(2024.7.27)	■大阪・関西万博(2025.4.13～10.13)		■善光寺御開帳(2027 or 2028)			
上 越 市		■観桜会第 100 回(2025.3～4)			■うみがたり開館 10 周年(2028.6.26)		
		■謙信公祭第 100 回(2025.8)		■謙信公没後 450 年(2028.3)		■謙信公生誕 500 年 (2030.1)	
		■謙信・謙信 SAKE まつり第 20 回(2025.10)					
		■上越妙高駅、えちごトキめき鉄道開業 10 周年(2025.3)					
			■信越本線(直江津-関山間)開業 140 周年(2026.8.15)				
			■ほくほく線開業 30 周年(2027.3.22)				

5 第3期プログラム期間中の取組状況

(1) 高田地区における取組状況

① 地区別プログラム（高田地区）の概要

第3期プログラムでは「使いたいまち・高田」を目標とし、商店街や市民団体はもとより事業者や住民の皆さんが、「つかいたくなる」をキーワードとして、まちなかの利便性や居住性、魅力を高めるための改善や工夫に取り組むことにより、「地域内外の皆さんが、まちなかを訪れるだけでなく、その機能をつかいたくなる、さらには暮らしたいと感じる状態を目指す」としました。

② 目標指標に対する現況

第3期プログラムで設定した目標指標及びその現況は、表Ⅲ-2のとおりです。

指標1で設定した数値は上回っているものの、指標2は新型コロナウイルス感染症の影響もあって下回っています。また、指標3については、地域住民の皆さんがまちなか居住の促進を目的に、まちの魅力や活気を高めるための活動が行われています。

表Ⅲ-2 第3期プログラムの目標指標に対する現況：高田地区

目標指標		数 値 等	現 況
1	高田地区居住者の日常の買物割合 ※1-1	6.3%以上	7.4% ※1-2
2	主要な拠点施設※2の年間利用者数	1,129,000人以上	981,736人
3	まちなか居住の促進に向けた機運の醸成	住民の機運が高まった状態	・令和4～5年度：モデル地区の5町内（仲町六丁目、本町六丁目、本町七丁目、大町五丁目、西城町四丁目）において、モデル事業を実施 ・令和6年度：「まちなか居住推進地区」に認定された2町内（大町五丁目、南本町三丁目）で各種支援制度の運用を開始

※1-1 高田地区居住者が本町三～七丁目、幸町で週2、3回以上買物する割合の増加

※1-2 令和6年度上越市消費動向調査による

※2 町家交流館高田小町、高田まちかど交流館、あすとぴあ高田、イレブンプラザ
(各施設の状況は「V資料編ー1」参照)

③ 各種取組の現況

第3期プログラムでは、3つの基本方針を掲げるとともに、その基本方針の実施に有効と考えられる取組を「主な取組の例」として示しました。

それらに現況の取組を当てはめてみると、濃淡はありますが、表Ⅲ-3のとおり第3期プログラムに沿った取組が実施されています。（詳細は「Ⅴ資料編-3」を参照）。

表Ⅲ-3 第3期プログラムの基本方針に沿った取組の状況：高田地区

基本方針	主な取組の例	現況
1 商店街や店舗の魅力と利便性の向上	イベント開催やサービス提供を通じた来街機会の創出	○
	時代の変化をとらえた若手店主による企画事業	○
	まちに来やすい、滞在しやすい環境の整備	○
	インバウンドの来街増加につながる仕掛けづくり	△
	個別店舗の利便性の向上	△
	商店街の価値を高める繁盛店づくり	○
	商店街の力を底上げする商店間の連携	○
2 エリア間の連携強化	エリア全体を回遊する機会の創出	△
	各エリアで取組を進める商店街、商工団体、市民団体等の連携促進	○
	各エリアにおけるエリア内及び他エリアへの案内機能	○
3 居住環境の改善	まちの将来像や在り方についての議論・検討	○

備考) 実施されている取組を○印、活動が停滞しているものや試行段階と言えるものを△印とした。

(2) 直江津地区プログラムの取組状況

① 地区別プログラム（直江津地区）の概要

第3期プログラムでは、「めぐる！楽しむ！直江津」を目標とし、商店街、市民団体はもとより事業者や住民の皆さんが、一体となって、地区内外からの来訪者の皆さんからまちの色々な場所を巡り、楽しんでいただくためのちょっとした改善や工夫に取り組むことにより、地域内での買い物、飲食、学び、交流などの楽しみを通して直江津のファンが増え、暮らしたいと感じる皆さんが増えていく状態を目指すこととしました。

② 目標指標に対する現況

第3期プログラムで設定した目標指標及びその現況は、表Ⅲ-4のとおりです。

指標1の数値は、わずかに下回っており、また、指標2は目標値を大幅に超えています。指標2が大幅に目標値を超えているのは、令和2年にオープンした無印良品直江津やその周辺に立地するスーパー等の影響と推察されます。指標3は、新型コロナウイルス感染症の影響もあって下回っています。

表Ⅲ-4 第3期プログラムの目標指標の現況：直江津地区

目標指標		数 値	現 況
1	直江津地区居住者の日常の買物割合 ※1	19.2%以上	18.8% ※4
2	直江津地区非居住者の買物割合 ※2	29.8%以上	46.1% ※4
3	主要な拠点施設の年間利用者数 ※3	954,000人以上	935,476人

※1 直江津区居住者が直江津駅前、中央、西本町、五智で週2、3回以上買物する割合の増加

※2 直江津区に居住していない市民が直江津駅前、中央、西本町、五智で買物する割合の増加

※3 主要な拠点施設は、直江津学びの交流館、ライオン像のある館、直江津ショッピングセンター（詳細は「V資料」参照）

※4 令和6年度上越市消費動向調査による

③ 各種取組の現況

第3期プログラムでは、3つの基本方針を掲げるとともに、その基本方針の実施に有効と考えられる取組を「主な取組の例」として示しました。

それらに現況の取組を当てはめてみると、濃淡はありますが、表Ⅲ-5のとおり第3期プログラムに沿った取組が実施されています。（詳細は「Ⅴ資料編-3」を参照）。

表Ⅲ-5 第3期プログラムの基本方針に沿った取組の状況：直江津地区

基本方針	取組項目	現況
1 拠点施設の来街者にまちなか回遊を促す仕掛けの充実	イベント開催やサービス提供を通じた回遊機会の創出	○
	拠点施設間の連携強化	○
	まちなか回遊促進に向けた商店街、商工団体、市民団体等の連携促進	○
	まちのイメージの共有と発信	○
	名店・名物・名所・旧跡等のPR	○
2 まちなかの受け入れ環境の整備	まちに来やすい、滞在しやすい環境の整備	○
	まちなかの目玉づくり	○
	まちなかにおける案内機能の充実	○
3 居住環境の改善に向けた検討	まちの将来像や在り方についての議論・検討	○

備考) 実施されている取組を○印とした。

(3) 各種取組のフォローアップの総括

第3期プログラムでは、毎年度末に各取組主体にアンケート調査を行い、課題や今後の方向性などの回答を受け、中心市街地活性化協議会における情報共有等に努めてきました。

表Ⅲ-6は、各種取組主体の回答の要旨です。課題としては、構成員の高齢化による人材不足などが多く挙がっています。なお、詳細は「Ⅴ資料編-3」に掲載しています。

表Ⅲ-6 第3期プログラム各取組主体へのフォローアップ（アンケート結果）の要旨

年度	取組団体数	課 題	取り組みたいこと	中心市街地活性化への意見
R2	高 田 地 区 13 直江津地区 6	コロナ禍により事業実施が困難、事業の担い手の不足や高齢化	コロナ前に実施していた事業の再開、ペット愛好家をターゲットとした事業、関係他団体との交流や連携の強化	空き店舗解消に向けた出店希望者や利活用者への情報発信の強化、物件調査費や改装費などテナント誘致に係る支援の強化
R3	高 田 地 区 18 直江津地区 8	コロナ禍により事業実施が困難、会員の高齢化や環境の変化による熱意の低下	DXを取り入れた事業の実施や関係団体との連携、令和3年度事業の継続	マンション建設などのまちなか居住の推進やテナント誘致への支援、中心市街地に進出した新しい業種やビジネスとの連携や環境の整備
R4	高 田 地 区 22 直江津地区 13	人材不足（主に関係者の高齢化）や資金不足	高田地区と直江津地区の回遊促進、規模の縮小・中止していたイベントをコロナ禍前の規模で開催	テナント誘致や空き店舗解消に向けた支援、季節ごとのイベントに合わせた商店街への誘客
R5	高 田 地 区 18 直江津地区 14	人材不足（主に関係者の高齢化）や資金不足	能登半島地震の被害のあった施設の補修や防災に関する啓発イベント	他の団体やイベントとの連携、通年観光計画に合わせた取組、各団体の垣根を越えた事業、若者を対象とした出店支援

IV 中心市街地活性化の方向性

1 中心市街地の課題

Ⅲ章における統計データ及び消費動向調査、第3期プログラム期間中の取組状況などから、以下のとおり、中心市街地における課題をまとめます。

その際、第7次総合計画における将来都市像「暮らしやすく、希望あふれるまち」及び都市拠点の考え方、基本目標の一つである「魅力と活力があふれるまち」の趣旨を踏まえ、地域住民の「暮らし」や「事業活動」、「賑わい」の視点から整理します。

課題1 「暮らし」の視点から

人口減少の進行等により生活機能が低下、豊かな暮らしを維持できなくなるおそれ

高田地区・直江津地区では、住民の高齢化と転出超過が進んでおり、この動きが続くと、地域コミュニティの衰退が懸念されるほか、暮らしを支える多様な都市機能の維持や経済の活性化を阻害するなど、地域の存続等にも大きな影響を及ぼすことが想定されます。

課題2 「事業活動」の視点から

郊外型店舗への流出により商店街の活力や店舗の収益力低下が一層深刻化するおそれ

商業機能は中心市街地を構成する重要な要素ですが、市民の多くは郊外型店舗を利用するライフスタイルになっています。高田地区・直江津地区ともに、後継者不足や店舗の老朽化なども相まって個店の収益力低下や空き店舗等の増加が進み、いわゆるシャッター街化や空洞化に歯止めがかからず、中心市街地の吸引力の低下が一層深刻化するおそれがあります。

課題3 「賑わい」の視点から

まちの賑わいと市民の愛着の喪失により衰退に歯止めがかからなくなるおそれ

高田地区・直江津地区の賑わいの状況と、両地区に愛着や親近感を持つ市民の数には関係があるものと推察されます。市民が中心市街地に関与する機会が相対的に少ない状況が続けば、中心市街地の意義や活性化への市民の共感や支持を失うことになりかねず、中心市街地の衰退に歯止めがかからない状態になることが懸念されます。一方で、市民に足を運んでもらうための様々な取組が行われていますが、インバウンド等の新規需要の取り込みなどの対応が期待される中、各取組主体の熱意の低下や担い手不足などが課題になっています。

2 基本的な方向性

(1) 基本的な考え方

全市的にみても中心市街地の魅力が喪失すれば、地域で暮らし続けたい、地域に戻りたい、新たに移り住みたいと思う人々への求心力の低下を招くおそれがあります。都市の中心的な役割を担う「まちなか」を魅力的で持続可能なものに再生していくことは、地方創生の重要課題であることを再認識することが不可欠です。

中心市街地においては一部に活性化の兆しはみられるものの、前項で整理したような課題を解決しつつ、今後も継続して高田地区・直江津地区の活性化に取り組んでいく必要があります。

(2) 課題解決の方向性

現在、高田地区・直江津地区ともに、居住人口の高齢化や転出超過などにより、地域コミュニティの維持や各店舗の売上確保、賑わいの創出などの面において多くの課題を有しています。こうした課題の解決を図るためには、質の高い商業空間の創出、交通の利便性を生かした多様な交流などに主眼をおいた取組を進め、中心市街地の魅力と価値の向上を図ることが重要となります。

図IV-1 中心市街地における課題解決の方向性

視点	課 題	方 向 性
暮 ら し	人口減少の進行等により生活機能が低下、豊かな暮らしを維持できなくなるおそれ	▷ 生活の質の向上 ・地域で暮らす人々の安全・快適な生活 ・自家用車の利用が困難な高齢者、子育て世代の受皿
事業活動	郊外型店舗への流出により商店街の活力や店舗の収益力低下が一層深刻化するおそれ	▷ 事業活動の活発化 ・商店街の魅力・活力ある空間づくり ・店舗の魅力向上、創業・出店支援
賑 わ い	まちの賑わいと市民の愛着の喪失により衰退に歯止めがかからなくなるおそれ	▷ 賑わい・交流機会の創出 ・交流拠点、心地よい居場所づくり ・新規需要等に対応したイベントの実施

3 基本目標

前項の「基本的な方向性」を踏まえ、第4期プログラム期間の3年間の取組を進めることにより、達成を目指す具体的な状態を3つの基本目標として設定します。

基本目標1 暮らしやすさの向上

中心市街地においては、買い物や通院、娯楽など、地域で暮らす人たちが歩ける範囲で日常的な生活を営むことができる便利で住みやすいコンパクトなまちづくりが求められます。また、様々な施設が集積しており、生活利便性の高い地域でもあることから、高齢により自家用車の利用が困難な人や、子育て世代の受皿としての役割を担うことが期待されます。

このことから、地域で暮らす人たちやこれから暮らす人たちが、これまで受け継がれてきたまちの歴史文化や景観などを生活の中で誇りに感じられ、安全安心、快適に過ごすことのできる「中心市街地で暮らしたい」と思える環境をつくります。

基本目標2 商店街・商店の魅力と活力の向上

これまでは産業・雇用がないから人が出て行ってしまう（＝仕事のある場所に人が集まる）」という見方がありましたが、近年の中心市街地への若い世代の出店やIT企業などの進出の動きからは「人が集まる魅力的な場所に雇用が生まれる」ととらえることができます。

まちに魅力と活力があることが人々を引き寄せる大きな要因となり、その結果として様々な雇用が生まれ、地域の発展につながる可能性があることから、まちの賑わいを創出してきた商いの継承と新たな産業の誘致・創出、若者の起業・創業支援や自主的な活動の支援などにより、多くの人が中心市街地へ集い、生き生きと働き、挑戦できる取組を推進します。

基本目標3 多様な人々との交流の拡充

中心市街地は「まちの顔」として、歩いて楽しく、人と人との交流があり、賑わいあふれる場所としての役割が求められます。

このため、地域の歴史文化の価値を生かしたイベントや四季折々の催しなどの開催に取り組み、市民の来街を促すとともに、訪日外国人旅行者によるインバウンド需要も含め、観光客やビジネス客などの交流人口の増加を図り、域内消費を拡大させる取組を推進します。

また、地域に特別なつながりや愛着を持ち、地域と多様に関わる関係人口の創出・拡大につながる取組を推進するとともに、地域コミュニティの維持の観点から、地域の担い手となる関係者が対面し、その意義や価値を認識して交流・団結する機会にもなるイベントを実施するなど、賑わいと交流の活発化につながる取組を推進します。

4 施策の柱

3つの基本目標の実現に向けた具体的な取組の方向性を示します。なお、これらの施策は1つの基本目標の枠組みでとらず、他の基本目標との関連性や相乗効果の発揮を意識して取り組む必要があります。また、商店街や商工団体、市民団体等が主体となって進める各種取組に対し、行政や関係機関が連携・協働して実施していきます。

① まちなか居住の推進

- ・ 中心市街地における快適な居住環境の維持・向上を図ります。
- ・ 歴史や文化など地域の特色を生かした景観づくりや、ゆとりや安らぎある空間づくりを推進します。

② 商店街や商店の魅力と利便性の向上

- ・ 意欲ある商店主・創業者・中小企業者等が始める新たなビジネスや、商店街全体や店舗の魅力を高めるための積極的な挑戦を支援します。
- ・ アーケードや駐車場等の共用施設の老朽化対策や利便性向上への環境整備を促進します。

③ 空き店舗等の利活用

- ・ 空き店舗の実態を常に把握し、中心市街地商業全体の問題として共有します。また、商業者だけではなく、地権者・建物所有者にも協力を促します。
- ・ 空き店舗対策の目的や期待する効果を共有し、利活用を図ります。

④ 起業・創業の支援

- ・ 起業・創業の意欲が旺盛な若者や女性のほか、UIJターン者等による自らの経験を生かし、創意工夫に満ちた起業・創業を促進します。
- ・ IT企業のサテライトオフィスの誘致など、多種・多様な働く場の創出につなげます。

⑤ 個性と魅力あるイベントの開催

- ・ 地域の一体感を育み、多様な交流の機会を創出する各種イベントに取り組めます。
- ・ イベントなどを自発的に行える空間や楽しく活動したくなる環境の整備など、若い世代がまちなかで活動する機会を創出し、地域への定着を図る取組を促進します。

⑥ まちなか回遊の促進

- ・ 楽しみながら歩いてもらい、店舗等に立ち寄ってもらうための仕掛けづくりを促進します。
- ・ 地域ならではのイベント等を効果的に組み合わせで発信するとともに、地域を楽しみながら移動・周遊できる環境の整備に取り組めます。

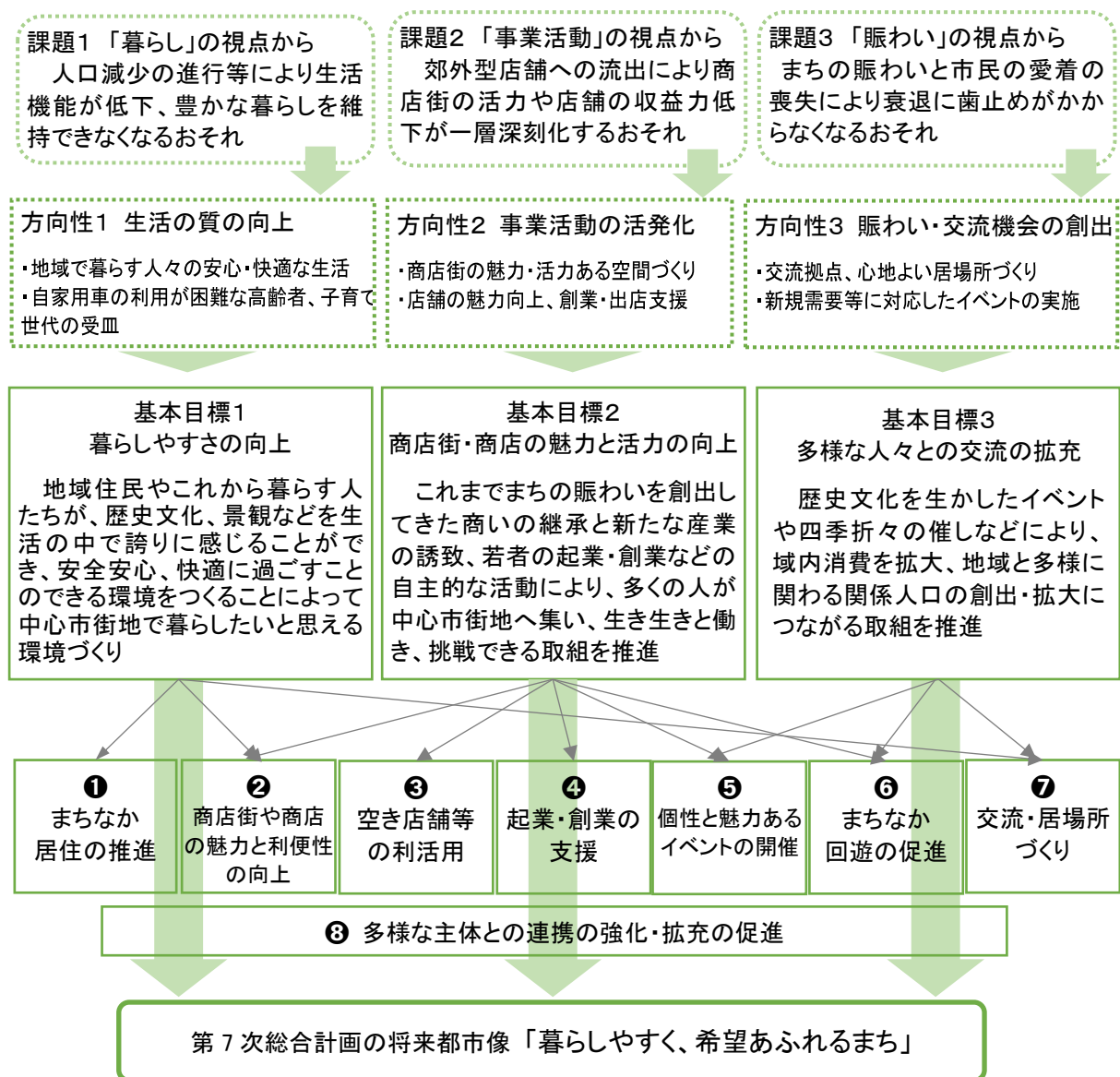
⑦ 交流・居場所づくり

- ・ 交通アクセス性も含め、地域一体となって、年間を通じた訪日外国人などの観光客をはじめとする来訪者の受入環境の整備に取り組み、人の流れや交流を生み出します。
- ・ 居心地が良く、多様な世代が交流して新たな取組を生む「場」づくりを進めます。

⑧ 多様な主体との連携の強化・拡充の促進

- ・ 地域の諸団体や企業との日常的な連携関係を保持するとともに、役割分担を図ります。
- ・ 商店街に進出した企業と商店街・商店、団体等の交流と連携を促進し、新たな発想の創出や人手不足の解消などにつなげます。

図Ⅳ-2 中心市街地における課題と今後の方向性の全体概要



5 地区別プログラム

長い年月をかけて蓄積された歴史文化、都市機能などが異なることを踏まえ、第3期プログラムでは、地区別に将来像と目標等を設けました。

引き続き、その将来像を目指すまちの姿として掲げ、先に整理した3つの基本目標の状態を目指して、各種取組を展開していくこととします。

(1) 高 田 地 区

① 将 来 像

高田地区には、上越地域の政治・文化・経済の中心として、長い年月をかけ、雪国の奥深い文化が息づき、都市、居住、生活、経済等の機能が蓄積されてきました。

それらを生かしつつ、時代の変化に対応していくことにより、将来にわたって「上越地域の中心」、「市民の心の拠りどころ」であり続け、地域外への求心力を発揮できる中心市街地を目指すこととし、次のとおり将来像を掲げます。

＜高田地区の将来像＞

暮らしたい、訪れたい、働きたい、城下町・高田

② 基本目標

高田地区においては、これまでに蓄積されてきた都市、居住、生活、経済等の機能や歴史的・文化的資源などを十分に活用しながら、基本目標とする「暮らしやすさの向上」、「商店街・商店の魅力と活力の向上」、「多様な人々との交流の拡充」のそれぞれが進展した状態を目指します。

③ 取組の基本的な考え方、主な取組の例示

次のとおり、基本目標に対する基本的な考え方と主な取組項目を例示します。

なお、例示した取組は、第3期プログラム期間中の各団体等へのアンケート調査において「取り組みたい、検討している」とした内容のほか、取組実績や近年の動向などを踏まえて掲載したものです。

また、図IV-2で示したとおり、基本目標とそれぞれの施策は一義的ではないことから、各施策の柱の右側に、該当する基本目標を記載しています。

施策の柱① まちなか居住の推進

▶▶▶ 暮らしやすさの向上

高田地区は、雁木や寺町など歴史的なまちなみを有し、多様な都市機能が集積しています。安全安心で快適な生活を送ることができる「まちなか居住」が市民や移住者等の選択肢の一つとなるよう居住環境の改善に向けた取組を進めます。

- ・個性豊かな町家や雪国の伝統的な建築物である雁木のまちなみの保全活動
- ・町家や雁木の機能を生かした風情ある景観づくり
- ・商店街のアーケード通りを季節の花々で彩るなど、心が安らぐ空間づくり
- ・高齢者や親子連れが何をするとともに過ごす休憩スポットの設置 など

施策の柱② 商店街や商店の魅力と利便性の向上

▶▶▶ 暮らしやすさの向上

▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上

高田本町商店街には、100年の歴史を有する老舗に加え、飲食店やコワーキングスペースなどの出店が続いています。また、若手店主らによる活性化に向けた新しいイベントが行われ、若い世代が商店街に足を運ぶきっかけになっています。こうした動きを発展させ、便利で魅力にあふれる商店街や店舗づくりに取り組みます。

- ・スマートフォンを活用したポイント（特典）付与事業
- ・新規出店者・事業者との連携による新しい商店街の使い方や活性化策の検討
- ・こだわり抜かれた商品の販売やコミュニケーションが生まれる店舗づくり
- ・アーケード等の老朽化対策やデジタル技術を活用した利便性の向上の取組 など

施策の柱③ 空き店舗等の利活用

▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上

空き店舗が継続的に発生しており、これまでの空き店舗の実態調査や情報発信に加え、新たな事業活動や交流の場に結びつけるための取組を推進します。

- ・新規出店や利活用を希望する人への情報発信の強化、出店相談窓口の設置
- ・出店希望者と空き店舗物件のマッチング、入居しやすい仕組みづくり
- ・イベントに合わせた「お試し出店」の実施 など

施策の柱④ 起業・創業の支援

▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上

高田地区で見られる若者や女性等の多様な働き方への挑戦を支援するとともに、まちなかに先進的な要素を取り込むため、IT企業サテライトオフィス等の新たな業種の中心市街地への誘致を進めます。また、こうした動きを地域内の定住促進や空き店舗の解消、新たな発想による商店街活性化等につなげていきます。

- ・継続的に起業・創業を促進するための体制づくり
- ・起業・創業後の事業継続のサポート体制の充実
- ・IT企業等の新たな業種の誘致 など

施策の柱⑤ 個性と魅力あるイベントの開催

- ▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上
- ▶▶▶ 多様な人々との交流の拡充

商店街に足を運んでもらうきっかけとなり、若い世代をはじめ、多様な市民との関わりを持つことに留意しながら、地域内外から人を惹きつけ、話題となるイベントを企画・実施していきます。

- ・パン好き、ペット愛好家など、ターゲットを絞ったイベントの実施
- ・高校生や大学生など、若い世代の企画立案、運営に関わるイベント
- ・季節ごとのイベントに合わせた商店街への観光客の誘導
- ・広場を有効活用したジャズやポップス等の音楽演奏会 など

施策の柱⑥ まちなか回遊の促進

- ▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上
- ▶▶▶ 多様な人々との交流の拡充

高田地区においては、これまでに整備された公共・公益施設、観光スポットがあり、さらに、様々な団体がイベントや事業を行っています。これらを有機的に結びつけ、盛りだくさんな楽しさを演出するなど、まちなかに人を集めて区域を回遊してもらう取組を推進します。

- ・観桜会の会期に合わせて、商店街アーケードを桜で飾り付け
- ・写真コンテストを開催し、多くの場所で写真を展示
- ・集客の相乗効果を図るための各種イベントの同時開催
- ・休憩スペースを兼ねたフォトスポットの設置 など

施策の柱⑦ 交流・居場所づくり

- ▶▶▶ 暮らしやすさの向上
- ▶▶▶ 多様な人々との交流の拡充

国内旅行者やビジネス宿泊者のほか、訪日外国人などの新たな需要の取り込みを図るなど、地域一体となって年間を通じた多様な人々との交流を推進します。さらに、そうした人々が訪問しやすいように、利便性や交通アクセス性の向上を図ります。

また、市民の中心市街地に関与する機会を増やすため、多世代が交流する居場所づくりを進めます。

-
- ・滞在している外国人に向けた販促活動
 - ・観光サービスや体験プログラムの実施
 - ・学生が考えた企画などの意見交換会、学生の自主的なイベントの開催
 - ・まちなかの活気につながるサードプレイスの設置 など

施策の柱③ 多様な主体との連携の強化・拡充の促進

- ▶▶▶ 暮らしやすさの向上
- ▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上
- ▶▶▶ 多様な人々との交流の拡充

高田地区においては、高校や大学等による活動や IT 企業のサテライトオフィスの進出などが見られ、それぞれにおいて活性化に資する活動が行われています。このような比較的若い世代に、地域の歴史文化を知ってもらいながら、新たな視点による活性化の取組の創出を目指し、地域内外の多様な主体との連携の強化・拡充を図ります。

- ・高校生等の活動と商店街とのコラボレーション（共同作業、協力）の強化
- ・独立行政法人 中小企業基盤整備機構の専門人材派遣制度の活用
- ・取組主体の高齢化・人材不足の解消を目的とした「まちづくり応援隊」（人材バンク）の検討 など

(2) 直江津地区

① 将来像

直江津地区には、古くからの海陸の交通の要衝として、長い年月をかけ、地域外との交流や交易を支える都市、居住、生活、経済等の機能が蓄積されてきました。

現在、居住人口の減少、高齢化率の上昇、商店街の商業集積度の低下などが見られる状況にありますが、集客力のある施設が整備されており、それらを一層活用することにより、地域の活性化を図ることとし、次のとおり将来像を掲げます。

＜直江津地区の将来像＞

人、モノ、情報が出会い交流する 港町・直江津

② 基本目標

直江津地区においては、主要施設の集客力と交通などの都市機能、歴史的・文化的資源などを十分に活用しながら、基本目標とする「暮らしやすさの向上」、「商店街・商店の魅力と活力の向上」、「多様な人々との交流の拡充」のそれぞれが進展した状態を目指します。

③ 取組の基本的な考え方、主な取組の例示

次のとおり、基本目標に対する基本的な考え方と主な取組項目を例示します。

なお、例示した取組は、第3期プログラム期間中の各団体等へのアンケート調査において「取り組みたい、検討している」とした内容のほか、取組実績や近年の動向などを踏まえて掲載したものです。

また、図IV-2で示したとおり、基本目標とそれぞれの施策は一義的ではないことから、各施策の柱の右側に、該当する基本目標を記載しています。

施策の柱① まちなか居住の推進

▶▶▶ 暮らしやすさの向上

直江津地区は、旅情にあふれ、港に通じる小路が随所に走る迷路のようなまちなみを有し、集客施設をはじめとする多様な都市機能が集積しています。直江津地区においても、安全安心で快適な生活を送ることができる「まちなか居住」が市民や移住者等の選択肢の一つとなるよう居住環境の改善に向けた取組を進めます。

- ・町家や雁木の機能、文化史跡等を生かした風情ある景観づくり
- ・海岸線のハマゴウの保全・植樹など、海のめぐみを感じられる空間づくり
- ・高齢者や親子連れが何をするともなく過ごせる休憩スポットの設置 など

施策の柱② 商店街や商店の魅力と利便性の向上

▶▶▶ 暮らしやすさの向上

▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上

直江津地区の商店街には、長く地域に親しまれている定番商品・メニューを有する個性豊かな店舗や飲食店があります。また、若手店主が経営する飲食店が SNS の活用や無印良品直江津でのイベント参加を通じて集客を図るなど、新たな動きが見られます。こうした動きを発展させながら、便利で魅力にあふれる商店街や店舗づくりに取り組みます。

- ・水族館などの集客施設のテーマに関連した商品等の開発・販売の強化
- ・こだわり抜かれた商品の販売やコミュニケーションが生まれる店舗づくり
- ・アーケード等の老朽化対策やデジタル技術を活用した利便性の向上の取組 など

施策の柱③ 空き店舗等の利活用

▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上

空き店舗が継続的に発生しており、これまでの空き店舗の実態調査や情報発信に加え、新たな事業活動や交流の場に結びつけるための取組を推進します。

- ・新規出店や利活用を希望する人への情報発信の強化、出店相談窓口の設置
- ・出店希望者と空き店舗物件のマッチング、入居しやすい仕組みづくり
- ・イベントに合わせた「お試し出店」の実施 など

施策の柱④ 起業・創業の支援

▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上

直江津地区においても、若者や女性等の多様な働き方への挑戦が見られるため、引き続き、こうした取組を支援し、地域内の定住促進や空き店舗の解消、新たな発想による商店街活性化等につなげていきます。

- ・継続的に起業・創業を促進するための体制づくり
- ・起業・創業後の事業継続のサポート体制の充実
- ・IT 企業等の新たな業種の誘致 など

施策の柱⑤ 個性と魅力あるイベントの開催

▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上

▶▶▶ 多様な人々との交流の拡充

商店街に足を運んでもらうきっかけとなり、若い世代をはじめ、多様な市民との関わりを持つことに留意しながら、地域内外から人を惹きつけ、話題となるイベントを企画・実施していきます。

- ・鉄道マニアや水族館ファンなど、ターゲットを絞ったイベントの実施、強化
- ・高校生や大学生など、若い世代の企画立案、運営に関わるイベント
- ・広場を有効活用したフリーマーケットやスイーツイベント等の開催 など

施策の柱⑥ まちなか回遊の促進

- ▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上
- ▶▶▶ 多様な人々との交流の拡充

直江津地区においては、これまでに整備された公共・公益施設、旅情ある観光スポットがあり、さらに、様々な団体がイベントや事業を行っています。これらを有機的に結びつけ、盛りだくさんな楽しみを演出するなど、まちなかに人を集めて区域を回遊してもらう取組を推進します。

- ・クーポン券付きパンフレットの配布やバス停を生かした情報発信の強化
- ・集客施設の入場券と商店街の割引券・福引券のセット販売の検討
- ・集客の相乗効果を目的とした他の団体のイベントとの同時開催
- ・休憩スペースを兼ねたフォトスポットの設置 など

施策の柱⑦ 交流・居場所づくり

- ▶▶▶ 暮らしやすさの向上
- ▶▶▶ 多様な人々との交流の拡充

海水浴や水族博物館、D51 レールパーク等への来訪者のほか、直江津港から「佐渡島の金山」に向かう国内外の旅行者などの新たな需要の取り込みも含め、地域一体となって年間を通じた多様な人々との交流を推進します。

また、市民が中心市街地に関与する機会を増やすため、多世代が交流する居場所づくりを進めます。

- ・観光サービスや体験プログラムの実施
- ・交通の拠点性を生かした市内外の地域との交流の拡充
- ・高校生や事業所の従業員などの若い世代が参加する交流機会の検討 など

施策の柱⑧ 多様な主体との連携の強化・拡充の促進

- ▶▶▶ 暮らしやすさの向上
- ▶▶▶ 商店街・商店の魅力と活力の向上
- ▶▶▶ 多様な人々との交流の拡充

直江津地区においては、集客施設のスタッフや地元事業所等の従業員らがまちなかでのイベントの企画運営に協力しており、新たな視点による取組の広がりが期待できる状況にあります。この動きを生かし、地域内外の多様な主体との連携を強化・拡充を図ります。

-
- ・ 集客施設や地元事業所と商店街とのコラボレーション（共同作業、協力）の強化
 - ・ 独立行政法人 中小企業基盤整備機構の専門人材派遣制度の活用
 - ・ 取組主体の高齢化・人材不足の解消を目的とした「まちづくり応援隊」（人材バンク）の検討 など

6 プログラムの推進に向けて

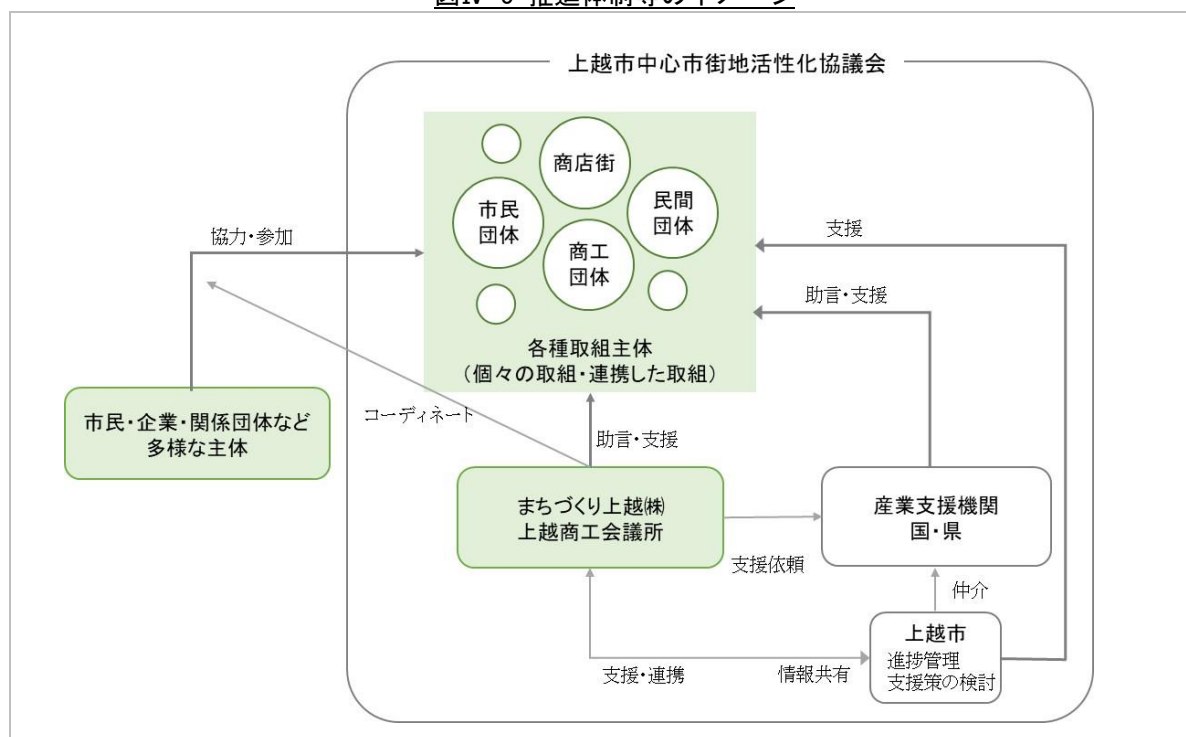
(1) 推進体制

中心市街地を活性化するためには、商業者や観光事業者、交通事業者、市民等が主体となって、意欲的に取組を進めていくことが必要となります。

行政は、その基盤となる事業を立案するとともに、中心市街地の活性化を目的とするまちづくり会社や商工会議所、関係団体等が連携する中で、民間主体の事業を支援します。

こうした多様な主体がそれぞれの立場に関わりながら、第4期プログラムを総合的・一体的に推進していくため、上越市中心市街地活性化協議会*の枠組みを活用して、情報共有や事業調整等を行うとともに、広く情報発信を行っていきます。

図IV-3 推進体制等のイメージ



(2) フォローアップの実施

毎年度、統計データや各種取組主体へのアンケート調査により本プログラムの進捗状況を確認します。また、本プログラムの最終年度に市民を対象とした調査を実施し、買い物先や来街の状況、イベントの認知度等を確認します。

市は、その内容を上越市中心市街地活性化協議会*に報告するとともに、同協議会での意見や検討結果を踏まえ、適宜、施策等の見直しを実施します。

*上越市中心市街地活性化協議会は、平成19年に設立された中心市街地活性化に関する事業の総合調整を図る組織。商店街関係者や民間事業者、関係町内会長、市の関係課等で構成され、上越商工会議所内に事務局を置く。

(3) 進捗状況を確認する指標

次の数値等を指標として、現況を基準（ベンチマーク）に取組状況を確認していきます。

また、Ⅲ章の「3 区域の動向からみた整理」と同様に、統計データ等からは測れない動きについても適宜、取りまとめを行っていきます。

① 中心市街地の居住人口

暮らしやすさの向上などの取組により、居住人口の漸減（転入者の増加等）を目標として、高田地区・直江津地区の居住人口を指標とします。また、人口構成や高齢化率、世帯数や転出入の動き、事業所数・従業者数などについて確認していきます。

指 標	地 区	現況（R5 年度）	3 年間の目標
居住人口	高 田	5,912 人	転入者の増加など減少率の緩和につながっている状態
	直江津	4,306 人	

② 施策による区域での居住環境の改善件数

まちなか居住の推進により、一定数の効果を発揮していくことを目標として、市が実施している居住施策により、居住環境が改善された件数を指標とします。

<主な居住施策>

- ・まちなか居住推進事業補助金

指 標	地 区	現況（R5 年度）	3 年間の目標
補助件数（合計）	高 田	7 件	毎年度 10 件程度の居住環境の改善の取組が進んでいる状態
	直江津	2 件	

③ 主要な公共・公益施設の利用状況

これまでに整備された公共・公益施設を活用した会議や集会、発表・イベントなどの市民活動等の活発化を図り、それら施設の利用者数を年々増加させていくことを目標として、施設の年間利用者数を指標とするほか、アンケート調査等により、市民団体や商店街、運営者等による工夫や改善の状況についても確認していきます。

<対象施設>

高 田 地 区：町家交流館高田小町、高田まちかど交流館、あすとぴあ高田、イレブンプラザ
直江津地区：直江津学びの交流館、ライオン像のある館、直江津ショッピングセンター

指 標	地 区	現況（R5 年度）	3 年間の目標
年間来場者数	高 田	981,736 人	年間来場者数が増加している状態
	直江津	935,476 人	

④ 施策を活用した区域での商業振興・賑わいづくり事業件数等

担い手不足の解消や多様な団体等との連携を図りつつ、商店街や各店舗の魅力や個性、利便性の向上に向けた一定数の取組が継続されていることを目標として、市の商業振興策による補助事業の件数などを指標とするほか、アンケート調査等により、その際の工夫や改善の状況等を確認していきます。

なお、各種事業・イベント等においては、来場者（参加者）数や売上額等の数値指標の設定と把握に努め、それらの推移を確認していきます。

<主な商業振興策>

- ・ 地域商業活性化事業補助金
- ・ 商店街等環境整備事業補助金
- ・ 中心市街地活性化事業補助金（まちづくり会社交付金）

指 標	地 区	現況（R5 年度）	3 年間の目標
地域商業活性化事業補助金	高 田	5 件	毎年度 5 件程度の事業が実施されている状態
	直江津	1 件	

指 標	地 区	現況（R5 年度）	3 年間の目標
商店街等環境整備事業補助金	高 田	3 件	毎年度 3 件程度の事業が実施されている状態
	直江津	一件	

（各取組主体における指標設定の例）※取組ごとに指標を検討します。

事業名	指標	現況（R5 年度）	3 年間の目標
越後・謙信 SAKE まつり	来場者数	約 23,000 人	23,000 人以上の来場者数を維持・増加している状態

⑤ 施策による区域での新規出店件数

空き店舗対策や起業・創業の支援の取組により、一定数の出店が継続していくことを目標として、市が実施している空き店舗対策による新規出店に結びついた件数を指標とします。また、空き店舗対策の工夫や改善の状況等を確認していきます。

指 標	地 区	現況（R5 年度）	3 年間の目標
新規出店者数	高 田	1 件	毎年度 3 件程度の新規出店が継続している状態
	直江津	2 件	

⑥ 区域への訪問頻度・訪問目的の変化

各種取組を通じて、一定数の市民が中心市街地に関与する割合を高めていくことを目標として、中心市街地への訪問頻度や訪問目的の変化を指標とします。本プログラムの最終年度に、市民を対象としたアンケート調査を行い、その状況を確認します。

なお、「訪問頻度」は、市民が日常的・定期的に中心市街地に足を運ぶ状態を図るため、「ほとんど毎日」、「週に2・3回」、「週に1回」、「月に2・3回」を合わせた回答割合とします。

また、「訪問目的」は、回答数の多い「買い物」と「食事・宴会」以外の多様な目的を持った人々が中心市街地を訪れる状態を図るため、「理美容・リラクゼーション」、「喫茶店・カフェでお茶」、「ウィンドーショッピング・散策」、「習い事・サークル活動」、「イベント」を合わせた回答割合とします。

指 標	地 区	現況（R6 年度）	3 年間の目標
訪問頻度	高 田	28.4%	左記の割合以上
	直江津	40.9%	

指 標	地 区	現況（R6 年度）	3 年間の目標
訪問目的	高 田	21.1%	左記の割合以上
	直江津	18.2%	

V 資 料 編

目 次

1 統計データ集	… 44
2 令和 6 年度上越市消費動向調査結果	… 52
3 第 3 期プログラム期間中の各種取組の現況	… 62

統計データ集

留意事項

- 1 対象区域 上越市の中心市街地の区域：以下の(1)・(2)のとおり、高田区・直江津区の一部
- (1) 高田地区 大手町、本町3丁目、本町4丁目、本町5丁目、本町6丁目、本町7丁目、北本町1丁目、仲町2丁目、仲町3丁目、仲町4丁目、仲町5丁目、仲町6丁目、寺町2丁目、寺町3丁目、大町3丁目、大町4丁目、大町5丁目、西城町3丁目、西城町4丁目、東本町1丁目、東本町2丁目 ※下線のエリアは一部のみ
- (2) 直江津地区 西本町1丁目、西本町2丁目、西本町3丁目、西本町4丁目、中央1丁目、中央2丁目、中央3丁目、中央4丁目、中央5丁目、住吉町
- 2 出 所 ・人口の推移等 住民基本台帳(各年3月31日時点)
・その他 記載のとおり

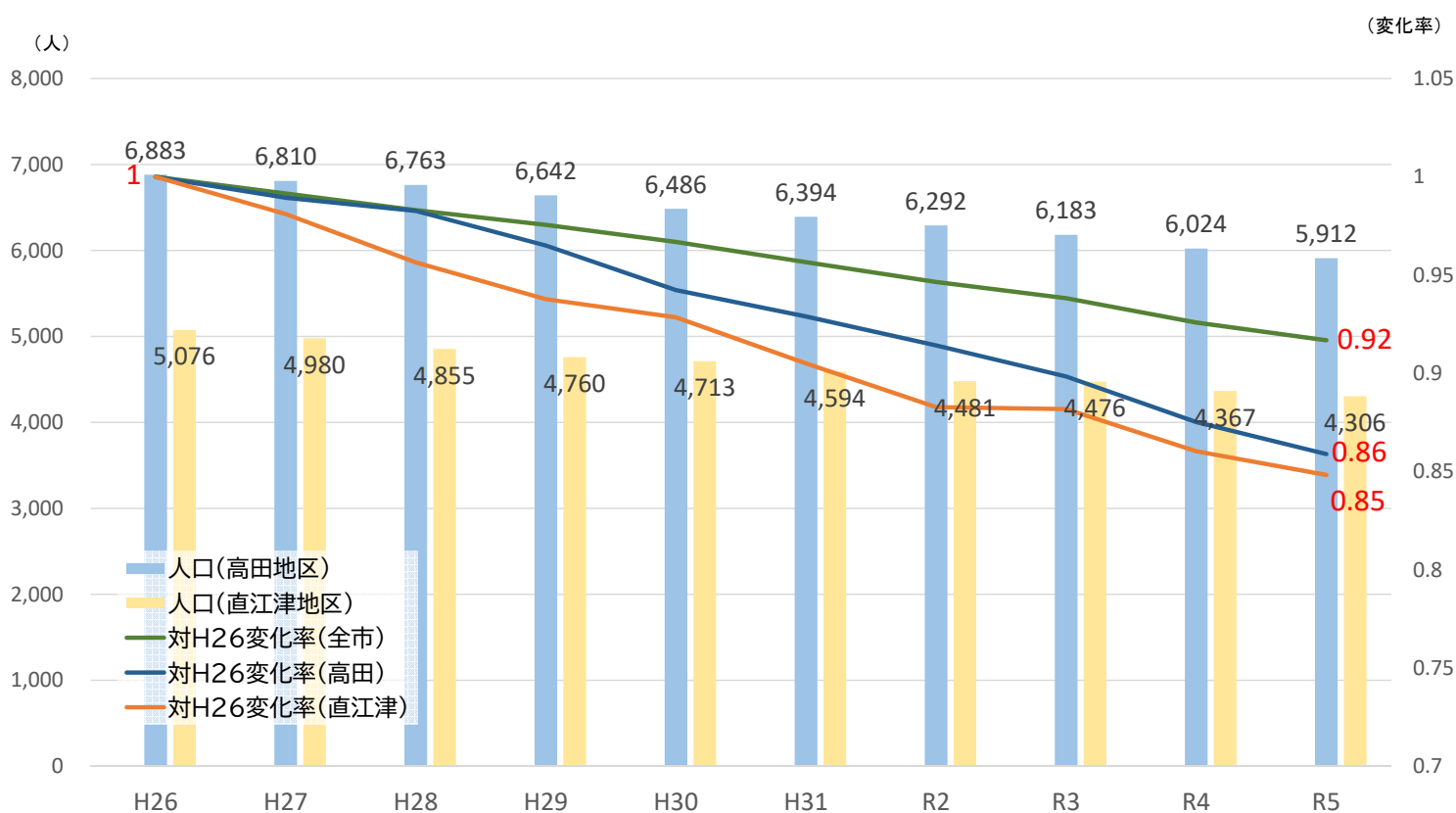
目 次

- 1 高田地区・直江津地区の人口の推移
- 2 高田地区・直江津地区の年齢3区分別人口構成の比較
- 3 高田地区の年齢3区分別人口及び高齢化率の推移
- 4 直江津地区の年齢3区分別人口及び高齢化率の推移
- 5 高田地区・直江津地区の世帯数の推移
- 6 高田地区・直江津地区の世帯構成員数の推移
- 7 高田地区の出生・死亡、転入・転出の推移
- 8 直江津地区の出生・死亡、転入・転出の推移
- 9 高田地区の転入・転出先別にみた人口増減
- 10 直江津地区の転入・転出先別にみた人口増減
- 11 高田地区・直江津地区の事業所数・従業者数の推移
- 12 高田地区・直江津地区の空き店舗数の推移
- 13 高田地区・直江津地区の公示価格の推移

1

高田地区・直江津地区の人口の推移（平成26年度～令和5年度）

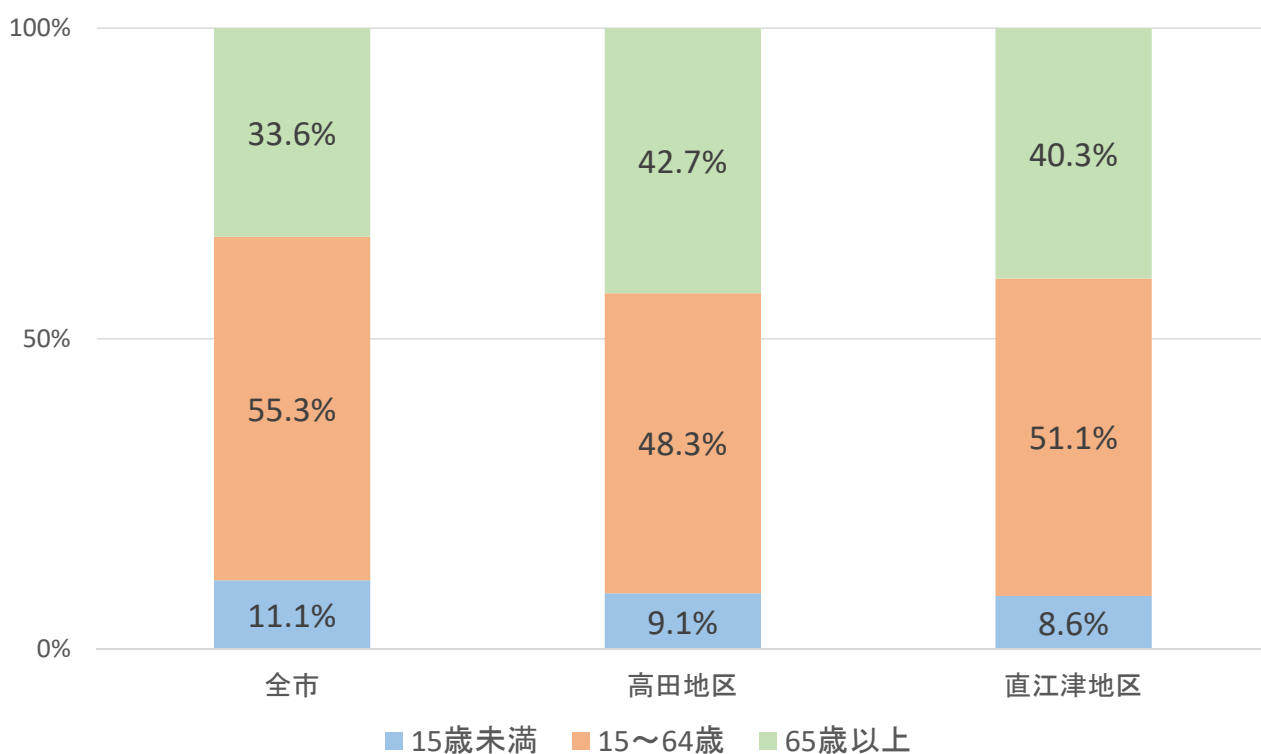
- 高田地区・直江津地区とも人口減少が進んでいます。
- 対H26年度比の変化率は、全市の動きよりも大きくなっています。



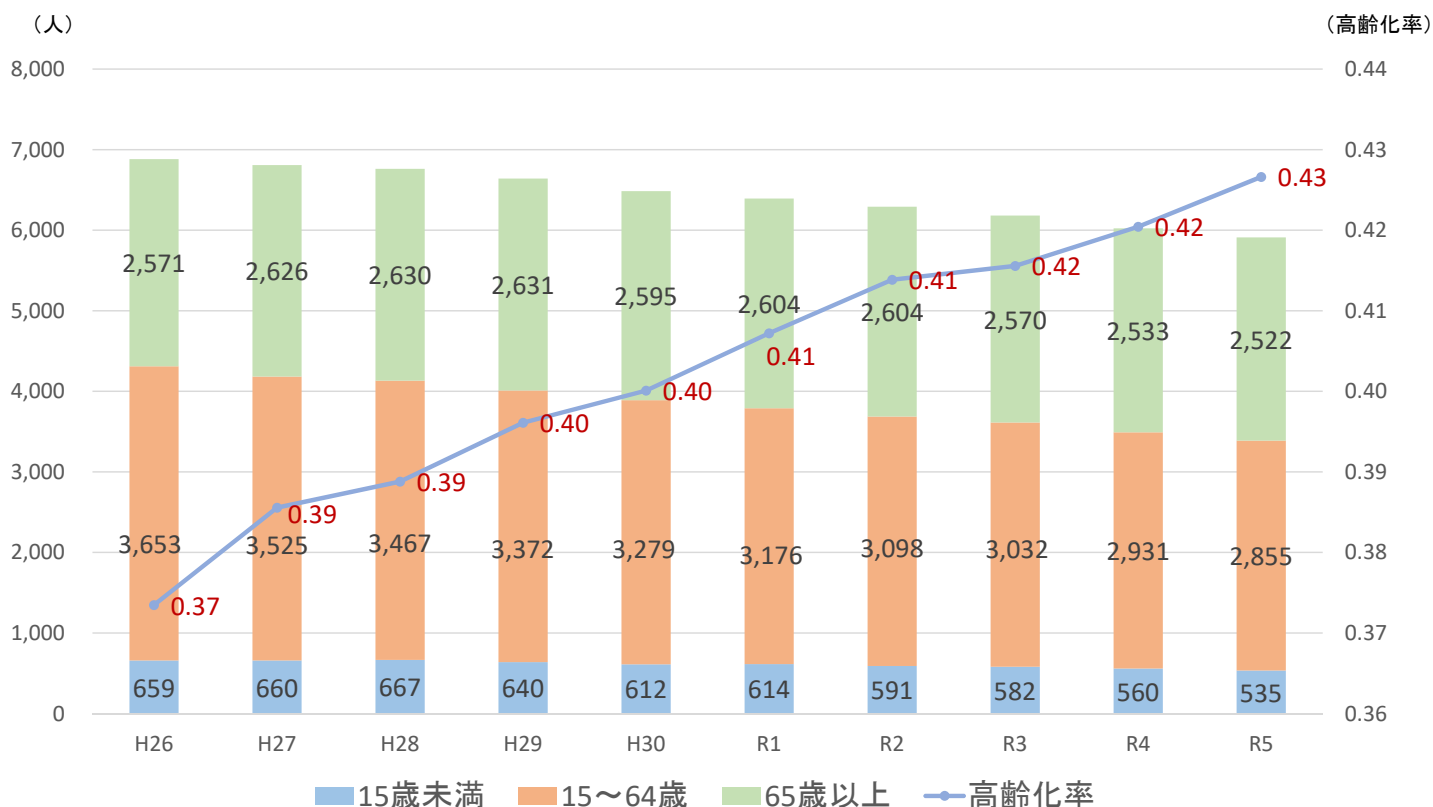
2

高田地区・直江津地区の年齢3区分別人口構成の比

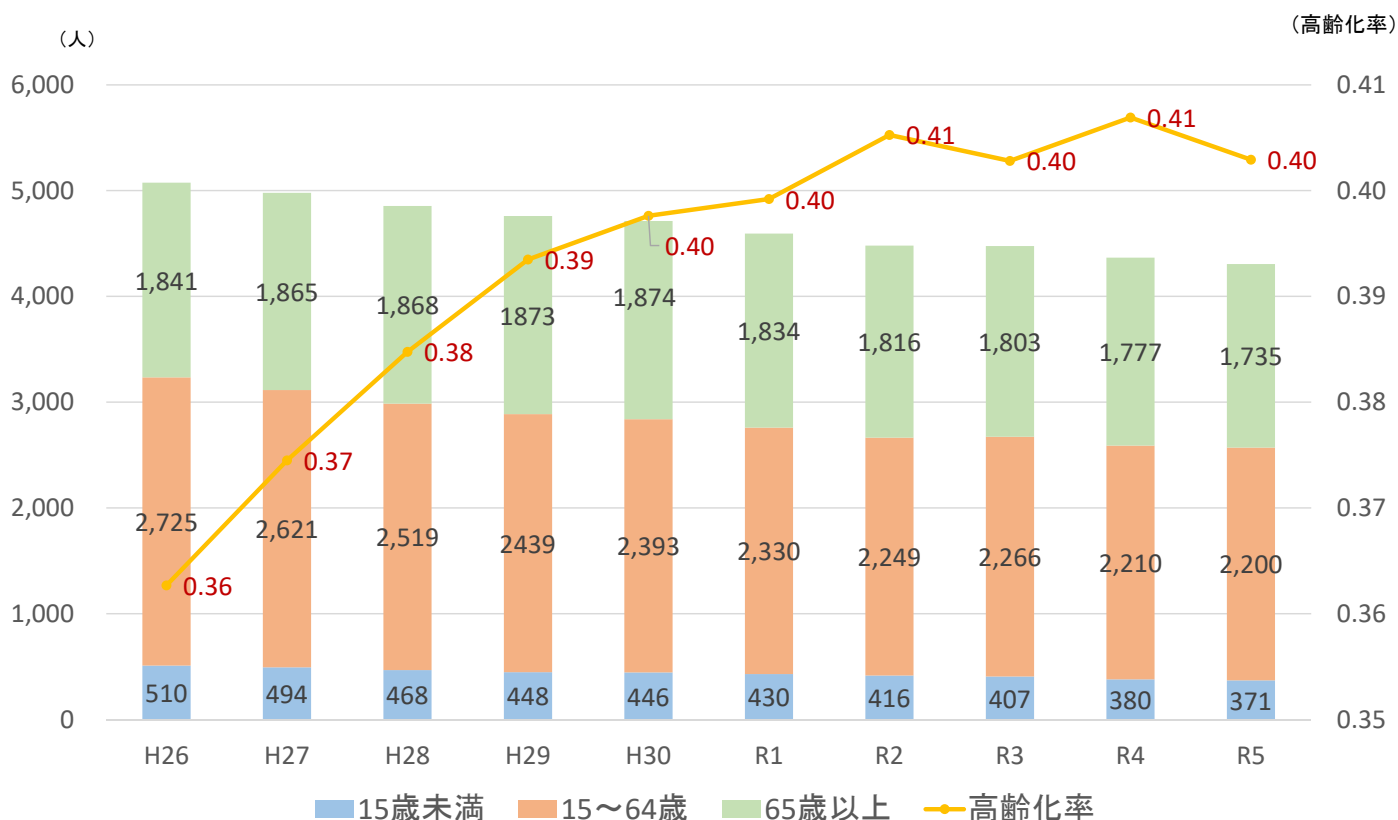
- 全市と比較すると、高田地区・直江津地区とも65歳以上人口の割合が高くなっています。



● 15歳未満及び15～64歳の人口は、減少傾向が続いています。

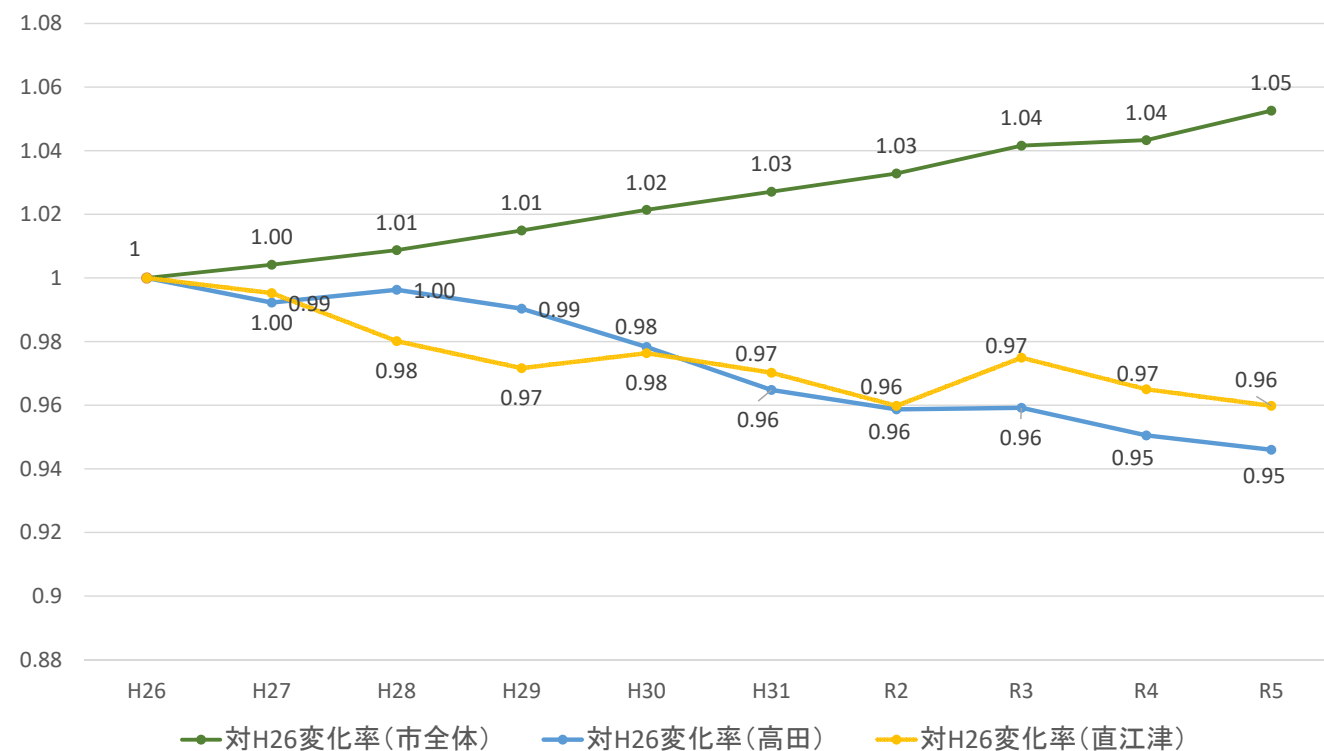


● 15歳未満及び15～64歳の人口は、減少傾向が続いていますが、近年はその傾向が緩やかになっています。



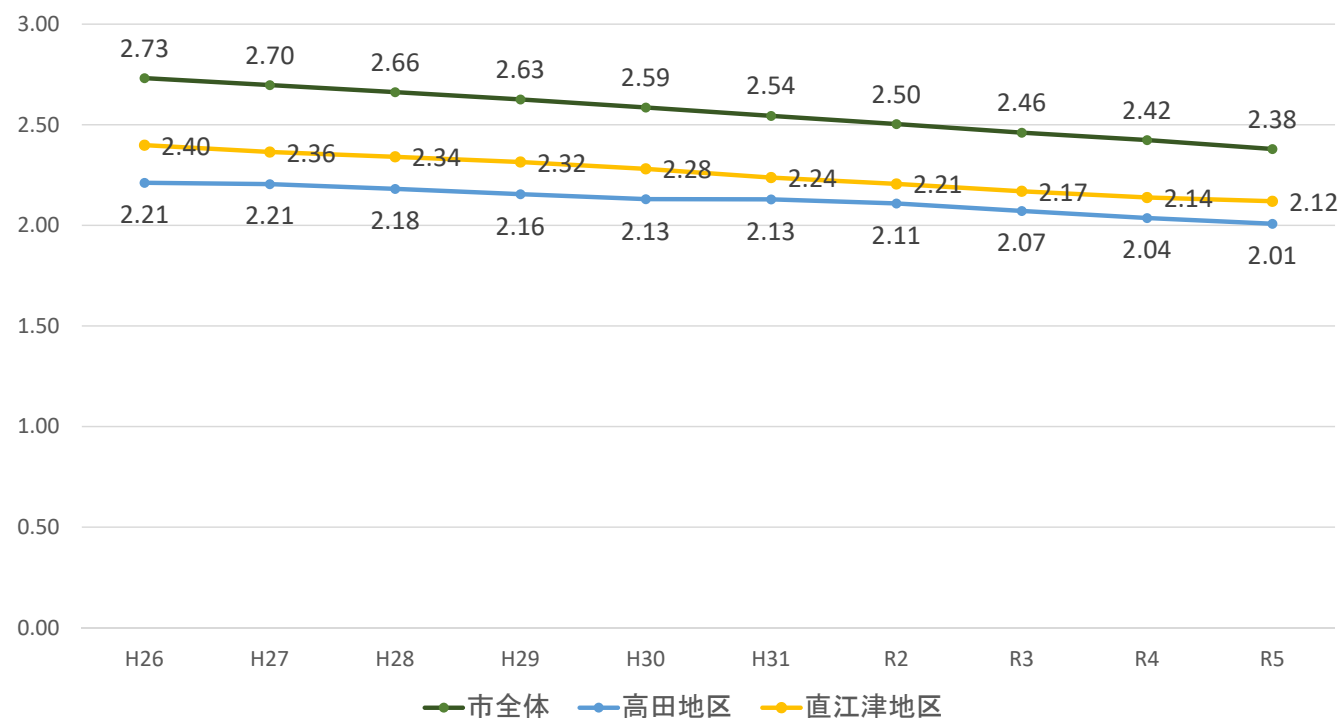
- 全市では世帯数が増加していますが、高田地区・直江津地区とも減少傾向にあります。

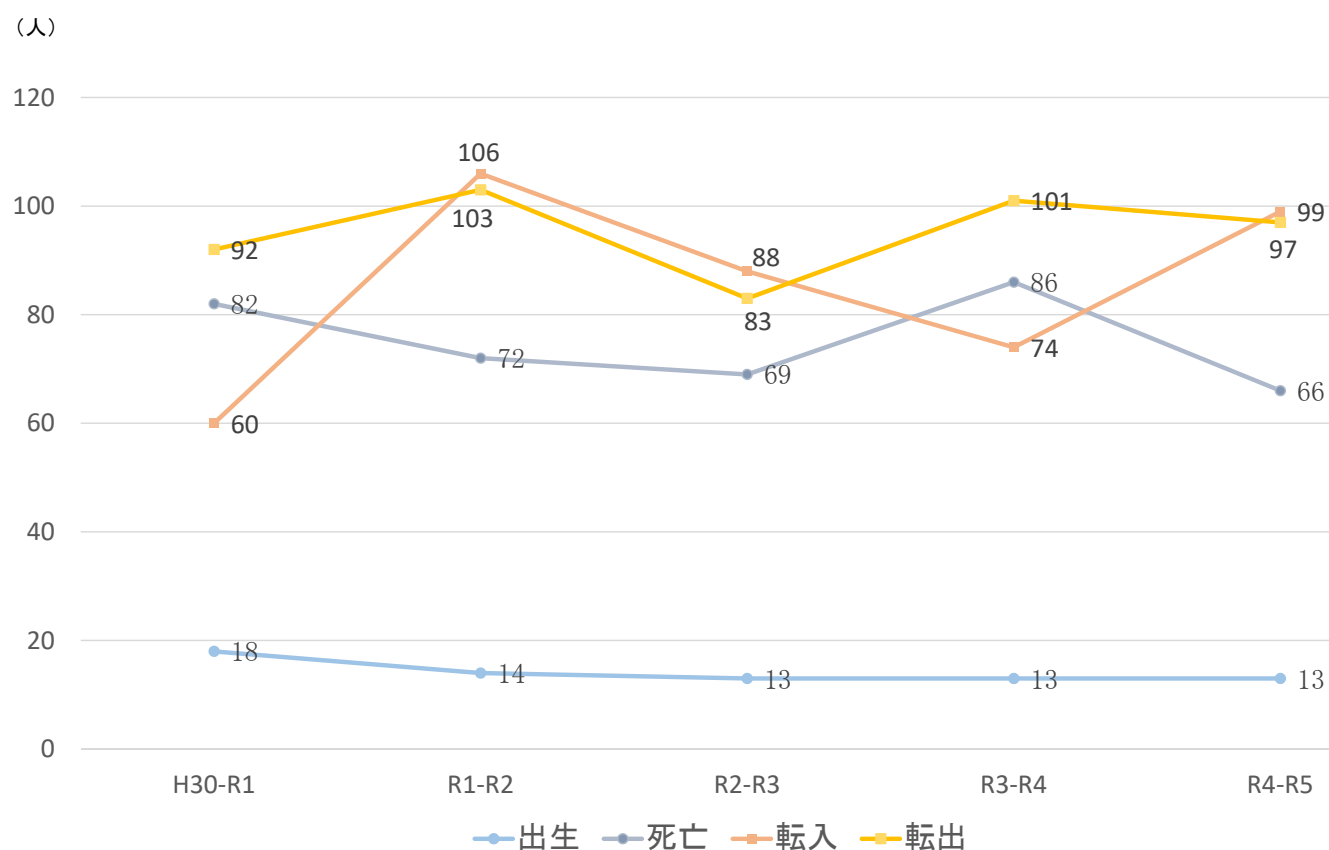
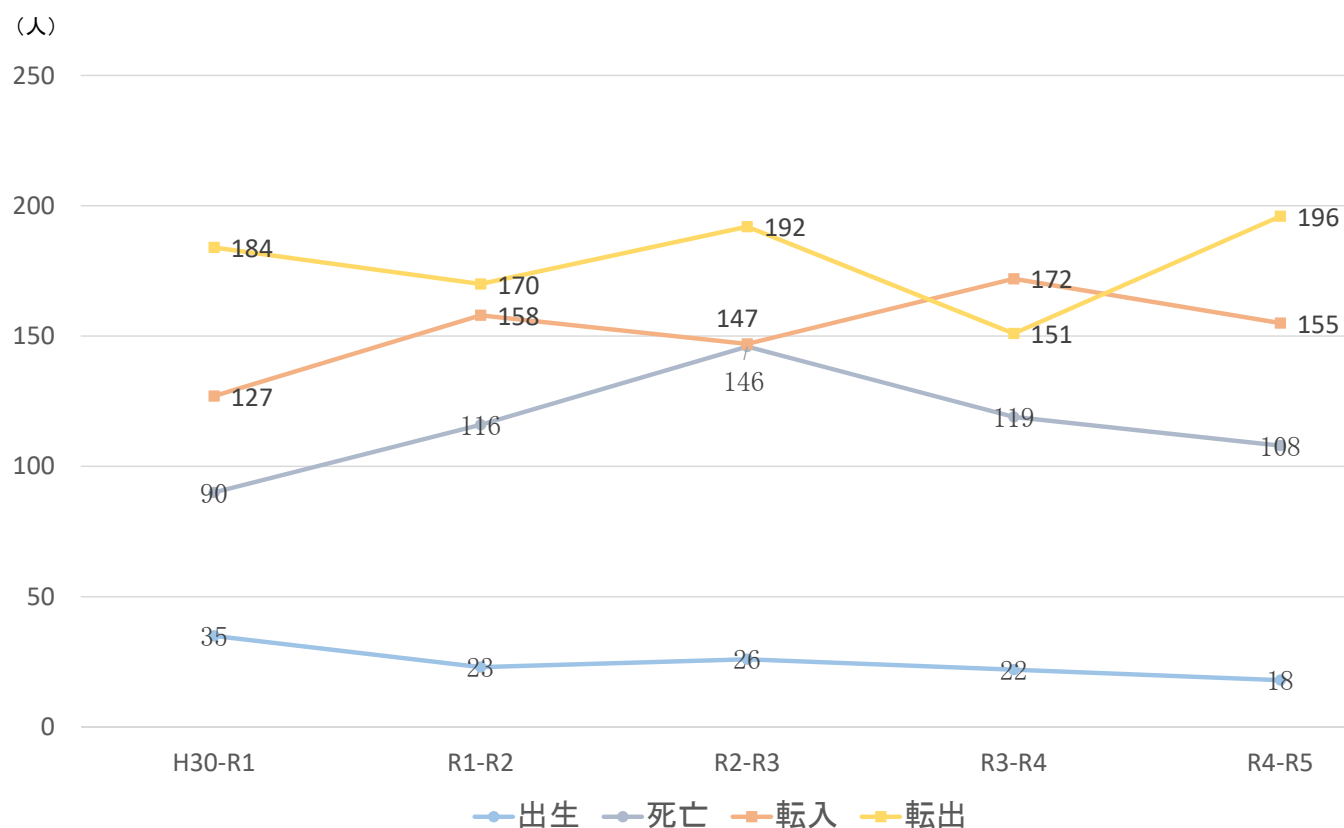
(変化率)



- 高田地区・直江津地区とも、世帯構成員数は減少しています。

(変化率)



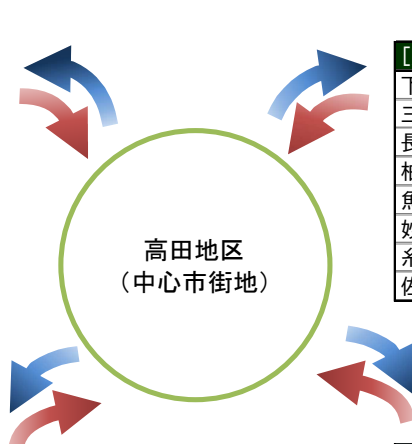


- 関東圏への転出のほか、合併前上越市内の地区への転出がみられます。

	転入	転出	差引
[県外]	448	584	▲136
北海道・東北	36	42	▲6
関東	227	338	▲111
長野県	45	49	▲4
中部(長野以外)	48	86	▲38
西日本	56	56	0
国外	36	13	23

中心市街地	250	242	8
高田(中心市街地)	232	232	0
直江津(中心市街地)	18	10	8

[合併前上越]	672	785	▲113
高田(中心市街地以外)	259	284	▲25
新道	31	53	▲22
金谷	110	155	▲45
諏訪	5	7	▲2
和田	22	33	▲11
津有	27	12	15
春日	108	106	2
三郷	10	4	6
高士	3	6	▲3
直江津(中心市街地以外)	41	50	▲9
有田	45	61	▲16
八千浦	6	3	3
保倉	2	7	▲5
北諏訪	2	4	▲2
谷浜・桑取	1	0	1



合 計	
転 入	1,782
転 出	1,988
社会動態	▲206

参 考	
出 生	124
死 亡	579
自然動態	▲455

	転入	転出	差引
[県内]	299	293	6
下越(新潟市等)	105	139	▲34
三条・燕園	13	19	▲6
長岡圏	54	41	13
柏崎圏	10	13	▲3
魚沼・十日町圏	17	25	▲8
妙高市	59	41	18
糸魚川市	37	12	25
佐渡市	4	3	1

[旧13町村]	101	68	33
安塚	3	3	0
浦川原	7	5	2
大島	5	1	4
牧	3	2	1
柿崎	15	6	9
大潟	6	7	▲1
頸城	6	6	0
吉川	2	3	▲1
中郷	6	7	▲1
板倉	16	18	▲2
清里	13	2	11
三和	17	8	9
名立	2	0	2

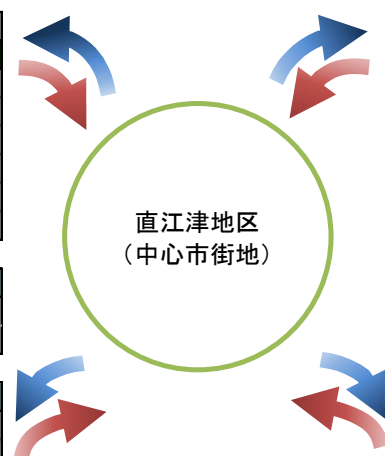
備考) 転入・転出の合計値には職権記載・消除及び不明分を含む 出所) 上越市住民基本台帳データをもとに上越市創造行政研究所作成

- 関東圏への転出のほか、直江津区の中心市街地以外のエリアへの転出がみられます。

	転入	転出	差引
[県外]	277	316	▲39
北海道・東北	31	29	2
関東	116	169	▲53
長野県	29	18	11
中部(長野以外)	28	27	1
西日本	48	55	▲7
国外	25	18	7

中心市街地	187	195	▲8
高田(中心市街地)	10	18	▲8
直江津(中心市街地)	177	177	0

[合併前上越]	430	489	▲59
高田(中心市街地以外)	33	40	▲7
新道	17	17	0
金谷	20	17	3
諏訪	0	4	▲4
和田	4	2	2
津有	7	6	1
春日	81	83	▲2
三郷	0	0	0
高士	1	4	▲3
直江津(中心市街地以外)	161	205	▲44
有田	85	89	▲4
八千浦	6	11	▲5
保倉	2	4	▲2
北諏訪	4	4	0
谷浜・桑取	9	3	6



合 計	
転 入	1,130
転 出	1,245
社会動態	▲115

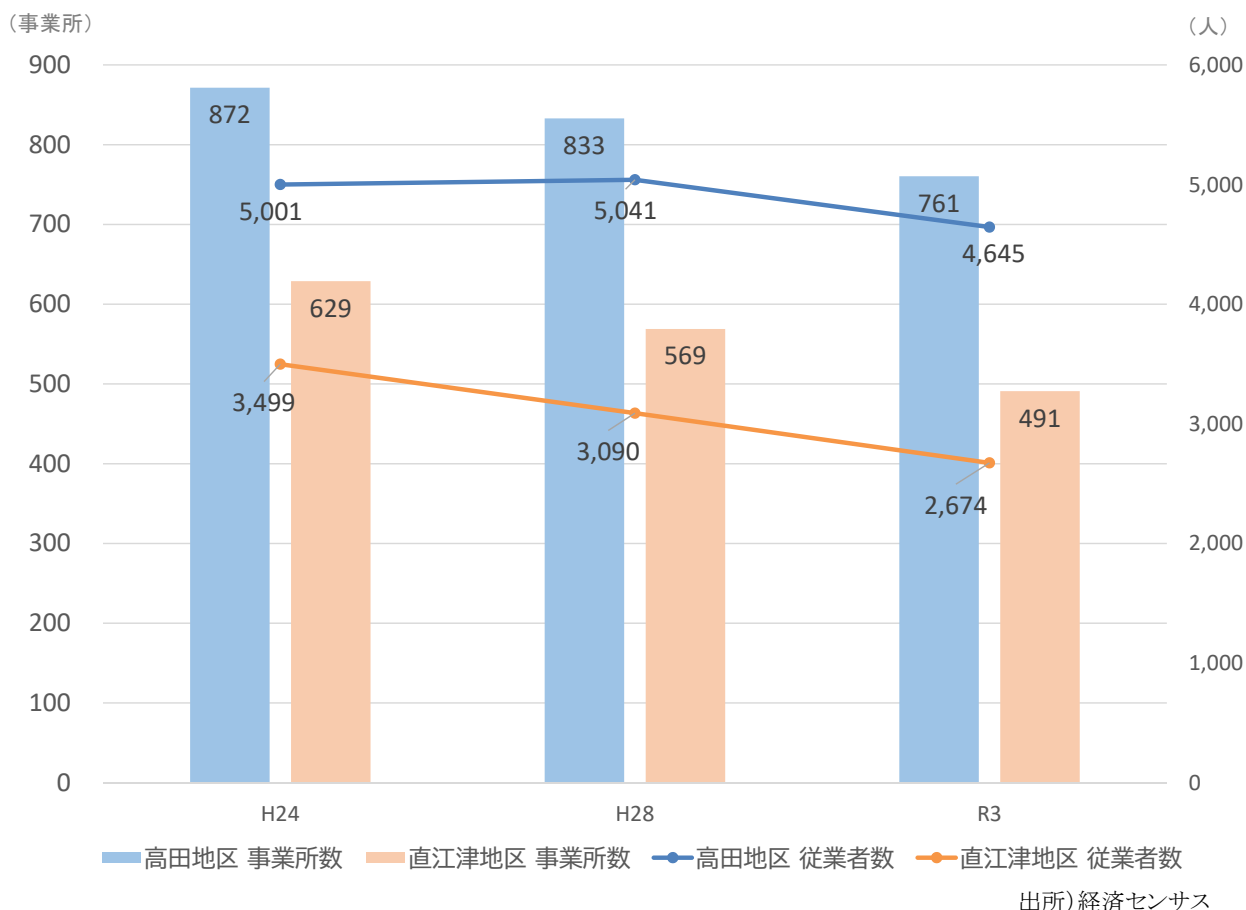
参 考	
出 生	71
死 亡	375
自然動態	▲304

	転入	転出	差引
[県内]	148	152	▲4
下越(新潟市等)	81	78	3
三条・燕園	3	7	▲4
長岡圏	17	19	▲2
柏崎圏	8	9	▲1
魚沼・十日町圏	14	15	▲1
妙高市	3	11	▲8
糸魚川市	18	8	10
佐渡市	4	5	▲1

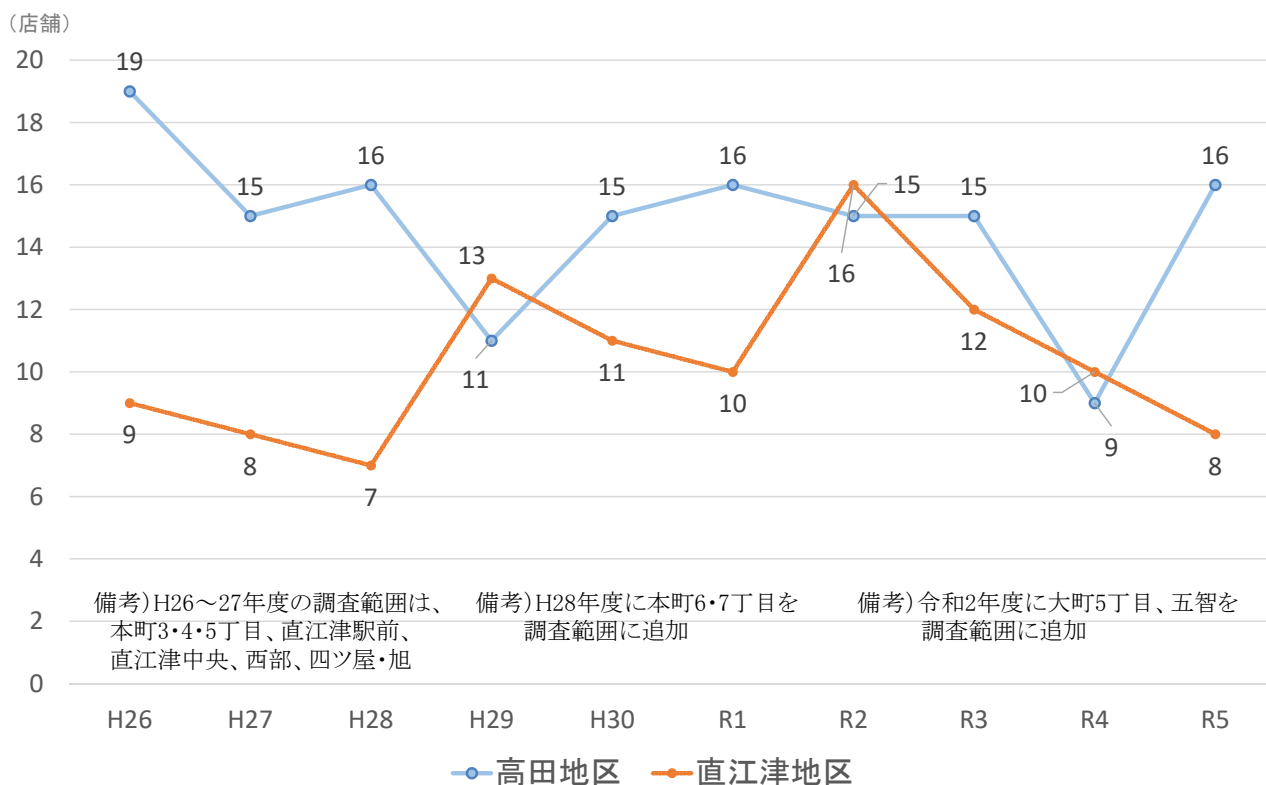
[旧13町村]	86	85	1
安塚	2	3	▲1
浦川原	6	1	5
大島	0	2	▲2
牧	1	0	1
柿崎	6	10	▲4
大潟	28	32	▲4
頸城	18	14	4
吉川	3	4	▲1
中郷	1	2	▲1
板倉	5	6	▲1
清里	3	1	2
三和	6	5	1
名立	7	5	2

備考) 転入・転出の合計値には職権記載・消除及び不明分を含む 出所) 上越市住民基本台帳データをもとに上越市創造行政研究所作成

- 高田地区・直江津地区とも、事業所数・従業者数ともに減少傾向にあります。

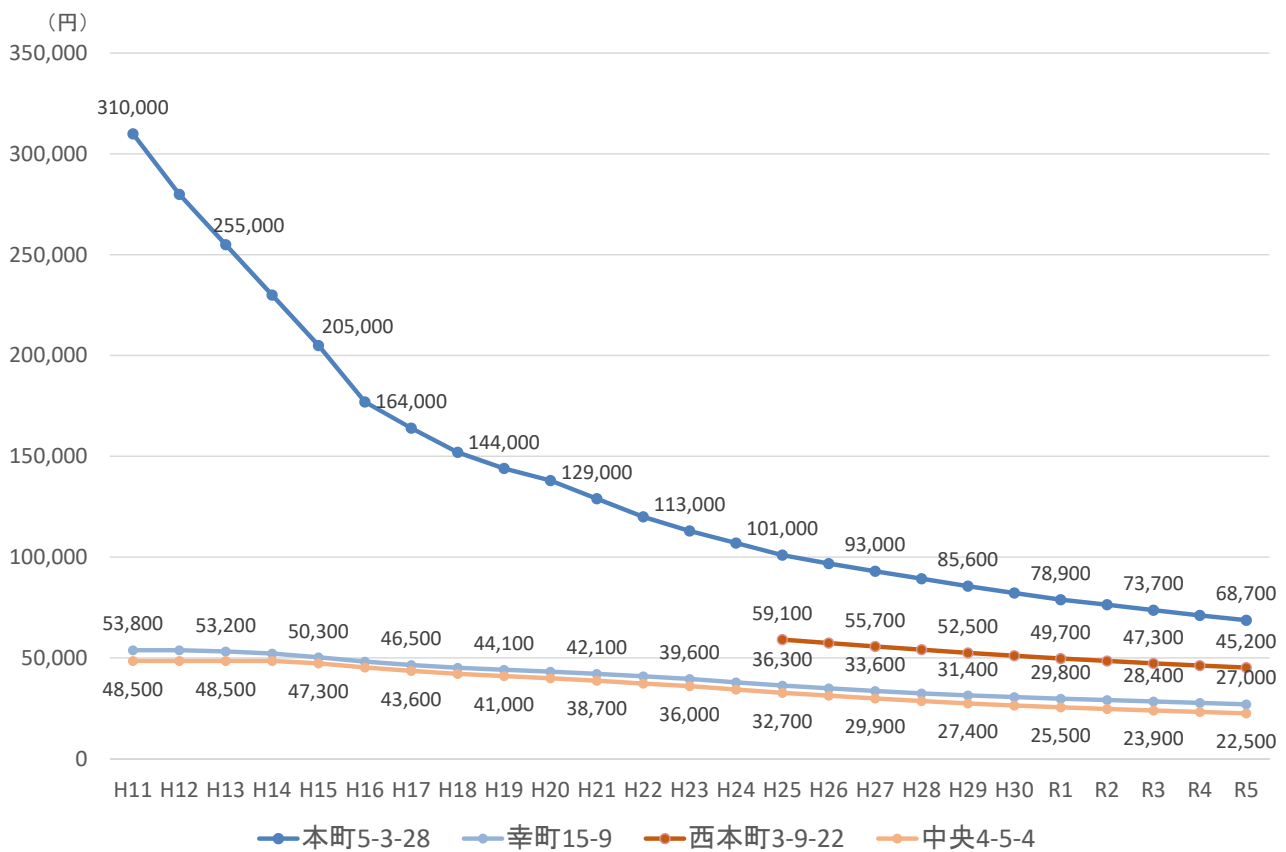


- 高田地区・直江津地区とも、空き店舗が継続的に発生しています。



備考) 調査対象は1階に位置する貸出可能店舗数、H28年及びR2年に調査範囲を変更(拡大)
出所) 上越市中心市街地活性化協議会調査(各年3月末)

- 高田地区・直江津地区とも、公示価格が減少傾向にあります。



備考) 各年1月1日時点、西本町3丁目は平成25年から 出所)新潟県土木部

令和6年度 上越市消費動向調査結果

調査概要

- 1 調査名 令和6年度上越市消費動向調査
- 2 調査目的 (1) 市民の買物行動を調査し、中心市街地活性化施策や商業振興施策等の基礎資料とする。
(2) 中心市街地である高田・直江津地区の商店街について、市民が持つイメージや期待を調査し、今後の商店街の活性化等の基礎資料とする。
- 3 調査内容 (1) 買物地区の利用頻度、移動手段及び品目ごとの購入金額割合
(2) 高田・直江津地区の商店街に対するイメージや期待
- 4 調査方法 住民基本台帳から無作為抽出した20歳以上の市民5,000人に調査票を送付し返信用封筒により調査票を回収、または、市の電子申請システムから回答。
- 5 調査期間 令和6年6月3日(月)～28日(金)

目次

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> ① 回答者の属性 ② 買い物利用頻度の高い(週2、3回以上)エリア ③ 高田地区・直江津地区への訪問頻度 ④ 高田地区・直江津地区への訪問目的 ⑤ 高田地区・直江津地区での購入商品 ⑥ 中心市街地エリア以外での購入商品 <p>――― 属性の区分分けによる中心市街地における動向 ―――</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦ 高田地区への性別・年代別訪問頻度 ⑧ 高田地区への性別・年代別訪問目的 ⑨ 直江津地区への性別・年代別訪問頻度 ⑩ 直江津地区への性別・年代別訪問目的 <p>――― 中心市街地におけるイベントの認知度等 ―――</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑪ 高田地区でのイベントの認知・参加の状況 ⑫ 直江津地区でのイベントの認知・参加の状況 ⑬ 中心市街地で実施してほしい企画やイベント等 | <p>――― 第3期プログラムの目標指標に対する現況 ―――</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑭ 目標指標① 地区での買い物頻度 ⑮ 目標指標② 主要な拠点施設の年間利用者数の推移 ⑯ 高田地区・直江津地区の主要な拠点施設の年間利用者数の推移 |
|---|---|

※高田区の中心市街地エリアを「高田地区」、直江津区の中心市街地エリアを「直江津区」と表記しています。

1 性別

回 答	男性	女性	回答しない・未記入
回答数	946	1,270	66
構成比	41.5%	55.7%	2.9%

回収数 2,282 /5,000件
回収率 45.6%

2 年 代

回 答	20 代	30 代	40代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	未記入
回答数	335	203	331	383	436	352	218	24
構成比	14.7%	8.9%	14.5%	16.8%	19.1%	15.4%	9.6%	1.1%

3 職 業

回 答	会社員等	パート・ アルバイト	自営業	学生	無職(家事専従 者を含む)	その他	未記入
回答数	1,002	356	111	34	687	52	40
構成比	43.9%	15.6%	4.9%	1.5%	30.1%	2.3%	1.7%

4 居住地

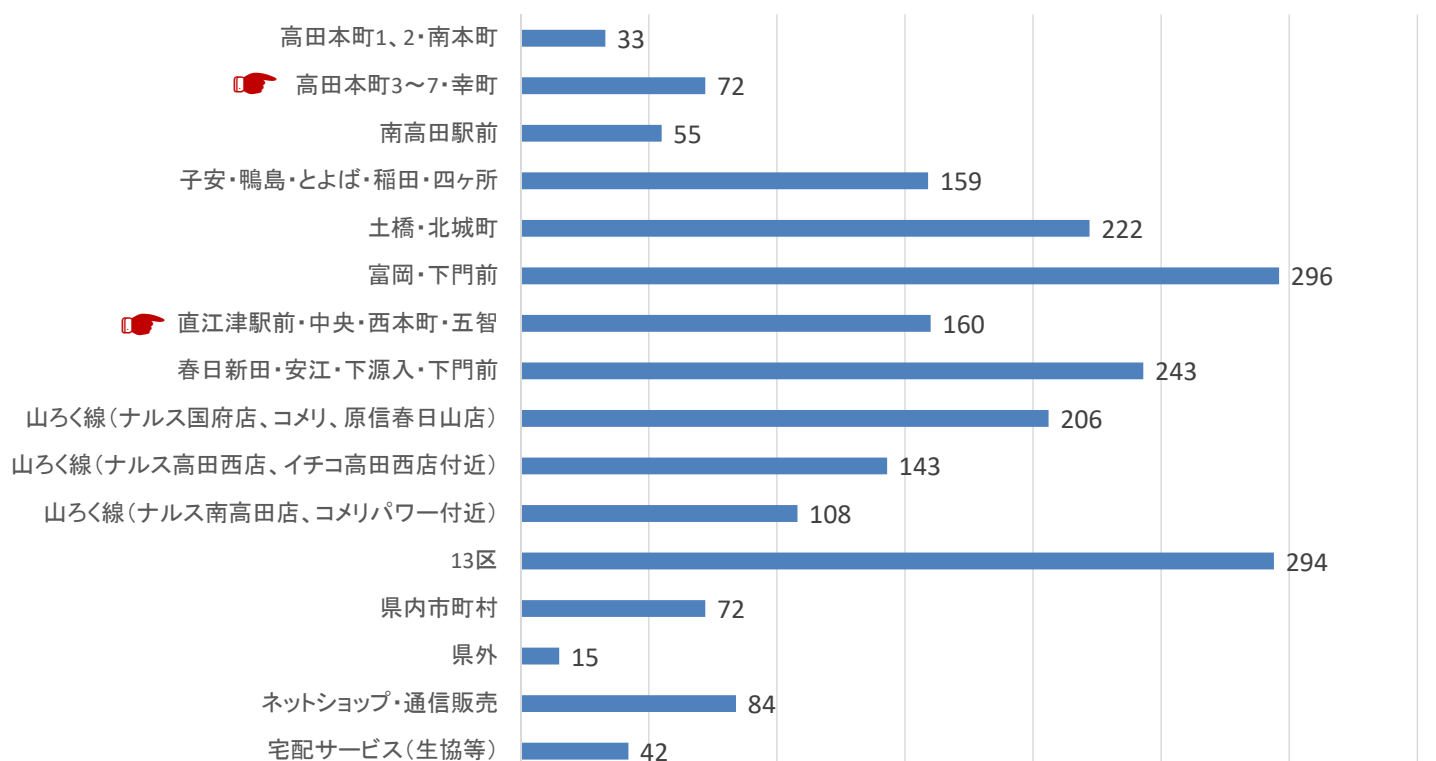
回 答	高田区	新道区	金谷区	諏訪区	和田区	津有区	春日区	三郷区	高士区	直江津区	有田区	八千浦区	保倉区	北諏訪区	谷浜・桑取区
回答数	444	79	93	8	63	50	263	18	20	248	154	42	25	14	17
構成比	19.5%	3.5%	4.1%	0.4%	2.8%	2.2%	11.5%	0.8%	0.9%	10.9%	6.7%	1.8%	1.1%	0.6%	0.7%

回 答	安塚区	浦川原区	大島区	牧区	柿崎区	大潟区	頸城区	吉川区	中郷区	板倉区	清里区	三和区	名立区	未記入
回答数	21	34	18	20	115	112	99	50	49	73	27	63	29	34
構成比	0.9%	1.5%	0.8%	0.9%	5.0%	4.9%	4.3%	2.2%	2.1%	3.2%	1.2%	2.8%	1.3%	1.5%

買い物利用頻度の高いエリア（「週に2、3回以上」の回答数）

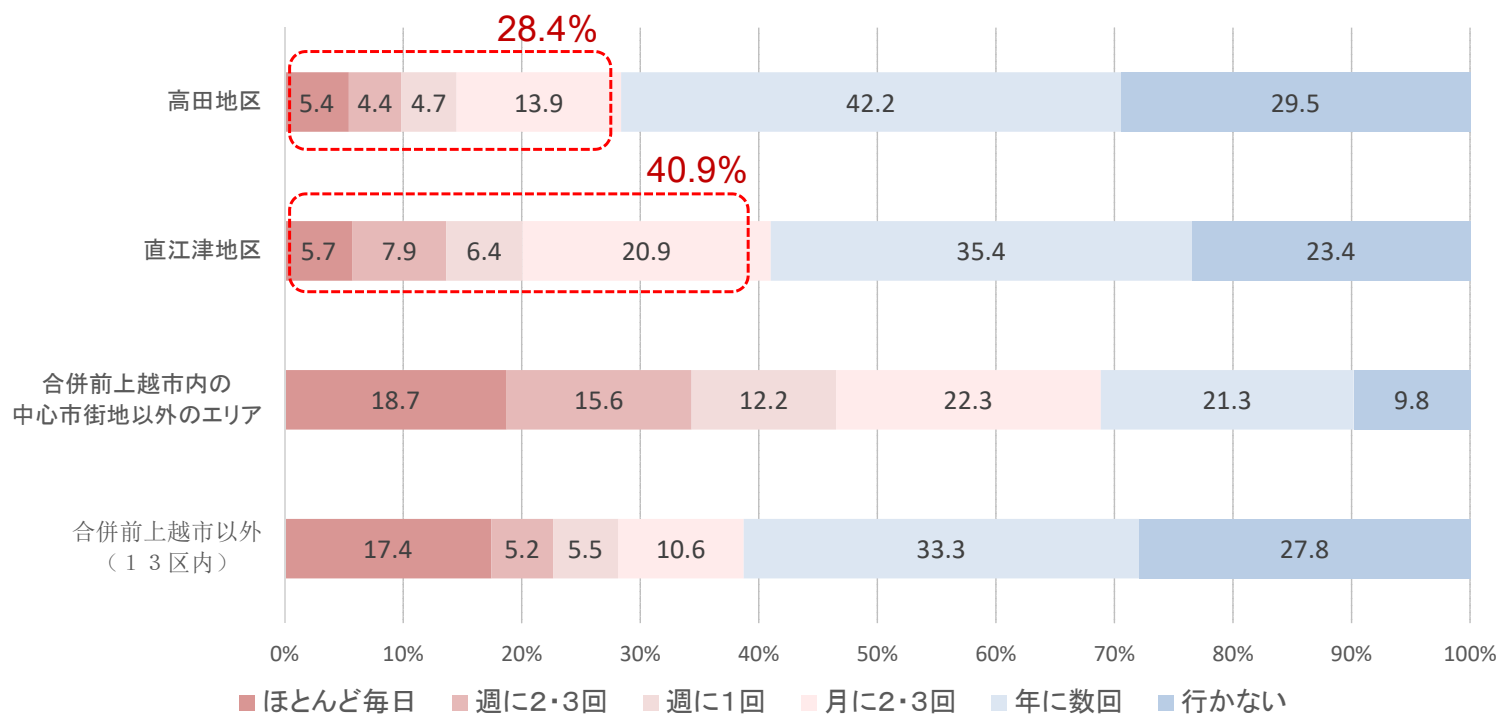
- 高田地区・直江津地区で「週に2、3回以上」買い物する人は、全市の1割ほどです。
- 富岡・下門前エリアなどでの買い物頻度が高くなっています。

(回答数)



3 高田地区・直江津地区への訪問頻度

- 「ほとんど毎日」、「週に2・3回」、「週に1回」、「月に2・3回」を合わせた回答割合の合計は、高田地区 28.4%、直江津区 40.9% となっています。

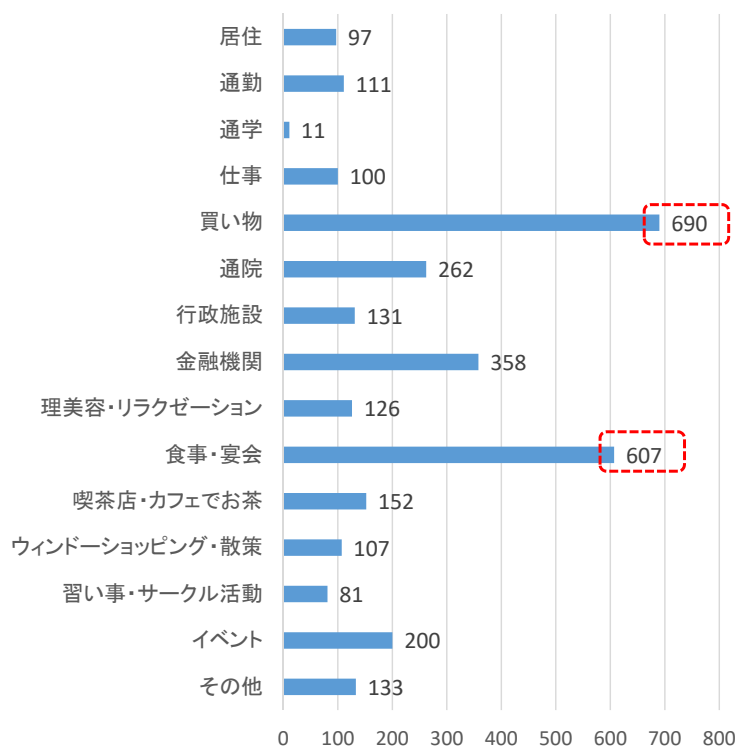


4 高田地区・直江津地区への訪問目的

- 高田地区・直江津地区への訪問目的は「買い物」や「食事・宴会」が多くなっています。

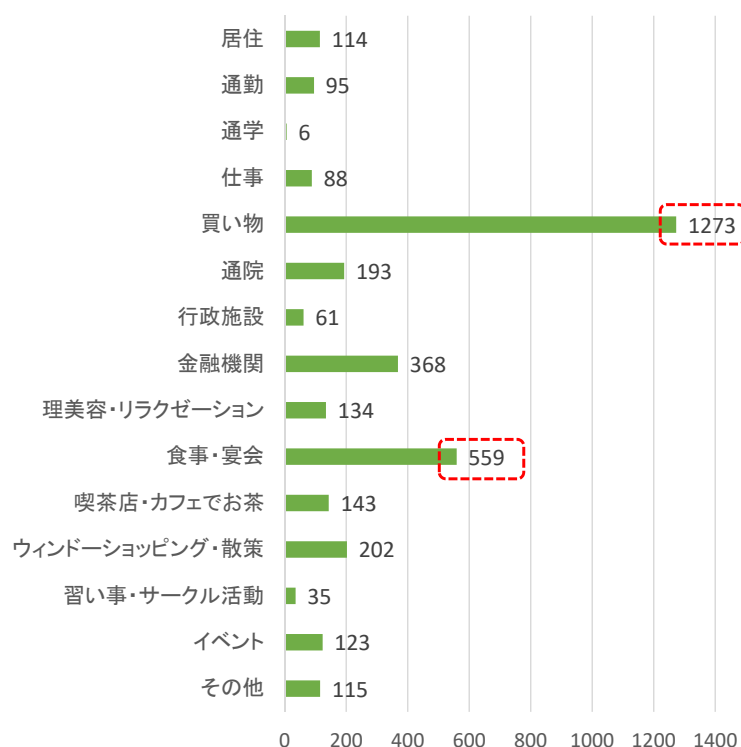
高田地区

(回答数)



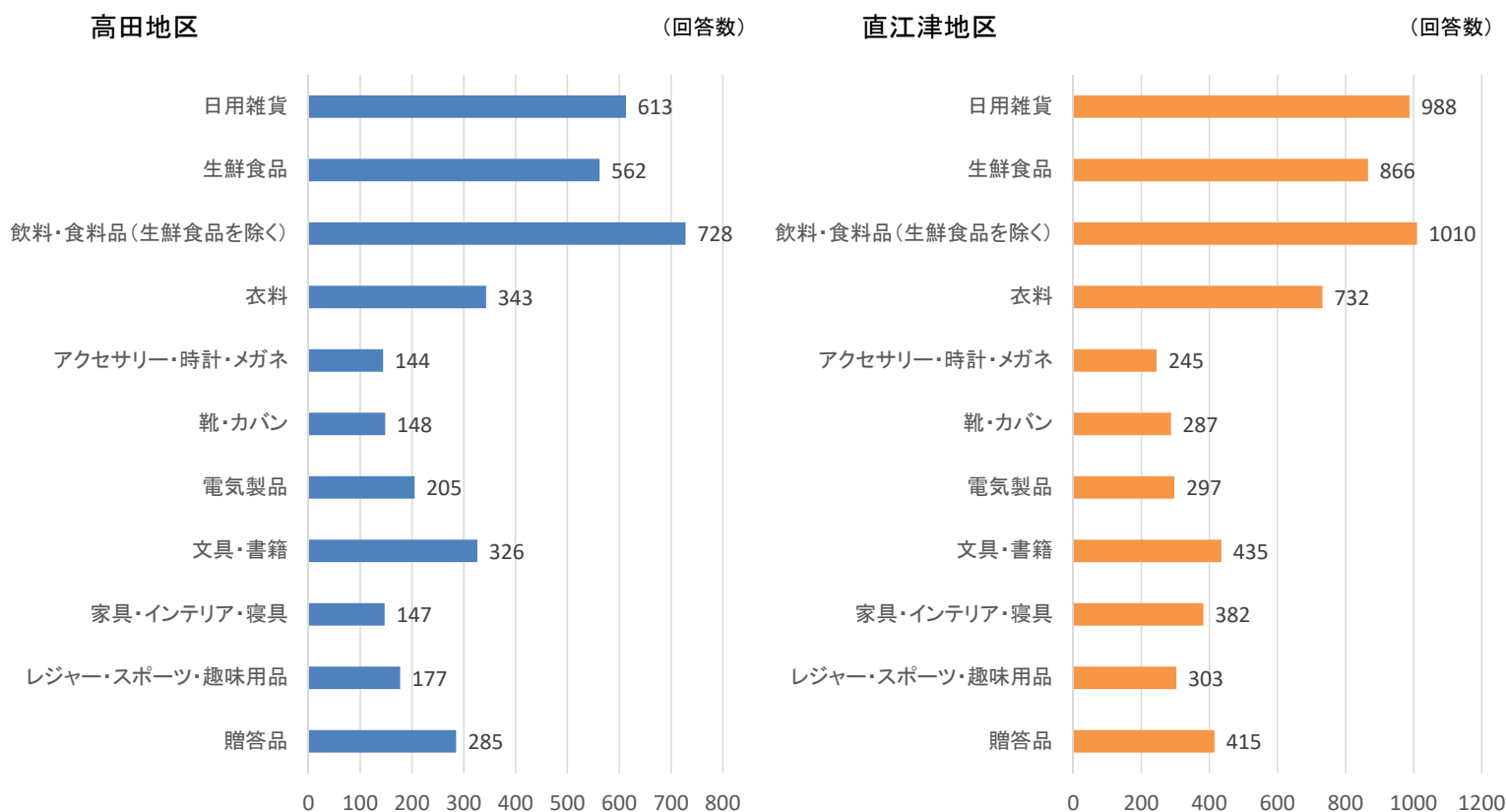
直江津地区

(回答数)



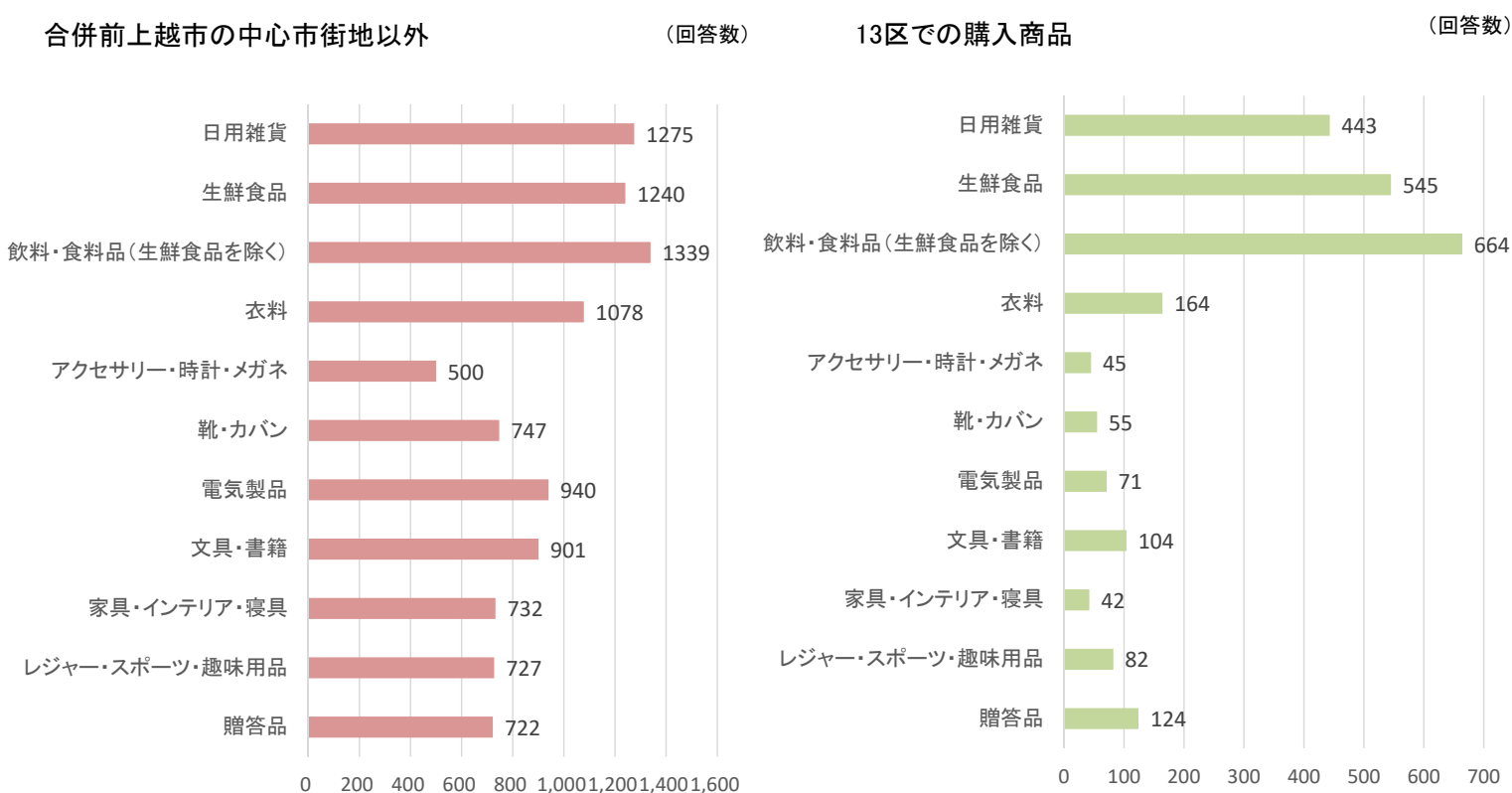
5 高田地区・直江津地区での購入商品

- 高田地区・直江津地区とも、日用雑貨等のほかに、多様な商品が購入されています。



6 中心市街地エリア以外での購入商品

- 中心市街地以外のエリアにおいて、多数の商品が購入されています。
- 13区では、食料品等の日用品以外の割合は低くなっています。



属性の区分分けによる中心市街地における動向

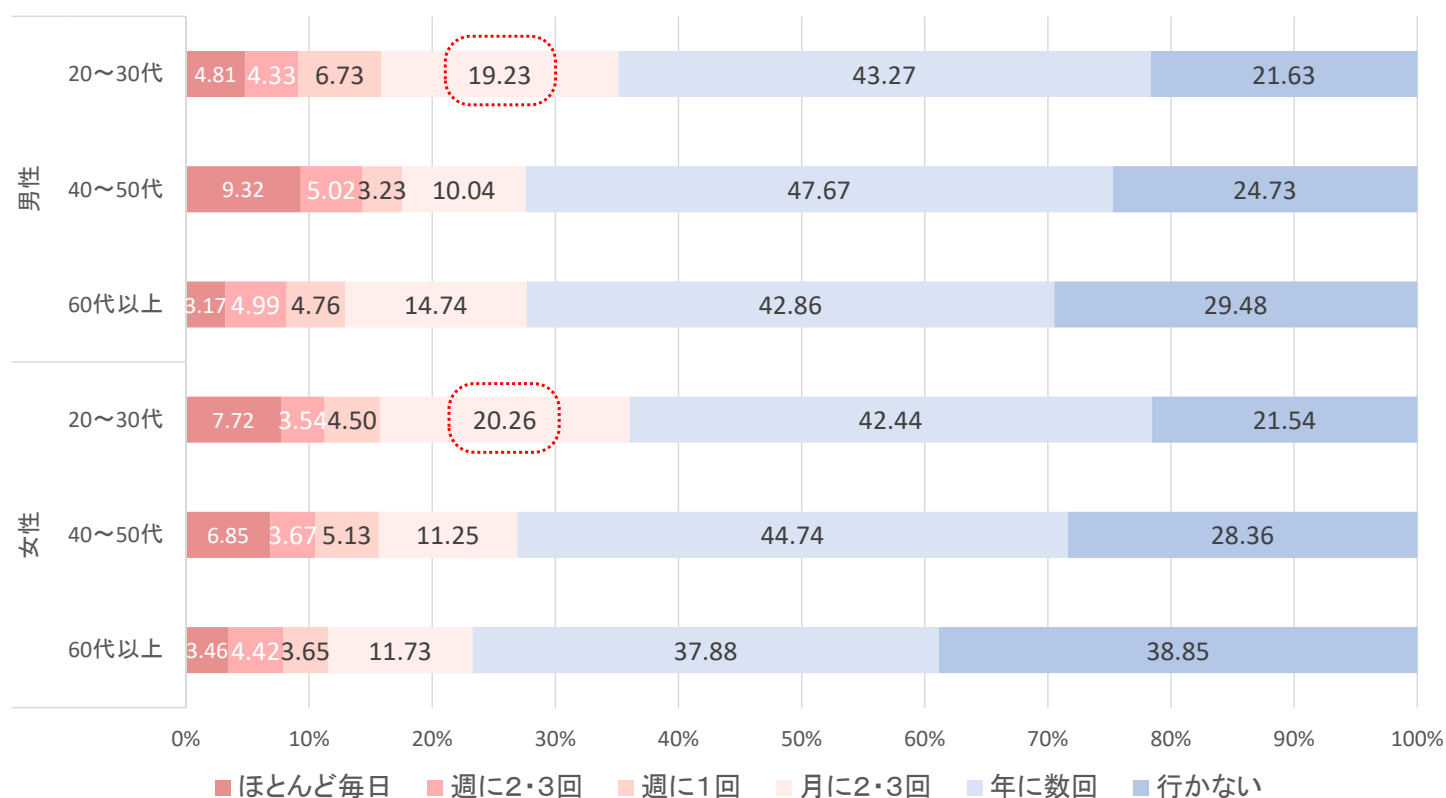
回答者属性として、男女別、年代別を取り上げます。
分析しやすくするために次のように情報を圧縮し、
区分けします。なお、無回答は除いています。

区分	20～30代	40～50代	60代以上	計
男	210人	280人	456人	946人
女	314人	413人	542人	1,269人
合 計	524人	693人	998人	2,215人

- ⑦ 高田地区 性別・年代別の訪問頻度
- ⑧ 高田地区 性別・年代別の訪問目的
- ⑨ 直江津地区 性別・年代別の訪問頻度
- ⑩ 直江津地区 性別・年代別の訪問目的

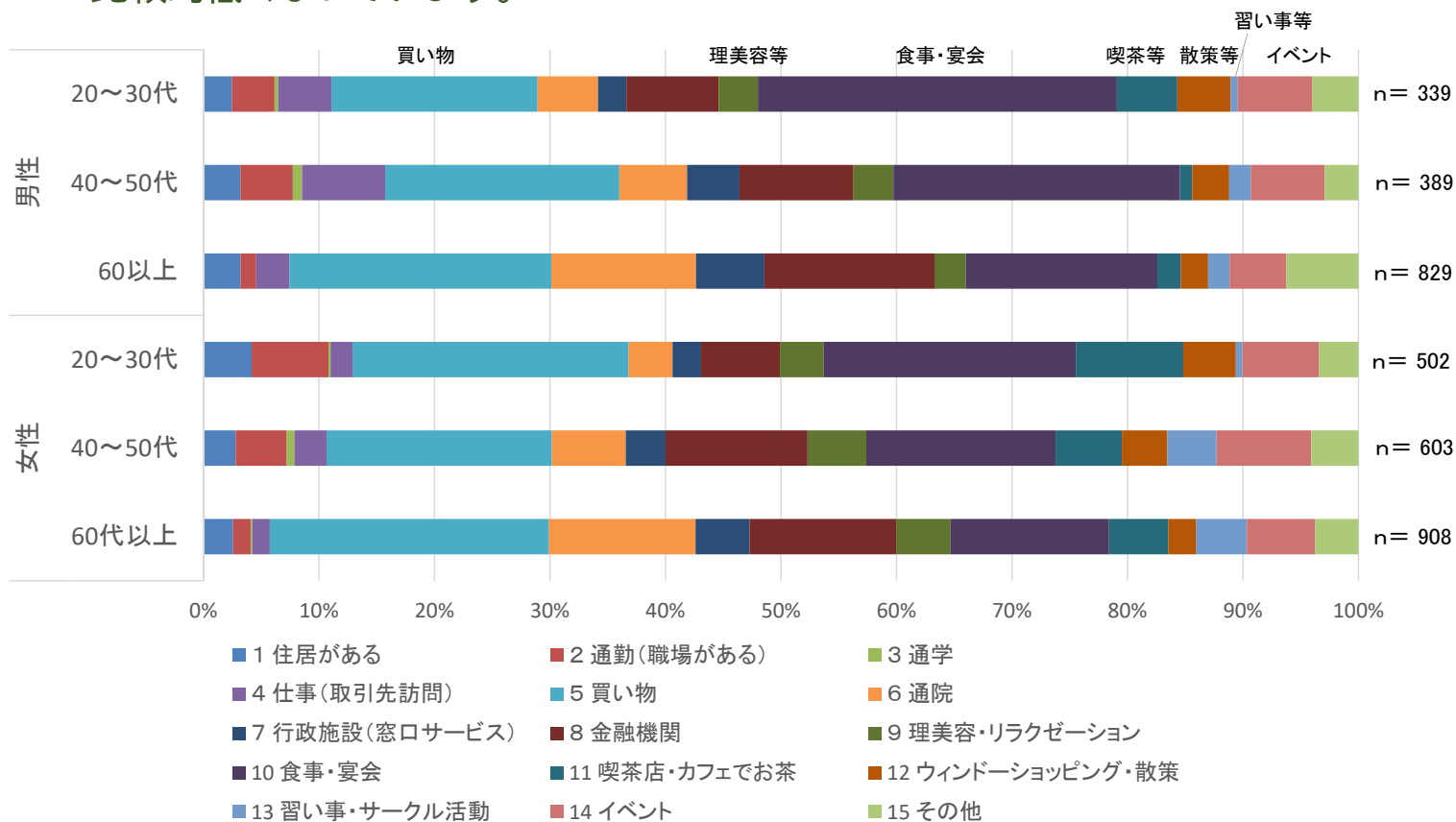
7 高田地区への性別・年代別訪問頻度

- 男女とも他の年代に比べて、20～30代の「月に2・3回」の割合が高くなっています。



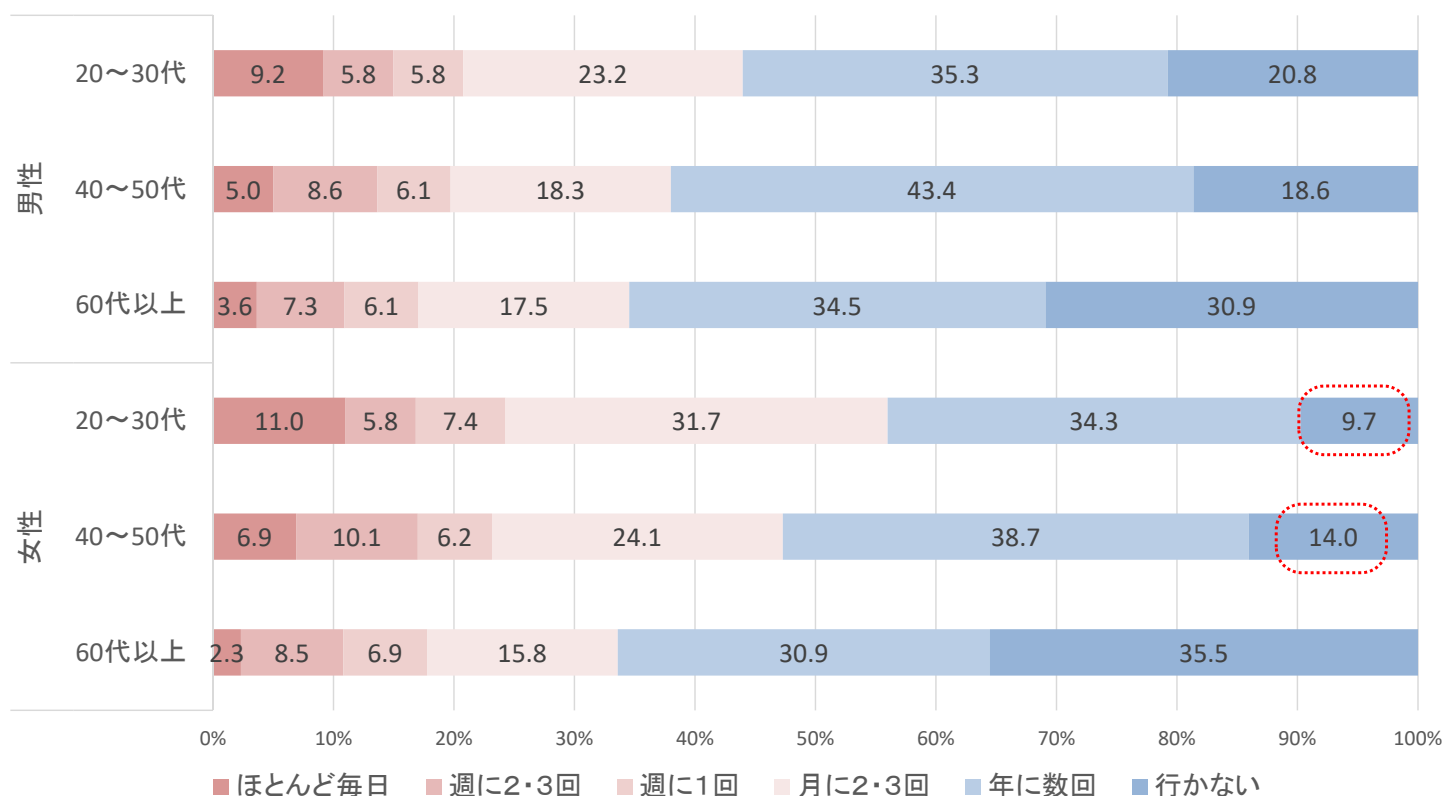
8 高田地区への性別・年代別訪問目的

- 男女とも「買い物」の回答数が多くなっていますが、男性の20～50代の回答数は比較的低くなっています。

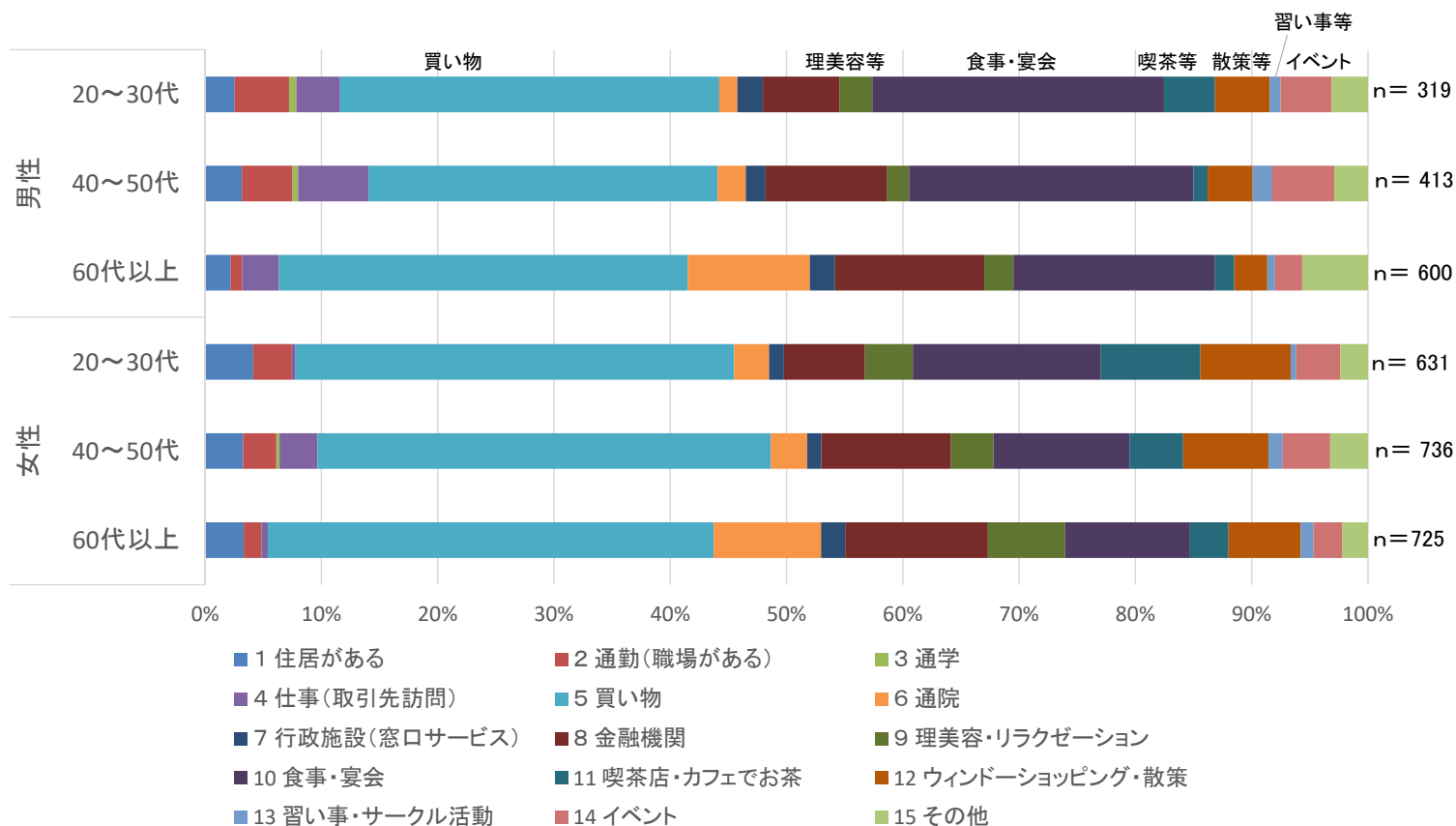


9 直江津地区への性別・年代別訪問頻度

- 女性の20～30代、40～50代の「月に2・3回」、「年に数回」の割合が高く、「行かない」の割合が低くなっています。

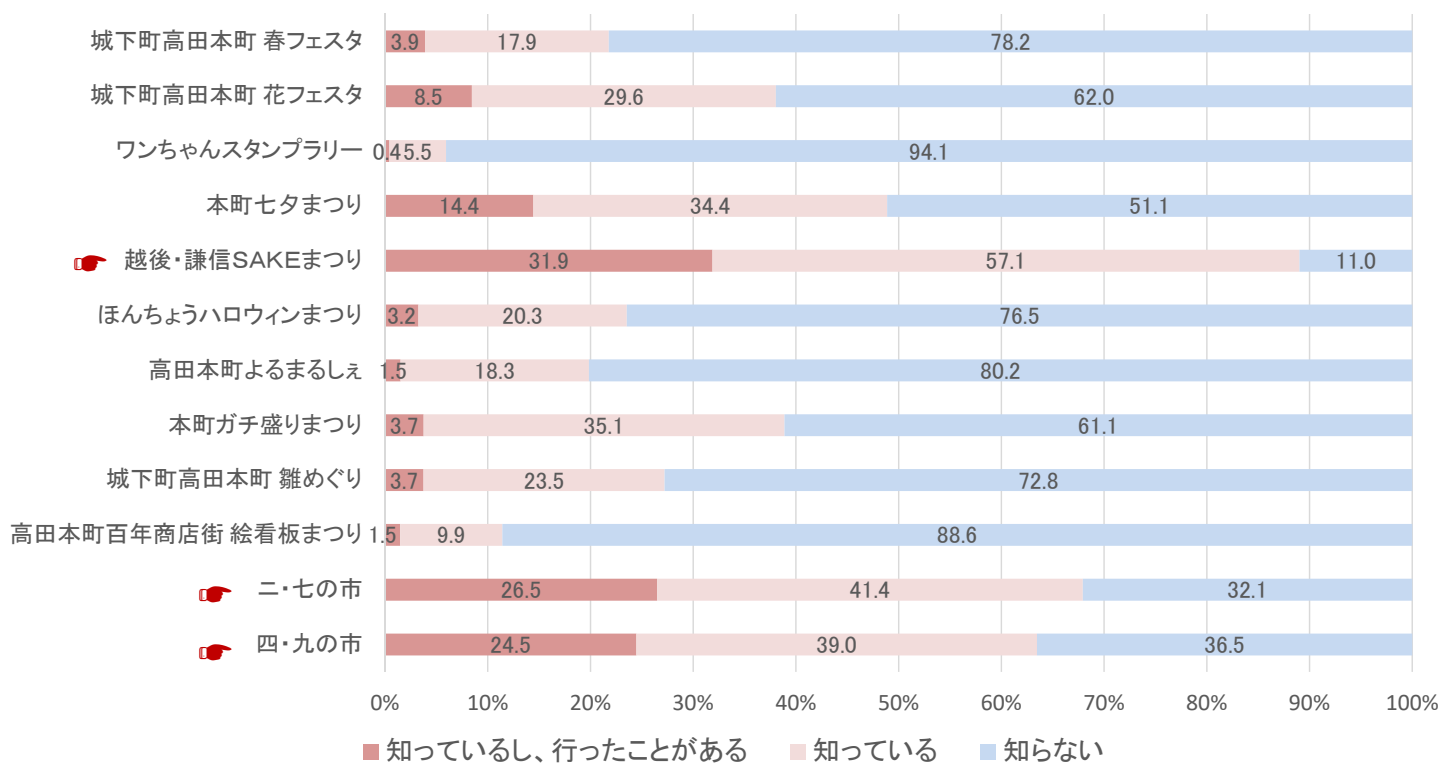


- 男女とも「買い物」の回答数が多くなっていますが、男性の20～50代の回答数は比較的低くなっています。



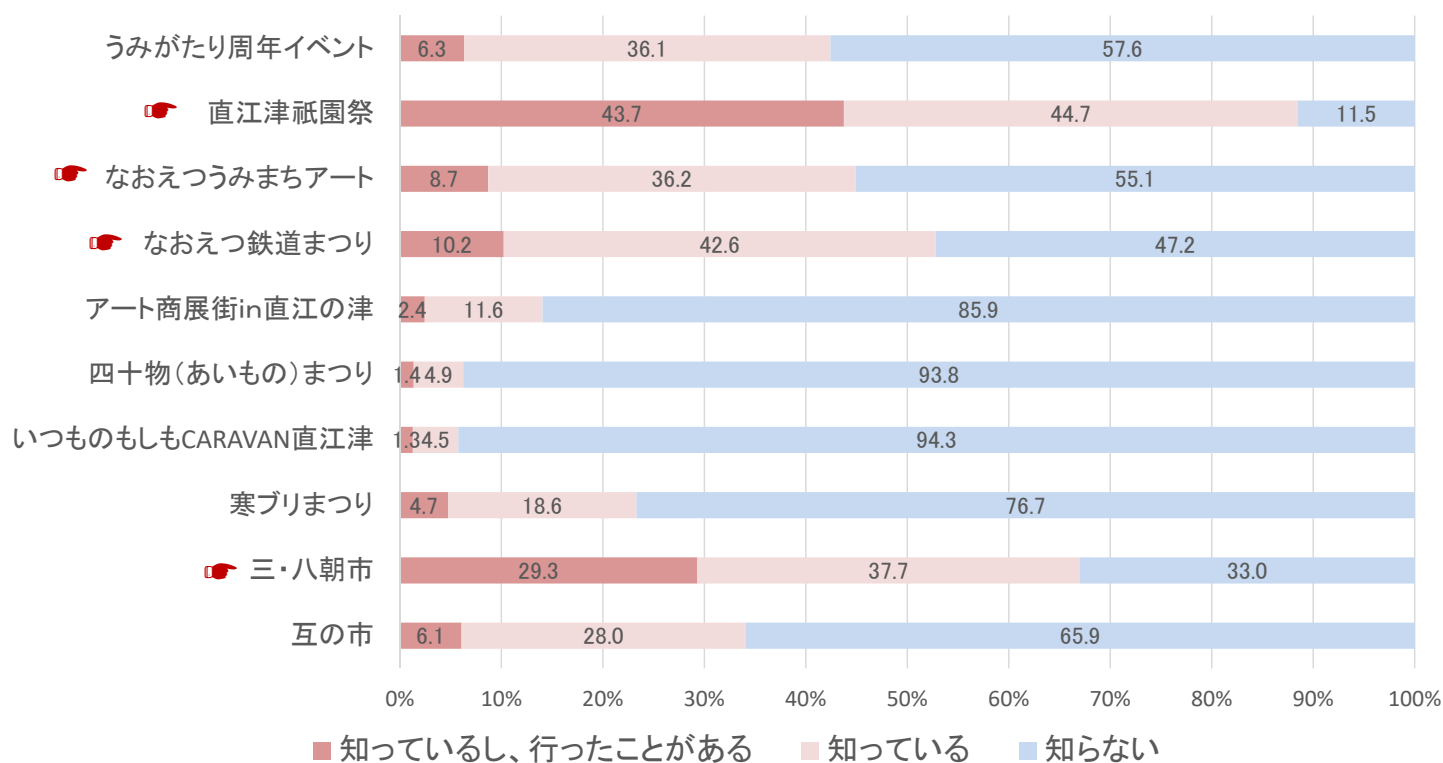
11 高田地区でのイベントの認知・参加の状況

- 越後・謙信SAKEまつり、二・七の市、四・九の市 は、よく知られており、「行ったことがある」の回答数も多くなっています。



12 直江津地区でのイベントの認知・参加の状況

- 直江津祇園祭、三・八の市、鉄道まつり、うみまちアートの認知度が高くなっています。



13 中心市街地で実施してほしい企画やイベント等（自由記載）

- イベント
- ① ビアガーデン、バル街などの食べ歩き企画のほか、ラーメン・パン・スイーツなどをフード、グルメをテーマとした催し(111)
 - ② フリーマーケット(蚤の市)、クラフトマーケットなど(50)
 - ③ 子どもが喜ぶ、子どもと楽しめるイベント(47)
 - ④ ライヴやフェスなど音楽関係(29)
 - ⑤ 動物と触れ合える催し(16)
 - ⑥ その他(114)

※「この調査を通じて様々なイベントがあることを知った」、「もっとPRすべき」といった意見もあり(17)

- 施設等
- ① アミューズメント施設など、民間の大型施設の誘致への要望(30)
 - ② 駐車場の拡大、無料化、場所が分かりにくいといった改善要望(52)
 - ③ 中心市街地に行く手段が少ないなど、公共交通機関への要望(13)

第3期上越市中心市街地活性化プログラム

目標指標に対する現況

- 14 目標指標① 地区での買い物頻度
- 15 目標指標② 主要な拠点施設の年間利用者数の推移
- 16 高田地区・直江津地区の主要な拠点施設の年間利用者数の推移

14 第3期プログラムの目標指標に対する現況 ①

- 高田区居住者が本町3～7丁目、幸町で週2、3回以上買い物する割合

買い物頻度	回答数	割合
週に2,3回以上	61	7.4%
月に2,3回程度	170	20.5%
ほぼ行かない	597	72.1%
合 計	828	100.0%

第3期プログラムの目標指標「6.3%以上」に対し、
当調査では「7.4%」となった。

- 直江津区居住者が直江津駅前、中央、西本町、五智で週2、3回以上買い物する割合

買い物頻度	回答数	割合
週に2,3回以上	85	18.8%
月に2,3回程度	147	32.5%
ほぼ行かない	220	48.7%
合 計	452	100.0%

第3期プログラムの目標指標「19.2%以上」に対し、
当調査では「18.8%」となった。

- 直江津区に居住していない市民が直江津駅前、中央、西本町、五智で買い物する割合

買い物頻度	回答数	割合
年に数回以上	1,690	46.1%
利用していない	1,973	53.9%
合 計	3,663	100.0%

第3期プログラムの目標指標「29.8%以上」に対し、
当調査では「46.1%」となった。

15 第3期プログラムの目標指標に対する現況 ②

● 主要な拠点施設の年間利用者数の推移

高田地区

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
町家交流館高田小町	24,797	25,596	27,846	28,785	28,777	17,052	20,889	22,306	25,210
高田まちかど交流館	18,054	20,824	15,985	23,988	24,342	10,940	14,833	22,574	30,786
あすとびあ高田	563,370	619,744	654,128	636,968	604,465	431,752	417,075	443,551	479,944
イレブンプラザ	440,069	433,283	430,232	438,597	439,044	404,812	400,150	423,424	445,796
合 計	1,046,290	1,099,447	1,128,191	1,128,338	1,096,628	864,556	852,947	911,855	981,736

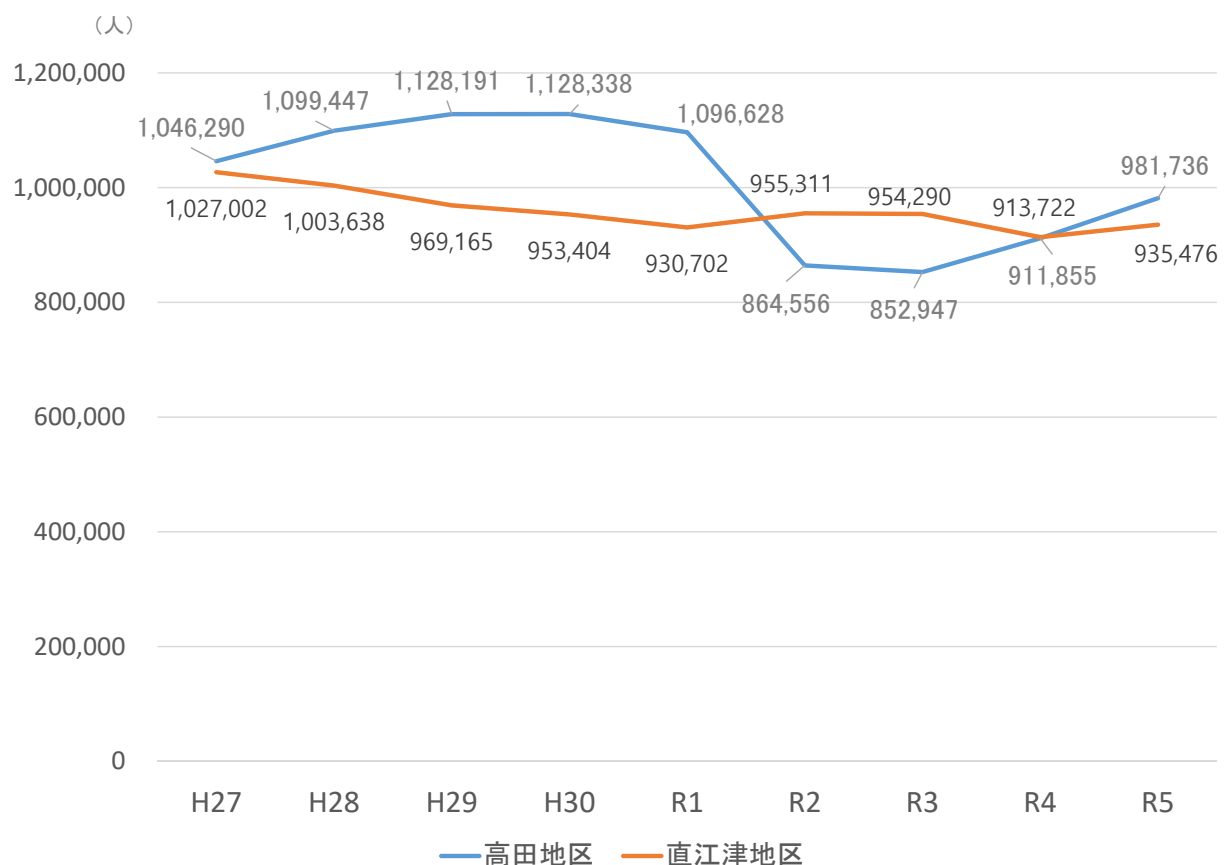
第3期プログラムの目標指標は1,129,000人以上

直江津地区

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
直江津学びの交流館	252,042	247,656	247,517	245,609	242,455	175,419	199,635	195,659	201,616
ライオン像のある館	1,610	3,030	2,958	4,530	6,428	2,962	7,502	5,009	5,986
直江津ショッピングセンター	773,350	752,952	718,690	703,265	681,819	776,930	747,153	713,054	727,874
合 計	1,027,002	1,003,638	969,165	953,404	930,702	955,311	954,290	913,722	935,476

第3期プログラムの目標指標は954,000人以上

16 (参考) 主要な拠点施設の年間利用者数の推移



第 3 期プログラム期間中の各種取組の現況

1 第 3 期プログラムにおいて例示した「主な取組」に対する実施内容等

(1) 高田地区

区分	第 3 期プログラムにおける取組の例示	現況	実施内容等
基本方針 1 商店街や店舗の魅力と利便性の向上	○イベント開催やサービス提供を通じた来街機会の創出 ・商店街、街なかイベントの開催 ・希少な商品や人気グルメ等の販売 ・商店街、店舗、拠点施設等利用者への特典付与 他	○	・本町商店街において様々なイベントを開催し、来街機会を創出。 ・ゆめカード事業による利用者への特典付与の実施。
	○時代の変化をとらえた若手店主による企画事業 ・将来を見据えたビジョンや商店街事業の検討・実施 ・若者や学生を街なかに呼び込む仕掛けの検討・実施 ・イベント広場の開放など商店街エリアの新たな利用目的の提案 他	○	・10 年ビジョン検討会が「よるまるしえ」を開催。高田駅前のイルミネーション装飾により、若い世代の来街に貢献。 ・高田商業高校「Rikka」がオリジナルパンを開発、商店街で販売。
	○街に来やすい、滞在しやすい環境の整備 ・高齢者の居場所や若者の交流の場づくり ・休憩場所、待ち合わせ場所、トイレ等の提供 ・駐車場の利用環境の改善 他	○	・「ほっとステーション五番館」と「高田まちかど交流館」が、休憩や交流の場を設置。 ・本町商店街の駐車場やアーケードなどの共用設備の更新や改装を実施。
	○インバウンドの来街増加につながる仕掛けづくり ・冬のスキーを主目的とした外国人観光客の受け入れ環境の充実 ・まちの歴史や文化をいかした誘客 他	△	・創業 100 年超の老舗店舗を生かした PR 活動などを展開。 ・インバウンド対応は一部の団体・事業者に留まる。また、コロナ禍により、やむなく活動が停滞。
	○個別店舗の利便性の向上 ・最寄品の品揃えの充実 ・入店・滞在しやすい店舗環境の整備 ・営業時間帯や休日等の見直し検討(早朝・夜間営業等) 他	△	・個別店舗において品揃えの工夫などはあるものの、商店街全体としての利便性向上に向けた検討が必要。
	○商店街の価値を高める繁盛店づくり ・支援機関やコンサルタントを活用した店舗づくり ・商店街を挙げた繁盛店の育成と PR・情報発信 ・地区内の不足業種・業態や人気ブランド等の誘致 他	○	・商店街 SNS を活用し、各店舗の商品やイベントなどを積極的に発信。 ・FC 飲食店が商店街イベントに参加し、相乗効果を発揮。
	○商店街の力を底上げする商店間の連携 ・個別店舗間の情報共有(SNS、紙媒体の活用) ・他店舗情報の相互発信 他	○	・商店間の情報共有や連携を深めるため「かわら版」を発行。 ・商店街 SNS や HP において、店舗紹介やイベントを発信。
	○エリア全体を回遊する機会の創出 ・エリア間の連携によるイベント開催 ・エリア共通の情報発信ツール(SNS、HP 等)の供用 ・エリア回遊者への特典やサービス付与の検討・実施 他	△	・商店街 SNS と各店舗や団体の SNS を相互フォローし、情報発信を連携。 ・SAKE まつり等で街なか回遊イベントが実施されるも、試行段階と言える。
基本方針 2 エリア間の	○各エリアで取組を進める商店街、商工団体、市民団体等の連携促進 ・情報交換や交流の場づくり ・SNS を活用した地区全体の情報共有 ・エリアを超えた買い物、施設見学モデルコースの検討 ・他のエリアに関する学習会の開催 他	○	・関係組織による全体会議、広報販促委員会等の会議を開催。 ・若手店主やまちづくり会社に参加する勉強会や先行事例視察を実施。

連携強化	○各エリアにおけるエリア内及び他エリアへの案内機能 ・公共施設における案内機能の強化 ・拠点施設を活用したエリア情報の発信 ・地区公認の案内場所、店舗等の設置 ・チラシ、情報誌等の共有と配布 他	○	・直江津や上越妙高駅周辺などのエリアと連携し、ガイドマップを作成・配置。 ・観光案内所等に観光案内やパンフレットを配置、イベントポスターを掲示。
基本方針3 居住環境の改善	○まちの将来像や在り方についての議論・検討 ・モデル地区におけるワークショップの開催 他	○	・モデル地区において、ワークショップ等を実施。 ・各種支援制度の運用を開始。
（両地区共通） まちの力を維持・強化するための取組	○地区内居住人口の維持・増加 ・居住環境の実態把握 ・地区内におけるモデル的な取組の実施 ・街なか居住促進施策の具体化検討 ・街なかへの事業所誘致による昼間人口の増加 他	△	・まちなか居住モデル事業等が実施されているが、居住人口の維持には至っていない。
	○商業機能の維持・拡充 ・後継者の有無、事業承継意向の実態調査 ・事業承継に関する個別相談会、セミナーの実施 ・商店街における最適なテナント構成（業種業態）の実現 ・最寄品取り扱い店舗の配置替え（利用者目線の配置バランスの適正化） ・地区内に不足する業種や業態の商業店舗の誘致 ・町家の商業店舗への転用促進 他	△	・各種調査や個別相談会、町家のリノベーションなどの取組が行われているが、事業所の減少や空き店舗の発生が継続している。
	○空き地、空き家、空き店舗の解消 ・空き地、空き家、空き店舗の詳細把握 ・街なかへの起業、出店支援 ・街なか居住促進施策との連携 ・空き地、空き家、空き店舗見学会の実施 他	○	・市の補助金を活用し、8 店が新規出店（R2～5 年度）。 ・空き店舗の状況を調査し、Webサイトにより情報発信。
	○公共交通の利便性向上 ・市街地を経由する公共交通の維持 ・公共交通乗継ぎの円滑化 ・街なかの歩行環境の改善 ・公共交通待合所の機能拡充（憩い、娯楽、買物など） ・地域と公共交通機関との連携 他	○	・安全・安心な運行のため、鉄道事業者及びバス事業者を支援。 ・バスロケーションシステムの導入による利便性の向上。
	○まちづくり会社の機能強化 ・事業コーディネート能力の向上 ・地区内企業へのコンサルティング力の向上 ・商店街、商工団体への収益事業の提案及び実施支援 ・地区内への商業店舗、事業所誘致 他	○	・商店街や市民団体等の事業立案やイベント運営等をサポート。 ・補助金の申請事務等を支援。

(2) 直江津地区

区分	第3期プログラムにおける取組の例示	現況	実施内容等
基本方針1 拠点施設の来街者に街なか回遊を促す仕掛けの充実	○イベント開催やサービス提供を通じた回遊機会の創出 ・商店街、店舗、拠点施設等の連携による回遊者への特典付与 ・回遊イベントの開催、希少な商品や人気グルメ等の販売 ・拠点施設をつなぐ二次交通の充実 他	○	・うみがたり周年イベントや鉄道まつりなどを開催し、グルメ販売やスタンプラリーを実施、周遊バスを運行。 ・直江津まちづくり活性化協議会が、クーポン付きガイドマップを発行、拠点施設に設置。 ・直江津商店連合会がうみがたり年間パスポート特典事業を実施。
	○拠点施設間の連携強化 ・複数の拠点施設による連携企画の実施 ・SNSを活用した拠点施設間の情報共有 ・拠点施設相互の連携による街なか情報の発信 他	○	・直江津まちづくり活性化協議会が、クーポン券付きガイドマップを発行。 ・うみがたり、D51 レールパーク、直江津ショッピングセンター等に配置。
	○街なか回遊促進に向けた商店街、商工団体、市民団体等の連携促進 ・若手人材の情報交換や学習会、交流の場づくり ・SNSを活用した地区全体の情報共有 ・拠点施設を活用した買い物、施設見学モデルコースの検討	○	・直江津商店連合会が、うみがたり年間パスポート特典事業を実施。
	○まちのイメージの共有と発信 ・まちのイメージの共有化(鉄道、港、北前船、マゼランペンギンなど) ・イメージ戦略の検討・試行 ・多数存在している街歩きマップの統一化の検討 他	○	・鉄道や水族館等をテーマとした印象深いイベントが継続されており、一定のイメージの共有化が図られている。
	○名店・名物・名所・旧跡等のPR ・各店舗の魅力調査と発信方法の検討 ・名物のヒト、モノ、コトの集約・発信 ・名所・旧跡に関する学習会の開催 他	○	・直江津まちづくり活性化協議会が、みどころガイドを発行。 ・まちおこし直江津が“街歩き”を実施。 ・直江津鉄道振興会が鉄道をテーマに講演会を開催。
基本方針2 街なかの受け入れ環境の整備	○街に来やすい、滞在しやすい環境の整備 ・高齢者の居場所や若者の交流の場づくり ・休憩場所、待ち合わせ場所、トイレ等の提供 ・駐車場の利用環境の改善 他	○	・無印良品直江津が店内にコミュニティスペースを開設。 ・交流・観光案内の拠点として、なおえつ茶屋を運営。
	○街なかの目玉づくり ・互の市広場、ライオン像のある館等の有効活用 ・アンテナショップの魅力向上とPR ・若者や学生を街なかに呼び込む仕掛けの検討・実施 ・商店街を挙げた繁盛店の養成とPR・情報発信 ・地区内の不足業種・業態や人気ブランド等の誘致 など	○	・互の市の再開に当たり、中山間地の農産物等を販売。 ・ライオン像のある館で様々な貸館イベントを実施。 ・直江津ショッピングセンター内に無印良品直江津が出店。
	○街なかにおける案内機能の充実 ・公共施設における案内機能の強化 ・拠点施設を活用した街なか情報の発信 ・地区公認の案内場所、店舗等の設置 ・チラシ、情報誌等の共有と配布 など	○	・直江津まちづくり活性化協議会が、みどころガイドを発行。直江津ショッピングセンター、うみがたり、D51 レールパーク、直江津学びの交流館、観光案内所等の拠点施設に配置。

基本方針3 居住環境の改善	○まちの将来像や在り方についての議論・検討 ・モデル地区におけるワークショップの開催 他	○	・モデル地区において、ワークショップ等を実施。 ・各種支援制度の運用を開始。
(両地区共通) まちの力を維持・強化するための取組	○地区内居住人口の維持・増加 ・居住環境の実態把握 ・地区内におけるモデル的な取組の実施 ・街なか居住促進施策の具体化検討 ・街なかへの事業所誘致による昼間人口の増加 他	△	・まちなか居住モデル事業等が実施されているが、居住人口の維持には至っていない。
	○商業機能の維持・拡充 ・後継者の有無、事業承継意向の実態調査 ・事業承継に関する個別相談会、セミナーの実施 ・商店街における最適なテナント構成(業種業態)の実現 ・最寄品取り扱い店舗の配置替え(利用者目線の配置バランスの適正化) ・地区内に不足する業種や業態の商業店舗の誘致 ・町家の商業店舗への転用促進 他	△	・各種調査や個別相談会などの取組が行われているが、事業所の減少や空き店舗の発生が継続している。
	○空き地、空き家、空き店舗の解消 ・空き地、空き家、空き店舗の詳細把握 ・街なかへの起業、出店支援 ・街なか居住促進施策との連携 ・空き地、空き家、空き店舗見学会の実施 他	○	・市の補助金を活用し、12 店が新規出店(R2～5 年度)。 ・空き店舗の状況を調査し、Webサイトにより情報発信。
	○公共交通の利便性向上 ・市街地を経由する公共交通の維持 ・公共交通乗継ぎの円滑化 ・街なかの歩行環境の改善 ・公共交通待合所の機能拡充(憩い、娯楽、買物など) ・地域と公共交通機関との連携 他	○	・安全・安心な運行のため、鉄道事業者及びバス事業者を支援。 ・バスロケーションシステムの導入による利便性の向上。
	○まちづくり会社の機能強化 ・事業コーディネート能力の向上 ・地区内企業へのコンサルティング力の向上 ・商店街、商工団体への収益事業の提案及び実施支援 ・地区内への商業店舗、事業所誘致 他	○	・商店街や市民団体等の事業立案やイベント運営等をサポート。 ・補助金の申請事務等を支援。

2 第3期プログラム期間中の各種取組主体へのフォローアップ(現状評価と今後の方向性の確認)

(1) 令和2年度フォローアップの概要

- ・ 商工団体や市民活動団体（高田地区 20 団体、直江津地区 15 団体）を対象に「第3期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和2年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認。
- ・ 第3期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で 20 団体中 13 団体（65%）、直江津地区で 15 団体中 6 団体（40%）となり、コロナ禍においても基本方針に基づいた取組を実施した団体があった一方で、約半数の団体が取り組むことができなかった。
- ・ 取組事例としては、高田地区では、人数や来場時間を制限した事前予約制による本町ハロウィンまわりの開催や、在日外国人をターゲットとした高田本町クリアファイル(英語表記)の作製・配布によるPR事業などに取組まれた。直江津地区では、「直江津見どころガイド&マップ」の発行や、まちなかの主要な花壇への「青い花」の植樹による景観整備や魅力の向上などに取組まれた。
- ・ 一方で、「取り組んでいない」と回答した団体の理由・課題としては、「コロナ禍により集客事業の実施が困難であったこと」や「事業の担い手の不足や高齢化」といった理由・課題が挙げられた。
- ・ 令和3年度に取り組みたいことや検討していることとしては、多くの団体から「コロナ前に実施していた事業を実施したい」という声があった。このほか、「アーケードを散歩するペット愛好家をターゲットとした事業の検討」や「関係他団体との交流や連携を強化したい」など中心市街地の活性化に向けて前向きに検討している団体もあった。
- ・ また、中心市街地の活性化に向けた意見として、空き店舗解消に向けた出店希望者や利活用者への情報発信の強化や、物件調査費や改装費などテナント誘致に係る支援の強化を求める声があった。
- ・ 今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携を図りながら、団体の取組の実現に向け支援していくことにより、両地区の目指すまちの将来像の実現を目指していく必要がある。
- ・ 併せて、中心市街地で活動する商工団体や市民活動団体の掘り起こしを進めるとともに、各団体の活動について相互に情報共有し連携を図っていけるようプラットフォームづくりを行う必要がある。

参考)アンケート回答の一部を抜粋

○令和2年度に基本方針に基づいて取組まれた内容

団体名	内 容
高田本町まちづくり(株)	人数や来場時間を制限した事前予約制による本町ハロウィン祭りの開催
インバウンドで本町を盛り上げるおかみさんの会	在日外国人をターゲットにした英語表記の「高田本町クリアファイル」を作製・配布することによるPR
城下町高田花ロード実行委員会	観桜会時期に高田城址公園の枝折れ桜を商店街に飾るなど、エリア間の連携によるまちなか回遊の促進
街並みFOCUS	景観保全のためエアコン室外機の格子作りや雁木柱色塗り実施
直江津まちづくり活性化協議会	直江津見どころガイド&マップの発行・配布によるまちなか回遊の促進
みずいろ実行委員会	景観の整備や魅力向上のため、まちなかの主要な花壇へ青い花を植樹する「青い花の道」を実施

○令和3年度に取り組みたいことや検討していること

団体名	内 容
(株)イレブンビル	魅力ある店舗となるべく、使いやすい駐車場整備、テナント販売商品に対する専門家の指導の教授
(株)三井企画	ペット愛好家をターゲットとした事業の検討
高田寺町まちづくり協議会	「浄興寺大門通り協議会」や新たに発足された「高田寺町モミジの会」との交流・連携
直江津駅前商店街振興組合	互の市に代わる定期的な催しの企画・開催

○中心市街地の活性化に向けた意見・提案

団体名	内 容
お馬出しプロジェクト	構成員の高齢化・人手不足の解消を目的に「まちづくり応援隊」のような人材バンクができないか
上越市本町四丁目商店街振興組合	空き店舗に新規出店を検討している方や利活用者に対しての情報発信の強化が必要
直江津商店連合会	空き店舗解消に向けた商店街組織を対象とした物件調査費や改装費などテナント誘致に係る支援の強化が必要

(2) 令和３年度フォローアップの概要

- ・商工団体や市民活動団体（高田地区 20 団体、直江津地区 15 団体）を対象に「第 3 期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和 3 年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認した。
- ・第 3 期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で 20 団体中 18 団体（90%）、直江津地区で 15 団体中 8 団体（53%）であり、コロナ禍においても基本方針に基づいた取組を実施した団体が多い結果となった。
- ・しかしながら、コロナ禍により取組の規模の縮小や取組そのものを中止した団体も多かったほか、コロナ禍で落ち込んだ売上や集客に対応する取組が多く、本来取り組みたい内容が思うように実施できていない状況が多くみられた。
- ・取組事例としては、高田地区では、プレミアム付商品券の発行や季節に合わせたイベントを実施し、誘客を図ったほか、雁木の柱の色塗りや風鈴を飾るなど、景観の整備にも取り組まれた。直江津地区では、「直江津見どころガイド&マップ」、「直江津地区商店街ショッピングガイド&マップ」の発行や、商店街の大売り出しイベント、互の市広場における「パン&スイーツまつり」イベントの開催など、直江津の魅力発信と街なか回遊の促進に取り組まれた。
- ・一方で、「取り組んでいない」と回答した団体の理由・課題としては、「コロナ禍により集客事業の実施が困難であったこと」や「会員の高齢化や環境の変化による熱意と意識の低下」といった理由・課題が挙げられた。
- ・令和 4 年度に取り組みたいことや検討していることとしては、DX（デジタルトランスフォーメーション）を取り入れた事業の実施や関係団体と連携した取組の実施のほか、令和 3 年度から徐々に事業を再開している団体からは「令和 3 年度に実施した事業を継続していきたい」という声が多くあった。
- ・また、中心市街地の活性化に向けた意見として、マンション建設などの街なか居住の推進やテナント誘致の支援を求める声があったほか、中心市街地に進出した新しい業種やビジネスとの連携や環境の整備に取り組むたいとの声があった。
- ・今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携を図りながら、団体の取組の実現に向け支援していくことにより、両地区の目指すまちの将来像の実現を目指していく必要がある。

参考)アンケート回答の一部を抜粋

○令和 3 年度に基本方針に基づいて取り組まれた内容

団体名	内 容
本町 3.4.5 商店街振興組合連合会	プレミアム付商品券の発行やアーケード下を活用して季節に合わせたイベントを行った。特に新たに実施した「春のパン祭り」は大盛況であった
(株)イレブンビル	広場、アーケード内にて野菜や果物の継続的な販売やジャズ等の音楽演奏会イベントを開催し、テナントの集客にも波及
越後高田・雁木ねっとわーく	雁木の軒下に風鈴を飾り、景観整備を図ったほか、「雁木の魅力写真コンテスト」を実施し、応募作品を活用して雁木を紹介する冊子を 2,000 部発行することで、雁木の魅力を市内外に発信した

上越オープンガーデン愛好会	上越オープンガーデンと花めぐりの実施と上越遠足ガーデンを実施し、花を介した人々の交流の創出と、美しいまちづくりに貢献
直江津まちづくり活性化協議会	「直江津見どころガイド&マップ 2021 年度版」、クーポン付きパンフレット「お得！名店巡り」の発行・配布による街なか回遊の促進
直江津菓子組合	11 月 3 日に互の市広場にて「パン & スイーツまつり」イベントを開催し、約 5,000 人が来場
みずいろ実行委員会	うみまちアート会期中に「Tシャツアート」イベントをエルマールにて開催

○令和 4 年度に取り組みたいことや検討していること

団体名	内 容
本町ゆめカード協同組合	スマートフォンを活用したポイント事業
高田駅前通り雁木の会	高田駅振興会やトキめき鉄道と連携した駅前広場を含む高田駅前通りの活性化につながる取組の実施
直江津商店連合会	直江津屋台会館の利活用による加盟店の商品販売

○中心市街地の活性化に向けた意見・提案

団体名	内 容
お水鉢プロジェクト	新しい商店街の使い方の検討や、商店街に入ってきた新しい業種との連携による活性化
雁木のまち再生	小規模ながらもシェアオフィスやアトリエ、スタジオなど、少人数で省力化された「空間と時間を利用する」ビジネスの創造
直江津商店連合会	空き店舗の解消に向け、商店街組織を支援対象としたテナント誘致支援補助事業の創設

(3) 令和 4 年度フォローアップの概要

- ・商工団体や市民活動団体（高田地区 22 団体、直江津地区 18 団体）を対象に「第 3 期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和 4 年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認した。
- ・第 3 期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で 22 団体中 22 団体（100%）、直江津地区で 18 団体中 13 団体（72%）であり、コロナ禍においても基本方針に基づいた取組を実施した団体が大多数となった。
- ・取組事例としては、高田地区では、プレミアム付商品券の発行や季節に合わせたイベントを実施して誘客を図ったほか、雁木の柱の色塗りなど、景観の整備にも取り組んだ。直江津地区では、「直江津見どころガイド&マップ」の発行や「直江津まちなか回遊促進プロジェクト」Web サイトの開設、プレミアム付商品券発行事業、直江津地区で開催された各団体のイベントでの連携など、直江津の魅力発信とまちなか回遊の促進に取り組んだ。
- ・一方で、「取り組んでいない」と回答した団体もあり、その理由・課題として人材不足（主に関係者の高齢化）や資金不足を挙げている。この点は、他の団体においても今後の課題としている。
- ・令和 5 年度に取り組みたいことや検討していることとしては、高田地区と直江津地区の回遊を促す事業の実施やコロナ禍により取組の規模の縮小または中止していたイベントをコロナ禍前の規模で開催したいという回答があった。
- ・また、中心市街地の活性化に向けた意見として、テナント誘致や空き店舗解消に向けた支援を求めるものや、季節ごとのイベントに合わせて商店街へ誘客する企画を行いたいとの回答があった。
- ・今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携に加えて、取組を実施する団体間の交流や連携を図ることで、互いの取組の補完や相乗効果の発揮を目指していく必要がある。

参考)アンケート回答の一部を抜粋

○令和 4 年度に基本方針に基づいて取り組まれた内容

団体名	内 容
本町 3.4.5 商店街振興組合連合会	プレミアム付商品券の発行やアーケード下を活用して季節に合わせたイベントを行った。また、Instagram の投稿を強化し、フォロー一数の増加につなげた
越後高田・雁木ねっとわーく	「雁木の魅力写真コンテスト」を開催し、多くの場所で写真の展示を行い、雁木の魅力を市内外に発信した
上越オープンガーデン愛好会	「オープンガーデンと花めぐり」と「遠足ガーデン」を実施し、花を介した人々の交流を促し、美しいまちづくりに貢献した。
街なみ FOCUS	雁木柱の色塗りや雁木上の冷暖房室外機に格子を取り付けるなど景観保全のための作業を行った
直江津まちなか回遊促進プロジェクト実行委員会	当プロジェクトの Web サイトの開設、街なかのバス停に Web サイトへアクセス可能な QR コードの設置による街なか回遊の促進
なおえつ うみまちアート実行委員会	うみまちアート 2022 の開催

○令和 5 年度に取り組みたいことや検討していること

団体名	内 容
高田駅前通り雁木の会 高田駅振興会	高田・直江津商店街の連携によるトキめき鉄道を利用したスタンプラリー
(株)イレブンビル	広場を有効活用した、ジャズやポップ等の音楽演奏会イベント
直江津駅前商店街振興組合	「互の市」の復活を契機とした、まちなか回遊や街の情報発信等

○中心市街地の活性化に向けた意見・提案

団体名	内 容
高田本町まちづくり(株)	空き店舗等の中心市街地遊休資産の活用に向け、出店相談窓口の設置や十分な空き店舗調査が可能な予算編成
高田駅前通り雁木の会	季節ごとのイベント(春の観桜会、夏の観蓮会、秋の越後・謙信SAKE まつり、冬のレルヒ祭)に合わせた本町商店街への観光客の誘導企画
JR 東日本 OB 会直江津支部	D51 レールパークや水族博物館の入場券に商店街割引券や福引券を添付するなど、まちなか回遊を促進する施策を展開する。また、直江津の特徴ある名物を作り出す。

(4) 令和 5 年度フォローアップの概要

- ・令和 6 年 3 月に、商工団体や市民活動団体（高田地区 23 団体、直江津地区 18 団体）を対象に「第 3 期中心市街地プログラムの取組状況に関するアンケート調査」を実施し、令和 5 年度の取組状況の確認や各団体が抱えている課題、次年度以降の取組について確認した。
- ・第 3 期プログラムの基本方針に基づいた事業に「取り組んだ」と回答した団体は高田地区で 23 団体中 18 団体（78%）、直江津地区で 18 団体中 14 団体（78%）であり、大多数の団体が基本方針に基づいた取組を実施した。
- ・取組事例としては、高田地区では、季節に合わせたイベントの実施や、直江津地区及び上越妙高駅周辺と連携してプレミアム付商品券を発行し誘客を図ったほか、町家を改修した新規出店が見られた。直江津地区では、近年開催していなかったイベントを復活させ、また、「うみがたり 5 周年記念イベント」を開催するなどして、にぎわい創出とまちなか回遊の促進に取り組んだ。

- ・両地区の空き店舗解消に向けた取組として、商店街の物件情報を取りまとめ、Web サイトをリニューアル公開した。
- ・こうした取組の一方で、「取り組んでいない」と回答した団体は両地区合計で 41 団体中 9 団体(22%)あり、その理由・課題として人材不足（主に関係者の高齢化）や資金不足を挙げている。
- ・令和 6 年度に取り組みたいことや検討していることとしては、能登半島地震などを受け、被害のあった施設の補修や、防災に関する啓発イベントを実施したいという回答があった。
- ・また、中心市街地活性化に向けた意見として、他の団体やイベントとの連携や、通年観光計画に合わせた取組など、各団体の垣根を越えた事業の実施を求めるものや、若者を対象とした出店支援との回答があった。
- ・今後、引き続きプログラムを推進するにあたっては、まちづくり会社や上越商工会議所など関係機関との連携に加えて、取組を実施する団体間の交流や連携を図ることで、互いの取組の補完や相乗効果の発揮を目指していく必要がある。

参考) アンケート回答の一部を抜粋

○令和 5 年度に基本方針に基づいて取り組まれた内容

団体名	内 容
本町三丁目、四丁目、五丁目 商店街振興組合	アーケード、駐車場、音響などの共有施設の改修を行い、来訪者の利便性の向上を図った。
本町 345 商店街連合会	直江津地区や上越妙高駅周辺と連携したプレミアム付商品券の発行やアーケード下を活用した季節に合わせたイベントを行った。
雁木のまち再生	雁木町家の空き家を新規取得・改修し、オフィスやギャラリー、住宅として提供した。
直江津まちづくり活性化協議会の 関係者等で組織する実行委員会	「うみがたりオープン 5 周年記念イベント」や「なおえつ鉄道まつり」を開催し、にぎわい創出やまちなか回遊の促進を図った。
直江津駅前商店街振興組合 直江津西部商工振興会	休止していた「互の市」及び「安国寺稻荷神社・府中八幡秋祭り協賛イベント」を開催し、活性化につなげた。

○令和 6 年度に取り組みたいことや検討していること

団体名	内 容
越後高田・雁木ねっとわーく	雁木の写真コンテストの実施や通年ガイドができる体制づくり。
(株)イレブンビル	高田商業高校 Rikka とコラボしたイベントの開催。
直江津駅前商店街振興組合	「互の市」はもちろん、その他事業も含め「地域住民の満足度向上（居住推進・生きがいアップ）や「来街者の街への好感度向上（街のファンづくり）」を目指す。

○中心市街地の活性化に向けた意見・提案

団体名	内 容
越後高田・雁木ねっとわーく NPO 法人高田髻女の文化を保存・発信する会	町家を利用する若者の出店に対する支援が必要。大町 5 丁目を中心に景観整備が進んでおり、若者の店舗が増えているので、この動きを本町 6、7 丁目まで広げていく。
浄興寺大門通りまちづくり協議会 (寺町2丁目町内会)	通年観光計画にあわせ、行政・まちづくり協議会・企業が一体となり、協力体制や連絡を密にし、市街地の活性化に向けて努力してはどうか。
百年商店街実行委員会	イベントを企画する時に集客の相乗効果を目的として、他の団体やイベントと連携することは有効である。